

はじめに

緑の少年団の皆さんをはじめ、日頃よりご指導いただいております先生方、地域の皆様方におかれましては、県下各地域において緑の少年団活動に熱心に取り組んでいただき、心から感謝申し上げます

緑の少年団活動は、緑とのふれあいを通して、郷土を愛し、自然に親しむ、心豊かで健全な青少年の育成を目的とするものであり、今年度は、現在県下で111団、約1万人の団員が各地で様々な活動を展開しています。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制限の中での活動を余儀なくされた一年でありましたが、各少年団から提出された活動報告を拝見すると、困難な状況においても、工夫しながら様々な緑化活動をされており、また、松山市の「日浦緑の少年団」におかれましては、これまでの活動が認められ、全国緑の少年団表彰のうち、最も優れた団に贈られる「みどりの奨励賞（国土緑化推進機構理事長賞）」を受賞されるなど、明るく元気に活躍されている姿は、大変心強く、改めて、この活動の大切さを感じています。

こうした中、近年では、2050年カーボンニュートラルを目指すグリーン社会の実現のため、森林環境教育・森林ESDが注目されており、緑の少年団活動の今後一層の活動促進が期待されています。

県連盟におきましても、皆さんの取組みを引き続き支援するとともに、素晴らしい活動を広くアピールしていきたいと考えておりますので、御協力をお願いいたします。

最後に、この会誌の作成にあたり、活動を報告いただきました各少年団をはじめ、関係者の皆さまに対し、深く感謝を申し上げますとともに、本誌を今後の緑の少年団活動に広く活用していただければ幸いです。

令和5年3月

緑の少年団愛媛県連盟

会長 山本 浅幸

も く じ

○令和4年度 緑の少年団愛媛県連盟事業等について	1	
○令和4年度 緑の少年団活動報告	3	
■四国中央市		
① 「高文珠山緑の少年団」の活動紹介	高文珠山緑の少年団	3
② 川滝小学校緑の少年団活動	川滝小学校緑の少年団	4
③ 花と緑とともに ～自然を愛する柏っ子～	松柏緑の少年団	5
④ 「寒川小学校緑の少年団」の活動紹介	寒川小学校緑の少年団	6
⑤ 土居小学校 緑の少年団活動	土居小学校緑の少年団	7
⑥ 新宮小・中学校緑の少年団活動	新宮小・中学校緑の少年団	8
■新居浜市		
⑦ 大生院小学校緑の少年団活動	大生院小学校緑の少年団	9
■西条市		
⑧ 緑の少年団活動を通して地域とつながろう	橘小学校緑の少年団	10
⑨ 小松小学校緑の少年団活動	小松小学校緑の少年団	11
⑩ 地域で学ぶ緑の少年団活動	石根小緑の少年団	12
⑪ 庄内緑の少年隊の活動	庄内緑の少年隊	13
⑫ 生長と成長	徳田小緑の少年団	14
⑬ 田滝小緑の少年隊の活動	田滝小緑の少年隊	15
⑭ 周布小緑の少年団 活動報告	周布小緑の少年団	16
■今治市		
⑮ 吹揚小学校緑の少年団花いっぱい活動	吹揚小学校緑の少年団	17
⑯ 「常盤緑の少年団花いっぱい隊」の活動	常盤緑の少年団	18
⑰ 「今治市立花緑の少年団」の活動	今治市立花緑の少年団	19
⑱ ふるさと桜井の自然を大切にしています	今治市桜井緑の少年団	20
⑲ 今治市立富田小学校緑の少年団の活動紹介	今治市立富田小学校緑の少年団	21
⑳ 今治市日高小学校緑の少年団の活動紹介	今治市日高小学校緑の少年団	22
㉑ 乃万小学校緑の少年団の活動	乃万小学校緑の少年団	23
㉒ 今治市立国分小学校緑の少年団活動報告	今治市立国分小学校緑の少年団	24
㉓ 「朝倉緑の少年団」の活動報告	朝倉緑の少年団	25
㉔ 鴨部小緑の少年団の活動	鴨部小緑の少年団	26
㉕ 九和小緑の少年団の活動	九和小緑の少年団	27
㉖ 波方小学校緑の少年団活動	波方小学校緑の少年団	28
㉗ 大西小緑の少年団の活動	大西小緑の少年団	29
㉘ 亀岡小学校緑の少年団活動	亀岡小学校緑の少年団	30
㉙ 吉海小学校緑の少年団の活動	吉海小学校緑の少年団	31
㉚ 宮窪小学校 宮窪緑の少年団の活動	宮窪緑の少年団	32
㉛ 伯方小学校緑の少年団の活動	伯方小学校緑の少年団	33
㉜ 上浦緑の少年団の活動	上浦緑の少年団	34
㉝ 別宮小学校緑の少年団の活動	別宮小学校緑の少年団	35
㉞ 鳥生緑の少年団の活動紹介	鳥生緑の少年団	36
㉟ 近見小学校の緑少年団の活動紹介	近見小学校緑の少年団	37
㊱ 今治市立清水小学校緑の少年団活動報告	今治市立清水小学校緑の少年団	38
㊲ 波止浜緑の少年団の活動	波止浜緑の少年団	39
㊳ 菊間小学校緑の少年団活動報告	菊間小学校緑の少年団	40
㊴ 大三島小学校緑の少年団の活動	大三島小学校緑の少年団	41

■上島町

- ④⑩ 魚島で「幸せの緑」を育てよう
- ④⑪ 緑あふれる弓削島に！
- ④⑫ 上島町生名小緑の少年団活動
- ④⑬ 上島町岩城小緑の少年団活動

■松山市

- ④⑭ 味酒小学校緑の少年団の活動紹介
- ④⑮ 松山市立東雲小学校緑の少年団活動
- ④⑯ 花いっぱい为学校に～令和4年度の活動～
- ④⑰ 「河中緑の少年隊」の活動について
- ④⑱ 元気いっぱい、花いっぱい、坂本緑の少年団
- ④⑲ 松山市立双葉小学校緑の少年隊活動報告
- ④⑳ 姫山小学校緑の少年団の栽培活動
- ⑤① 育てた野菜でピザづくり
- ⑤② 笑顔と花が咲き誇る学校・地域をめざして
- ⑤③ 北条小学校緑の少年団活動
- ⑤④ 日浦を心のふるさとへ
- ⑤⑤ 愛大附属緑の少年団活動報告
- ⑤⑥ 難波小学校緑の少年団活動 ～花いっぱいの学校に～

■東温市

- ⑤⑦ 地域の自然に学び、感謝する緑の少年隊活動
- ⑤⑧ 西谷緑の少年隊活動紹介

■伊予市

- ⑤⑨ 北山っ子緑の少年隊活動報告
- ⑤⑩ 中山小学校緑の少年隊の活動紹介
- ⑤⑪ 佐礼谷小学校 緑の少年隊活動
- ⑤⑫ 下灘小学校 緑の少年団活動
- ⑤⑬ 由並小学校 緑の少年団活動報告
- ⑤⑭ 港南中学校みどりの少年隊活動紹介
- ⑤⑮ 伊予中学校の活動
- ⑤⑯ 双海中学校 緑の少年団活動

■砥部町

- ⑤⑰ 麻生小緑の少年団活動
- ⑤⑱ 宮内小緑の少年隊活動
- ⑤⑲ 砥部小学校緑の少年団活動
- ⑤⑳ 広田小学校緑の少年団の活動

■久万高原町

- ⑤⑴ 花と緑が紡ぐつながり
- ⑤⑵ 久万小緑の少年隊活動
- ⑤⑶ 畑野川緑の少年隊の活動
- ⑤⑷ 「直瀬緑の少年隊」の活動
- ⑤⑸ 父二峰緑の少年隊の活動
- ⑤⑹ 面河小緑の少年団の活動紹介
- ⑤⑺ 仕七川小緑の少年団活動
- ⑤⑻ 美川小緑の少年団活動
- ⑤⑼ 久万中 緑の少年団 活動報告
- ⑤⑽ 美川中緑の少年隊 活動報告

- 上島町魚島緑の少年団……………42
- 上島町弓削小緑の少年団……………43
- 上島町生名小緑の少年団……………44
- 上島町岩城小緑の少年団……………45

- 味酒小学校緑の少年団……………46
- 松山市立東雲小学校緑の少年団……………47
- 松山市立湯築小学校緑の少年団……………48
- 河中緑の少年隊……………49
- 坂本緑の少年団……………50
- 松山市立双葉小学校緑の少年隊……………51
- 姫山小学校緑の少年団……………52
- 立岩緑の少年団……………53
- 正岡小学校緑の少年団……………54
- 北条小学校緑の少年団……………55
- 日浦緑の少年団……………56
- 愛大附属緑の少年団……………57
- 難波小学校緑の少年団……………58

- 上林ささゆり緑の少年隊……………59
- 西谷緑の少年隊……………60

- 北山崎小学校緑の少年隊……………61
- 中山小学校緑の少年隊……………62
- 佐礼谷小学校緑の少年隊……………63
- 下灘小学校緑の少年団……………64
- 由並小学校緑の少年団……………65
- 港南中学校みどりの少年隊……………66
- 伊予中緑の少年隊……………67
- 双海中学校緑の少年団……………68

- 麻生小緑の少年団……………69
- 宮内小緑の少年隊……………70
- 砥部小学校緑の少年団……………71
- 広田小学校緑の少年団……………72

- 明神小緑の少年隊……………73
- 久万小緑の少年隊……………74
- 畑野川緑の少年隊……………75
- 直瀬緑の少年隊……………76
- 父二峰緑の少年隊……………77
- 面河小緑の少年団……………78
- 仕七川小緑の少年団……………79
- 美川小緑の少年団……………80
- 久万中学校緑の少年団……………81
- 美川中緑の少年隊……………82

■大洲市

81 肱川小学校緑の少年隊	肱川小緑の少年隊……………83
82 肱川中学校 緑の少年団の活動	肱川緑の少年団……………84
83 大洲東中学校 花づくりの取組	大洲東中学校緑の少年団……………85
84 大洲南中学校の取組	大洲南中学校緑の少年団……………86
85 平野中緑の少年団活動	平野中緑の少年団……………87
86 平野小学校緑の少年団活動	平野小学校緑の少年団……………88

■内子町

87 立川小緑の少年団 ～自然いっぱい立川・ふるさと大好き立川～	立川小緑の少年団……………89
----------------------------------	-----------------

■八幡浜市

88 神山小学校 緑の少年団の活動	神山小学校緑の少年団……………90
89 日土小学校緑の少年団の活動	日土小学校緑の少年団……………91
90 喜須来小緑の少年団の活動	喜須来小緑の少年団……………92

■伊方町

91 伊方小緑の少年隊の紹介	伊方小緑の少年隊……………93
92 九町小学校緑の少年隊の活動	九町小学校緑の少年隊……………94
93 三机小学校緑の少年隊の活動	三机小学校緑の少年隊……………95
94 瀬戸中学校緑の少年団の活動紹介	瀬戸中学校緑の少年団……………96
95 三崎小緑の少年隊の活動	三崎小緑の少年隊……………97
96 伊方中学校緑の少年隊活動	伊方中学校緑の少年隊……………98
97 三中緑の少年隊活動	三崎中学校緑の少年隊……………99

■西予市

98 嗚呼、楽しい田之筋緑の少年活動	田之筋緑の少年団…………… 100
99 野村小緑の少年隊の活動	野村小学校緑の少年隊…………… 101
100 明浜小緑の少年団の活動	明浜小緑の少年団…………… 102
101 三瓶小学校緑の少年団活動	三瓶小学校緑の少年団…………… 103
102 皆田小緑の少年団の活動紹介	皆田小緑の少年団…………… 104
103 城川中学校 緑の少年団の活動紹介	城川中学校緑の少年団…………… 105
104 惣川小緑の少年団活動	惣川小緑の少年団…………… 106

■宇和島市

105 成妙緑の少年団だより	成妙緑の少年団…………… 107
106 清満緑の少年隊活動	清満緑の少年隊…………… 108

■松野町

107 緑の少年団活動を通して	森の国緑の少年団…………… 109
-----------------	-------------------

■鬼北町

108 令和4年度 愛治緑の少年団の活動	愛治緑の少年団…………… 110
109 日吉みどりの少年団の活動	日吉みどりの少年団…………… 111
110 三島小・戸祇の子緑の少年団の活動	三島小・戸祇の子緑の少年団…………… 112

■愛南町

111 令和4年度 篠南緑の少年隊活動報告	篠南緑の少年隊…………… 113
-----------------------	------------------

○資料編

緑の少年団の概要……………	116
緑の少年団愛媛県連盟規約……………	117
緑の少年団愛媛県連盟 役員名簿……………	119
緑の少年団学校別一覧表……………	120

令和4年度 緑の少年団愛媛県連盟事業等について

緑の少年団活動事業

緑の少年団の新規結成の促進及び少年団活動の活性化を図るため、次のとおり助成事業を実施しました。

- ・ 装備整備事業 5団
- ・ 団体活動事業 111団

緑の募金への協力

各市町において、緑の少年団として募金に協力しました。



日土小学校緑の少年団



喜須来小緑の少年団

表彰

令和4年度の緑の少年団関係の表彰を紹介します。

- 令和4年度全国緑の少年団表彰（公社）国土緑化推進機構主催

日浦緑の少年団（松山市） みどりの奨励賞（国土緑化推進機構理事長賞）

（全国育樹祭行事の一環として行われるもので、緑の少年団の相互研さんを目的に全国の優れた緑の少年団を選抜し、表彰するものです。）



功績概要

学校前の「あいロード」における緑化活動のほか、重機操作や間伐作業等の林業体験により、林業に対する勤労観や職業観を醸成することで、町の基幹産業である林業への興味、関心が培われるなど、地域活性化にも貢献しています。

●令和4年度緑の少年団育成成功労賞（公社）国土緑化推進機構主催

山内 翔平さん（鬼北町） 緑の少年団育成成功労賞

緑の少年団の育成に顕著な成果を上げ、他の模範となる育成会または緑の少年団の育成に著しく貢献した個人を表彰するものです。

功績概要



鬼北町内の緑の少年団の児童に対し、森林や、川上～川下までの林業の一連の流れを学ぶ森林・林業教室を開催しています。平成29年度から令和2年度は毎年一校を選定して開催しており、令和3年度は緑の少年団2校を含む、合計3校で開催するなど、未来の林業の担い手や、地元へ愛着を持つ児童の育成に取り組むことで、地域貢献にもつながっています。

その他事業の活用事例

緑の少年団活動に活用できる事業の活用事例等を紹介します（令和5年1月現在）。詳細は事務局まで。

●緑の少年団活動促進事業（公社）国土緑化推進機構）

※事例：県内A小学校 30万円の補助を受け、学校林活動や、木工体験の資材を購入。

外部に講師依頼をして充実した活動を展開。

●その他

- ・緑と水の森林ファンド事業（公社）国土緑化推進機構）……助成額：1年間で上限100万円
- ・緑の募金公募事業（公社）国土緑化推進機構）……………助成額：1年間で上限200万円

令和4年度 緑の少年団活動報告

緑の少年団だより

①

金生第二小学校

「高文珠山緑の少年団」の活動紹介

高文珠山緑の少年団（四国中央市立金生第二小学校 教諭）永易 朗

1 はじめに

たかもんじゅやま
「高文珠山緑の少年団」は、今年度131名が入団し、名前の由来となっている高文珠山とその裾野に広がる森を中心に、緑とのふれ合いを通して、「緑に親しみ、緑を愛し、緑を育てる」活動を行っています。その野外活動でふるさとの自然のすばらしさを実感するとともに、共に活動することの楽しさを味わいながら仲間との絆を深めています。また、一人一鉢の花の栽培を行うことで、身の回りの環境を大切にする心の育成にも努めています。コロナウイルス感染拡大防止のため、行事の縮小が続いていますが、継続して活動してきたことを紹介いたします。

2 主な活動の紹介

(1) 緑の少年団結団式

毎年4月に高文珠山登山を全校児童で行い、頂上で緑の少年団結団式を行うことが伝統行事となっています。

(2) にこにこ森の散策

毎年、秋と冬に、近くの公園に通じる山道周辺の雑木林（「にこにこ森」と呼んでいます。）に、1～6年生の異学年で編成したにこにこ班で出かけ、散策を行っています。秋には、「秋を見つけよう」をめあてに、森の中にある様々な「秋」を見つけながら森の中を歩いています。今年度は、いくつかの植物の写真を基にそれを探す活動や、班ごとに自然に親しみながら遊ぶ活動を行いました。冬の散策は、6年生とのお別れ遠足を兼ねていて、卒業前の思い出づくりとなっています。

(3) 一人一鉢栽培

一人一人が責任を持って自分の植えた花を大切にする一方で、自然に親しみ、緑を大切にしようとする気持ちを持たせたいと願い、毎年その時期に応じた花を一人一鉢ずつ育てています。初夏から秋にかけては、1年生は朝顔、2年生以上はマリーゴールドとサルビアを育てました。また、秋から初夏にかけては、1年生はチューリップとピオラ、3、5年生はピオラ、2、4、6年生はパンジーのお世話をしています。美しい花が咲くようにと大事そうに水やりをしたり、草引きや花がら摘みをしたりする姿が毎日見られます。そのおかげで、中庭にはいろいろな花がたくさん咲き、来校者を気持ちよく迎えています。



3 おわりに

金生第二小学校の児童は、高文珠山のすばらしい自然に親しむ活動を通して、ふるさとの自然を守ってほしいという気持ちが育っています。これからも、高文珠山緑の少年団として、また地域の一員として緑を守り育てる活動に取り組んでいこうと思います。

川滝小学校緑の少年団活動

川滝小学校緑の少年団（四国中央市立川滝小学校 教諭）村上裕美子

1 はじめに

本校は、愛媛県の東端に位置し、周囲を山に囲まれ自然に恵まれた地域にあります。川滝小学校緑の少年団は、全校児童21名で活動をしています。自然に親しみ、美しい環境づくりの奉仕に努めるとともに、心豊かに生きることを目標とし、年間を通して様々な体験活動に取り組んでいます。

2 主な活動内容

(1) 二人一組でのプランター栽培活動

全校児童が二人一組となり花の栽培をしています。1学期は日々草とマリーゴールド、2学期にはパンジーとピオラを植えました。緑の少年団（全校縦割り）班内で、上級生と下級生がペアを組み、異学年で片付けや植え付けの作業を行います。植えた後も、水やりや草引きなどの世話を通して花を大切にすることを育てています。また、プランターは校門を入ってすぐの児童玄関に並べているので、来校者を気持ちよく迎えてくれます。



〈二人一組でのプランター栽培〉

(2) 全校・学級での栽培活動

サツマイモの苗植えや野菜の栽培活動も行いました。夏はピーマン、キュウリ、オクラ、ミニトマト、ナス等の夏野菜を植えました。日々の成長を楽しみにしながら世話をし、収穫できた喜びを感じることができました。また、収穫物を持ち帰り、家庭でも喜びを分け合いました。秋には、公民館の方が焼きいもにしてくださり、地域の方との絆も深まりました。また、スイートポテトを作るなど、楽しく食と結び付ける活動も行いました。より深く自然との関わりを実感し、感謝の気持ちが育っています。



〈公民館の方との焼きいも〉

3 おわりに

植物を育てる活動を通して、自然の変化に驚いたり興味を持ったりしながら、豊かな心が育まれていると感じます。命の巡りを感じながら、自然を実感できる活動を、子どもたちと一緒に工夫し積み重ねていきたいと思えます。

花と緑とともに ～自然を愛する柏っ子～

松柏緑の少年団（四国中央市立松柏小学校 教諭）高橋 和紀

1 はじめに

松柏緑の少年団活動は、1990年に結成され32年目になりました。『自然に親しみ、自然を愛するとともにふるさとを愛し、美しい環境を整える奉仕に努め、心豊かな児童を育てること』を目指して、地域の方々の協力をいただきながら、5年生や緑化委員会を中心に緑の少年団活動に取り組んでいます。また、校区には国指定の天然記念物「下柏の大柏」、校内には芝生化された運動場など、緑あふれる環境の中、児童は生き生きと活動しています。

2 活動内容

(1) 5年生の林業教室・植樹体験

毎年5年生が、緑を愛する地域の方々（上柏公益会）に協力していただきながら、林業教室や植樹体験を行っています。昨年2月5日に開催された林業教室では、『山や森林の大切さについて』の話を聞き、社会科で学習した自然を守る活動や自然災害に備えた森林の役目についての理解をより深めることができました。その後、木のベンチを製作したり、校内に苗木を植えたりしました。児童は、自分たちが植樹した木々とともに成長していくことを楽しみにしているといった感想を発表しました。20年以上続く植樹体験によって、地域の方々とのつながりもできています。今年度も、2月に林業教室及び植樹体験を実施する予定です。



〈林業教室・製作した木のベンチ・植樹体験〉

(2) 委員会活動

花と緑の豊かな学校を目指して、緑化委員会で玄関前の花を育てています。月一度の委員会活動の時間には土づくりや花の植替え、常時活動として水やりや除草、花から摘みなどの世話をしています。また、プランターで育てた花々は、花束にして教室に飾ったり、卒業式や入学式の会場を華やかにしたりしています。



〈緑化委員会の常時活動〉

3 おわりに

校内外の緑化活動を通して、児童は身近な自然に親しみ、自然を愛する気持ちや優しさが育ってきています。また、地域の保存会の方々と一緒に活動することで、ふるさとを愛し大切にしようとする心も育ってきています。今後も、協力してくださっている地域の方々に感謝の気持ちを持って、緑の少年団活動に取り組んでいきます。

「寒川小学校緑の少年団」の活動紹介

寒川小学校緑の少年団（四国中央市立寒川小学校 教諭） 薦田 真央

1 はじめに

本校は、春は桜や菜の花、夏はアジサイ、秋は金木犀やイチョウの木、冬は椿など、自然を身近に感じることができます。全校児童の262名で結成した緑の少年団は、学校の緑を守るために活動しています。一人一人が少年団の一員として、緑に親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間を育成することを目標とし、年間を通して様々な活動に取り組んでいます。

2 主な活動紹介

(1) 地域の方との「花植えの会」

夏には、地域の方から「花を通して子どもたちが元気に、そして笑顔になるよう、また自然の大切さや生命の尊さを学びきっかけに」という願いからたくさんの苗をいただきました。6年生が中心となり、玄関にホウセンカ・千日紅・向日葵・ケイトウを植えました。秋には、四国中央市教育会の方から花苗を寄贈していただき、一緒に一つ一つ丁寧に植えました（写真1）。その後も世事に励んでいます。



〈地域の方と花植え（写真1）〉

(2) 花いっぱい活動

プランターや花壇で季節を彩る花の苗を植え、1年間、水やりや手入れを続けました。夏にかけては、マリーゴールド・サルビア等を植え、春に植えたサルビアは、12月まで花を咲かせました。冬にかけては、サクラソウ・パンジー・ノースポール等を植え、通年、校庭には花が咲き誇っています。

(3) 一人一鉢栽培

全校児童で一人一鉢の栽培活動として、春から夏にかけては、アサガオ・夏野菜・ホウセンカ・日日草・トレニアを、秋から冬にかけては、チューリップ・ノースポール・ピオラを育てました。朝、登校してくると自分の植えている植物に水をやり、草抜きや花がら摘みをするなど、大切に育てています（写真2）。



〈朝の水やり（写真2）〉

3 おわりに

学校を花いっぱいにするすることで、休み時間に花壇周辺の虫を採取したり、落ちていた花びらを拾って花束にしたりするなど、自然に親しむ姿もたくさん見ることができました。これからも、故郷をもっと好きになり、自然を愛する心を育てていきたいと思います。

土居小学校 緑の少年団活動

土居小学校緑の少年団（四国中央市立土居小学校 教諭）青木 聡

1 はじめに

本校は、四国中央市の西部に位置し、山や川などの豊かな自然に恵まれた地域にあります。全校児童は179名で、季節に応じた栽培活動や環境美化活動に取り組んでいます。

2 主な活動内容

(1) 全校での栽培活動

5月に、一人一鉢運動として、1年生はアサガオ、2年生は夏野菜、3年生はホウセンカ、4年生はジニア、5年生はトレニア、6年生はマリーゴールドを植え大切に育てました。秋は植え替えを行い、1年生はチューリップ、2年生はピオラ、3年生はキンセンカ、4年生はパンジー、5年生はサクラソウ、6年生はマーガレットを育てています。4～6年生は、三人で一つのプランターに花を植え、声を掛け合って世話をしています。初めは小さかった苗が根を張り、大きく花を咲かせている姿を楽しみながら、水やりや草引き、肥料やりなどの活動に取り組んでいます。また、卒業式や入学式でこれらの花が会場を彩るのを楽しみにして、世話を続けています。



〈マーガレットのお世話〉

(2) 環境美化活動

6月に、全校児童と地域、保護者が協力し、学校内のゴミ拾いや草引きを行いました。きれいになった校庭や校舎周辺を見て、活動に対しての達成感や学校を美しく保つことの大切さを味わうことができました。



〈みんなで、学校をきれいに〉

(3) 委員会活動

栽培委員会の活動として、月一度の委員会の時間に、土づくりや校内の花壇の花の植え付けや世話、花の育て方についての掲示物作りなどを行いました。また、花壇の水やりや花がら摘み、草引きなどを、当番制で毎朝行っています。

3 おわりに

子どもたちは、朝、学校へ来ると花や野菜に水をやり、世話をしながらよく観察しています。そして、世話を続けることの大切さを感じるとともに、美しい花が咲く喜びやおいしい野菜を収穫する喜びを味わうことができました。

これからも緑化活動を通して、身近な自然に親しみ、自然を愛し、大切にすることを育てていきたいと思えます。



〈栽培委員会による花壇の水やり〉

新宮小・中学校緑の少年団活動

新宮小・中学校緑の少年団（四国中央市立新宮小・中学校 教諭）長崎 陽司

1 はじめに

本校は、愛媛県東端の山間部に位置し、標高は206m、法皇山脈や四国山地、銅山川や馬立川などの豊かな自然に囲まれた地域にあります。新宮小・中学校緑の少年団は、全校児童生徒（児童56名、生徒22名、計78名）で活動しています。「自然に親しみ、ふるさと新宮を誇れる心を養い、豊かな自然とともに成長する子どもたちを育てる」ことを目標に、年間を通して様々な活動に取り組んでいます。

2 主な活動内容

(1) 茶摘み

新宮地域で生産される「新宮茶」は、全国的にも数少ない無農薬栽培です。本校では、保護者や地域の方々の協力を得て、毎年「茶摘み」を行っています。年間を通した施肥や除草作業を経て、今年度は5月に茶摘みを行いました。収穫された茶葉は、地元の製茶場のご厚意により新茶に加工し、毎日の給食で飲んでいます。収穫したお茶は、飲むだけでなく、茶葉の調理法についても考え、給食の献立にも取り入れています。児童生徒にとって茶摘みは、地産地消の大切さを実感し、新宮地域の特色の発見につながるよい機会となっています。



〈茶摘み〉

(2) 学有林の使用

本校には、約70年前に借り受けた学有林があります。今年度は、6月に中学生を対象に総合的な学習の時間で、学有林を活用しました。学有林までの険しい道のりを約30分かけて登り、植物の植生や間伐の重要性を学びました。学有林では、間伐材の切削や年輪の観察を行いました。その後、間伐材を持ち帰り、グッズづくりに取り組みました。活動を通して、木が町を守ってくれていることや、間伐の重要性を知り、森林を守ろうとする心が育っています。



〈学有林登山〉

(3) 木工教室

12月には、小学生を対象に木工教室を実施し、県産材を用いた靴箱やすのこの製作、木工クラフトを行いました。様々な活動を通して、自然を大切にする心と、ものづくりの楽しさ、林業に対する望ましい職業観を育んでいます。



〈木工教室〉

(4) 一人一プランター

毎年全校児童生徒が、一人ずつ鉢やプランターで花の栽培を行い、校内の緑化活動に取り組んでいます。春に植え付けを行い、入学式や卒業式の会場を飾る花を栽培しています。水やりや草抜きも当番を決めて行い、植物を大切に育てようとする心が育っています。



〈一人一プランター〉

3 おわりに

保護者や地域の方々のご協力と豊かな自然に支えられて、様々な体験活動を行うことができます。この活動を通して、保護者や地域の方々の願い、先輩から後輩へ自然を大切にするという思いが受け継がれています。これからも人と自然とのつながりを大切にし、ふるさとや自然を愛する心情が育まれるよう、緑の少年団活動に取り組んでいきたいと思ひます。

大生院小学校緑の少年団活動

大生院小学校緑の少年団（新居浜市立大生院小学校 教諭）小根國由紀

1 大生院小学校緑の少年団の概要

238名の全校児童で、「大生院小学校緑の少年団」を結成し、その活動を通して自然についての理解を深め、大生院の豊かな自然環境を大切にしようとする意識を持った、心豊かな子どもの育成を目指し、取り組んでいます。

2 今年度の活動状況

(1) 自然環境調査

6月28日の総合的な学習の時間に、4年生の児童29名が地域のボランティア団体「夢遊友うずい」の方々や科学博物館の学芸員の方に教えて頂きながら、校区の渦井川の環境調査を行いました。ヘビトンボやカワゲラ、カゲロウ、トビゲラなど、20種類ぐらいの水生物を見付けることができました。きれいな川であるということが分かりました。



〈渦井川の水質調査〉

(2) 花いっぱい活動

学校を花いっぱいにするために、全校児童が縦割り班に分かれて活動しています。7月には、シニア、マリーゴールド、11月には、パンジーの花の苗をプランターに植え、協力して水やりや除草などの世話をしました。みんなで咲かせたきれいな花で学校が明るくなりました。花いっぱい活動では、縦割り班のみんなが協力して、自然環境をより良くしようと活動しています。



〈花いっぱい活動〉

(3) 河川美化活動

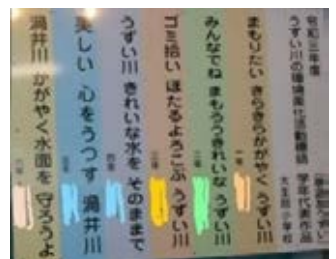
7月と1月の年2回、「愛リバーサポーター活動」として渦井川河川敷の清掃を全校で行っています。子どもたちは、一生懸命ごみ拾いや除草を行いました。美しく、自然豊かな渦井川を守るため、今後も活動を続けていきたいと思えます。



〈河川敷清掃〉

(4) 渦井川美化活動の標語づくり

例年、全校児童で渦井川美化活動に関する標語づくりに取り組んでいます。今年度は1月17日に標語の表彰式を予定し、標語づくりに取り組んでいます。学年代表の標語は、地域のボランティア団体「夢遊友うずい」の方々によって川沿いの道路に、看板になって掲示されます。標語づくりを通して、渦井川の自然を守りたいという子どもたちの意識が高まっています。また、子どもたちの標語づくりの活動や標語の看板が、地域への啓発にも役立っています。



〈渦井川標語の看板〉

緑の少年団活動を通して地域とつながろう

橘小学校緑の少年団（西条市立橘小学校 教諭）藤原 道明

橘小学校は南側に石鎚山を戴き、校庭には本校のシンボルツリー橘の木がある緑に囲まれた学校です。地域の方も協力的で、毎日児童の登下校を見守ってくれたり、しめ縄作りや竹ぼうき作りなどの行事に進んで参加してくれたりしています。今年は3年ぶりに学習発表会の中に「感謝の時間」を設け、地域の方々に普段なかなか面と向かって言えなかった「ありがとう」の気持ちを伝えることができました。さらに学校と地域の距離が近付いたと実感しています。

今年は、「緑の少年団活動を通して地域ともっとつながろう」をテーマに活動を行いました。主な活動では、学校園「橘っ子ランド」で、サツマイモやコスモスを栽培したり、校庭でポーチュラカを育てたりしました。ポーチュラカは、縦割り班で協力して苗植えや水やりなどを行い、育てた鉢は公民館や福祉施設などに手分けして配りました。この活動を通して、班で協力することの大切さや、植物を育てることの大変さや奥深さを学んでいます。また地域の方々からも大変喜ばれ、お礼のお手紙を戴くこともありました。児童のやる気につながっているようです。

サツマイモやコスモスの栽培活動では、地域の方々のご指導の下、全校でサツマイモのつるさしに取り組みました。また、収穫時期にはお世話になった地域の方々や保育園の園児を招待し、収穫を一緒に喜びました。収穫したサツマイモは、各自が持って帰ったり、給食でいただいたりしました。コスモスも花が咲く時期には地域の景観を彩っています。

これからも緑の少年団活動を通して地域とのつながりを大切にし、緑いっぱい、地域愛いっぱいの橘小学校を目指します！



〈協力して苗植えをしたよ〉



〈大切に育ててくださいね〉



〈たくさん獲れてうれしいな〉



〈ご指導ありがとうございました〉

小松小学校緑の少年団活動

小松小学校緑の少年団（西条市立小松小学校 教諭）武田 和彦

1 はじめに

本校は、石鎚山を南に仰ぎ、燧灘を北に見下ろす道前平野の中心部に位置し、水と緑に囲まれた自然豊かな地域です。郷土の偉人近藤篤山先生の教えのもと、「きらり いきいき こまつの子」を学校目標として教育活動を推進しています。小松小学校緑の少年団は、自然を大切にし、自分たちの手で緑を増やし、住みよい町づくりのために活動することを目標に、4年生44名と栽培委員会11名で活動しています。

2 活動内容

(1) 西条市いじめSTOP小・中学生会議への取組

栽培委員会では、いじめ防止のための取組を考え、それについて意見交換を行いました。そして人に優しく接する気持ちの大切さに気付くように「自分から進んで挨拶」や「思いやる心大切に」等の言葉を花に添えて校内に飾り、いじめ防止に向けた取組として有効的に活用しました。



〈西条市いじめSTOP〉

(2) 花いっぱい運動

学校を花いっぱいにするため、プランターや花壇で季節の花を育てました。春は、ペチュニアやポーチュラカを植えました。日頃は、保護者の方や地域の方と児童みんなの心が休まるような美しい学校を目指し、手入れしています。秋は、パンジーやピオラを植えました。現在3月の卒業式に向けて、きれいな花が咲くように大切に育てています。



〈花いっぱい運動〉

(3) 掲示活動

活動の様子や花の名前や特徴を覚えて欲しいことや花を大切にしてほしい気持ちを、数多くの人に広めていきたいという願いを込めてポスターを作り、全校の掲示板に掲示しました。

3 おわりに

子どもたちは、自分が花を植えたり、世話をしたりすることによって、命を大切に思う気持ちが育ってきています。緑の少年団の活動を通して、生活の中に花や緑がある心地よさを実感することができました。今後も、緑の少年団の活動を通して、自然や地域を大切にする心を育てていきたいと思えます。

地域で学ぶ緑の少年団活動

石根小緑の少年団（西条市立石根小学校 教諭）渡辺 僚子

1 石根小緑の少年団の概要

石根小緑の少年団は、5・6年生37名で活動しています。緑に親しみ、緑を守り、緑を育てる活動を通して、団員一人一人が心豊かな人間に成長することをねらい活動しています。学校での花いっぱい運動や、旧小松町の町花であった椿の栽培・配布などを通して、緑豊かな学校・地域づくりに取り組んでいます。

2 本年度の主な活動状況

(1) 篤山椿の挿し木活動・交通安全キャンペーン

伊予聖人・近藤篤山先生が愛したといわれる篤山椿。この篤山椿は白く大輪の花が咲きます。まさに、篤山先生の名にふさわしい清らかで大らかな花です。石根小学校ではこの篤山椿の挿し木活動に20年間も取り組んで来ました。

今年も、3・4年生が6月16日に篤山椿についての学習会をし、6月23日に地域みなさんに教えていただきながら、篤山椿の挿し木や株分けをしました。2年間育てたものを交通安全キャンペーンでドライバーの方々に配っています。今年度は、椿の苗に子どもたちの手紙を添え、小松ハイウェイオアシスとりんりんパーカーに置かせていただき、交通安全を呼びかけました。それぞれの施設に立ち寄られたドライバーの方々が喜んで持ち帰って下さいました。この活動が皆さんの心に届き、きっと安全運転をしてくれると信じています。



〈交通安全キャンペーン〉



〈椿の学習・苗の挿し木活動〉

(2) 花いっぱい運動とプランターの配布活動

緑の少年団で花いっぱい運動に取り組んでいます。花をプランターに植えて、地域にある公民館や郵便局、駐在所、JA石根支所、JA南部センター、養護老人ホーム石燧園に3台ずつ置かせていただいています。1年間に2回（7月にベゴニア、ポチュラカ、1月にピオラを）配布し、住みよい町づくりのために意欲的に活動しています。とても喜んで大切に育ててくださっています。地域も花いっぱいになってほしいと思って活動しています。



〈花いっぱい運動苗植え〉



〈花いっぱい運動（石燧園）〉

庄内緑の少年隊の活動

庄内緑の少年隊（西条市立庄内小学校 教頭）武藤真由美

1 はじめに

本校は、西条市の北西に位置し、地域には数多くの旧所・名跡が残されている自然豊かな校区です。庄内緑の少年隊は、今年度5年生11名を中心に活動しています。豊かな自然の中で、栽培活動や飼育活動などを通して、多くの「いのち」と触れ合い、その大切さを感じ取っています。

2 活動の様子

(1) 校内美化のためのプランター作り

緑の少年隊結団式を行い、プランターに花の苗を植えました。そのプランターを学校の玄関前に置き、花いっぱい为学校になるよう取り組んでいます。秋に植えたパンジーやピオラは卒業式・入学式に使われます。

(2) サツマイモ栽培

学校園において縦割班でサツマイモを栽培しました。その後は、学年で当番を決めて水やりを行ったり、除草を行ったりして、自分たちにできる世話を頑張りました。今年も豊作で、一人一人が家庭に持ち帰り、お世話になっている地域の方にも配りました。

(3) シイタケの収穫

体育館の裏にあるシイタケ園では、今年もたくさんのシイタケが収穫できており、家庭に持ち帰っています。昨年度2月に、オンラインで県の森林林業課のご指導の下、原木に椎茸菌の植え付けをしました。植え付けの前には、椎茸に関する出前授業もしていただきました。今年度も2月に緑の少年隊解団式と併せて実施予定です。

3 おわりに

1年間の様々な活動を通して、庄内の自然のすばらしさに触れ、児童は「いのちの大切さ」を体感し、改めて庄内のよさに気付きました。今後も、いろいろな活動を通して自分たちの地域の魅力を一人でも多くの人たちに伝えていきたいと思えます。



〈プランターへの花植え〉



〈サツマイモの苗植え〉



〈サツマイモの収穫〉



〈しいたけ原木への菌の植え付け〉

生長と成長

徳田小緑の少年団（西条市立徳田小学校 教諭）山崎 智裕

本校は、西条市西部の標高36mの扇状地に位置しており、周囲には山や田畑が広がる緑豊かな学校である。全校児童数は35名で、完全複式学級の小規模校である。そのため、一年を通して様々な活動に縦割り班で取り組んでおり、休み時間などにも学年を超えた交流が多く見られる。

縦割り班としての活動の一つに、緑の少年団活動がある。例年、夏と冬の毎年2回行っている。全校児童が緑のスカーフと帽子を身に着けて、「花いっぱい運動で地域をハッピーに！」を合言葉に緑化活動に取り組んでいる。今年度は、6月と11月に活動を行った。テルスター、ピオラ、サルビア、パンジー、サクラソウなどの花の苗植えを行った。花の苗植えが終わると、高学年の児童は、学校行事などでお世話になっている施設へ花を届けに行った。歯科検診でお世話になっている歯科医院や、隣接する徳田公民館、JA徳田支所などを訪れ、感謝の言葉とともに花をお渡しして、地域にハッピーを広げた。

本校は全校児童が団員であり、学年が上がれば上がるほど経験を重ねていく。高学年児童の活動の様子を見ると、すっかり慣れた手つきである。さらに、まだまだ活動に不慣れな低・中学年の児童に対して優しい言葉でアドバイスを送ったり、進んで手伝いをしたりするなど、リーダーシップを発揮する姿も見られるようになった。花の生長だけでなく、児童の成長も感じられた。

休み時間などに学年を超えた交流が増えると、発達段階も異なるため、トラブルが起こることもある。そんなときに、緑の少年団活動が大切だと考える。この活動を通して、高学年として学校の中でどのような役割が求められているか、みんなで協力して取り組むことの大切さなどについて考えることができ、児童相互の良好な関係づくりにもつながっていると感じるからである。



〈スカーフと帽子を身に付け、縦割り班で活動〉



〈低学年の児童にアドバイスをする高学年児童〉



〈低学年の児童と協力する高学年児童〉



〈お世話になったJA徳田支所へ花の贈呈〉

田滝小緑の少年隊の活動

田滝小緑の少年隊（西条市立田滝小学校 教諭）今井真寿見

1 はじめに

本校は、道前平野を見下ろす扇状地にあり、豊かな自然に囲まれた素晴らしい環境の中にあります。また、地域の特産物のあたご柿は全国的に有名です。今年度は、全校児童12名で田滝小緑の少年隊の活動を行いました。地域の方々の協力をいただきながら花の栽培や作物の植え付けや収穫など、様々な体験活動を行いました。

2 主な活動内容

(1) 「田滝小緑の少年隊」結団式

「水やりをしっかりとします。」「地域の方々への感謝の気持ちを込めて草引き等のお世話をします。」等、児童一人一人が目標を発表しました。その後、全校児童で、「ちかいの言葉」を唱和しました。



〈結団式〉

(2) 緑化活動

マリーゴールド、サルビア、ポチュラカ、ピオラ、チューリップ、ノースポールなど四季折々の花を育て、花いっぱいの学校を目指しています。全校児童が、朝の活動時に水やりや草引きを行い、心を込めて世話をしています。

(3) 野菜や農作物の収穫

校内の「にこにこ園」では、ミニトマト、ピーマン、ブロッコリー等の野菜を育ててきました。学校の近くにある「かがやき農園」では、米やジャガイモやサツマイモを育てました。ジャガイモの収穫や田植えやサツマイモの収穫の際には、地域の方々が生え方や収穫の仕方を丁寧に教えてくださったり、一緒に活動して下さったりしました。活動後には、児童一人一人が感想を発表しました。

(4) 収穫パーティー

自分たちが育てた米や野菜等の農作物を収穫し、秋にはサツマイモを使って全校児童でサツマイモドーナツを作りました。また、収穫した米は、炊いて食べたり、普段お世話になっている方々に配ったりしました。



〈ジャガイモの収穫〉



〈田植え〉



〈サツマイモの収穫〉

3 おわりに

コロナ禍ではありますが、地域の方々のご協力やご配慮のおかげで、今年も様々な体験をすることができました。これからも緑の少年隊の活動を通して、ふるさとの豊かな自然に親しみ、自然や地域を愛する心を育てていきたいと考えています。

周布小緑の少年団 活動報告

周布小緑の少年団（西条市立周布小学校 教頭）越智 洋子

緑の少年団結成2年目。対外的な活動はなかなか実施できませんでしたが、校内での活動は、充実したものとなりました。その一部を紹介します。

1 さつまいも栽培（縦割り班活動）

年間を通して、全校を10班にしての縦割り班活動を行っています。その活動の一つがさつまいも栽培。畝づくりは保護者の方にも手伝ってもらいました。今年は暑さのためか、なかなか育たず、途中つる差しをし直した班もありました。収穫も思ったほどできず、調理実習で使ったり、給食のメニューに入れてもらったりしました。しかし、学年関係なく協力して行う活動は、とっても楽しく有意義なものでした。



2 花いっぱい運動（環境委員会、4年生）

校庭を、花でいっぱいにしようと、環境委員会が中心になって花植え作業や世話をしています。夏のサルビアは、暑さのために何度も枯れかかりましたが、何とか赤い花をつけてくれました。朝一番の水やりは、欠かすことができませんでした。冬には、寒さに震えながらもピオラのプランターづくりをがんばりました。卒業式や入学式で活躍しそうです。

今年は、環境学習の一環で、4年生もプランターの花づくりに取り組みました。花の苗は、他校からいただいたものです。花の輪がつながっています。



3 地域奉仕活動

校内はたくさんの木があり、秋の落ち葉掃きは大変です。朝、学校に来た高学年が、ボランティアで落ち葉掃きを続けてくれました。本校の新しい伝統になりそうです。

学校のグラウンドの横には神社の参道があり、そちらにも大きな木が何本もあります。持久走大会のコースにもなっているので、掃除の時間を利用して、そちらの落ち葉掃きも行いました。



花は、心を和ませます。本校の教育目標は「いきいき すくすく 周布の子」。いきいきと、そしてすくすくと育つ緑とともに、子どもたちも成長しています。

吹揚小学校緑の少年団花いっぱい活動

吹揚小学校緑の少年団（今治市立吹揚小学校 教諭） 近本天晴生

1 はじめに

本校は、校区に市役所やJR今治駅、今治港、商店街などがある今治市の中心市街地に位置しています。また、本校の東側には、日本三大海城の一つである今治城があり、城の石垣と堀の間にある通路状の空き地「犬走り」には、希少な動植物が生息する自然環境が残っています。

子どもたちは、地域の自然環境や校庭の樹木、プランターに植えられたたくさんの花々に囲まれて、校訓「絆～かしこく なかよく たくましく～」の下、明るく元気に学校生活を送っています。

吹揚小学校緑の少年団は、6年生8人、5年生8人の計16人の団員が、学校を花いっぱいにするために、日々活動しています。

2 活動の様子

(1) 花いっぱい運動

年度当初から学年ごとに栽培活動に取り組んできました。ヘチマやヒマワリ、ホウセンカなど、学習に関連した様々な植物を育てることを通して、それらの特徴を知るとともに植物を大切にしようとする気持ちを育みました。

また、今年度も「花いっぱい運動」として、低学年は一人一鉢、高学年は一人一プランターを使って苗を植え、育てました。

〈春から秋にかけて栽培した草花〉

センニチコウ、ニチニチソウ、マリーゴールド、ポーチュラカ

〈秋から春に向けて栽培した草花〉

パンジー、サクラソウ、クリサンセマム、チューリップ

(2) 委員会活動

緑の少年団員は全員、学校の栽培委員会に所属しています。土づくりや植え替え時のプランターの準備などをみんなで協力して行いました。また、花摘みや水やりの当番日を決め、休み時間に責任を持って取り組んだり、植物を大切にするように全校児童に呼び掛けたりしました。

3 おわりに

栽培活動を通して、花いっぱいの美しい学校にしていきたいという気持ちを高めることができました。今後も栽培活動を充実させ、児童一人一人が植物を大切にすることをもち、緑いっぱい・花いっぱいの吹揚小学校にしていきたいと思います。



〈苗植え〉



〈プランター並べ〉



〈土の補充〉

「常盤緑の少年団 花いっぱい隊」の活動

常盤緑の少年団（今治市立常盤小学校 講師）宮田 智子

1 常盤緑の少年団の概要

本校は、1928年の創立以来、「花いっぱい運動」に力を入れています。美しい教育環境の整備を推進し、校歌にもあるスズカケノキを中心に、緑に包まれた学校の伝統を維持しています。全校児童は492名で、そのうち栽培委員会の5年生11名、6年生9名の計20名で緑の少年団を構成し、学校や地域で栽培活動を続けています。

2 今年度の活動状況

(1) 校内での栽培活動

本校では、児童や学校を訪れた地域の方に季節の花の美しさを感じてもらえるように、正門周辺の花壇の周りに四季折々の花を植えたり、プランターを並べたりしています。多くの方の目に触れる正門前は、多種多様な花の栽培に力を入れています。

今年度は春にはピオラやマリーゴールド、夏から秋にかけてはサルビア、ペゴニア、コリウス、キンセンカ、ポチュルカ、菊などを育てました。現在はサクラソウ、パンジー、デイジー、クリサンセマムを植えています。栽培委員会は、委員会や朝昼の活動の際に花の植替えや水やり、花がら摘みなどを行っています。また、4・5年生の有志の児童で結成された花いっぱい隊も一人2つのプランターを担当し、苗の植替えから花が枯れるまで愛着を持って大切に世話をしています。栽培委員会の児童が花いっぱい隊の作業を積極的に手伝うなど、栽培活動を通して児童の間に新たな交流が生まれました。校内には年間を通して、彼らが大切に育てた花々が咲き誇っており、多くの児童から「花いっぱいの常盤小学校が大好きです。」との声が上がっています。



〈正門周辺の花壇の様子（夏）〉



〈正門周辺の花壇の様子（秋）〉



〈花いっぱい隊の植替え作業を栽培委員会の児童が手伝う様子〉

(2) 地域への貢献

1学期には、「緑の募金運動」に参加し、栽培委員会の児童が全校に募金への協力を呼び掛けました。

2学期には、学校で育てたパンジーやサルビアなど様々な種類の季節の花の苗を地域の方々へ配布しました。公民館に季節の花を植えたプランターを貸し出し、訪れる方々にも喜んでいただきました。また、今治市の特産品であるタオルの原料となる綿花を育てました。収穫した綿は、県内外から来校された方へ配布したり、タオル工場で実際に加工されたりしました。これらの活動は、地域美化の一環であると同時に、児童が郷土への関心を高める良い機会となりました。



〈綿を収穫する様子〉



〈地域産業との連携〉

「今治市立花緑の少年団」の活動

今治市立花緑の少年団（今治市立立花小学校 教諭）渡邊 賢二

1 はじめに

本校は、今治市の中央に位置する、全校児童数459名の学校です。昔から農業が盛んな地域で、米や野菜の有機栽培が行われており、学校給食にも地元の有機米や有機野菜が使われています。今年度の今治市立花緑の少年団は、栽培委員会を中心とする5年生8名、6年生8名の計16名で活動しています。主に委員会活動の時間と、朝や昼休みの時間を利用して栽培活動をしています。

2 活動の様子

(1) 花の栽培

季節に合わせてきれいな花が咲くようにパンジー、ピオラ、サルビアなどの花を植えています。栽培委員会の児童は、朝登校後に当番制で60個近いプランターの水やりを行っています。また、昼休みや委員会活動の時間には、土づくり、花の苗植え、プランターの移動、雑草抜き、追肥などの手入れを行っています。学校が花でいっぱいになるように、地道な活動をコツコツと続けています。これらの活動のおかげで、校内には多くの花が咲いて、来校者を気持ちよく迎えています。



〈雑草抜き〉

(2) 地域の方々との交流

地域の老人会の方に協力していただいて、1学期は、サルビア、ポーチュラカ、2学期はパンジー、ピオラ、シクラメン、ハボタンの花を植えました。地域の方々の協力があるからこそ、花いっぱいの美しい学校ができているという感謝の気持ちを持つことができました。



〈地域の方と一緒に花の苗植え〉

3 終わりに

栽培活動を通して、緑いっぱい・花いっぱいの美しい学校にしていきたいという気持ちを高めることができました。今後もみどりの少年団の活動を継続して行っていくことで、日々の世話が、やがてはきれいな花を咲かせる喜びへとつながるという体験を積み重ねていき、緑の大切さに気付いてほしいと願っています。

ふるさと桜井の自然を大切にしています

今治市桜井緑の少年団（今治市立桜井小学校 教諭）長井 直也

1 学校全体の取組

桜井小学校区は燧灘に面した今治市東端にあり、南は西条市と接しています。その西条市と接する孫兵衛作地区には医王池（通称、蛇池または蛇越池）があります。その池の周囲50アールが湿地になっていて、愛媛県絶滅危惧種に指定された種も含めて約80種が自生しています。しかし、土砂の流入等による陸地化や外来種の移入の影響で、生態系の変化が心配されるようになりました。

このような状況から孫兵衛作愛護班によって年2回、初夏と冬に草刈りが行われています。今年度も桜井小学校の地元児童や有志の児童が参加し、熱心に活動しました。また、学校ではその湿地で保全している代表的な種であるサギソウを栽培しています。昨年度2月に植えた球根を水の管理に気を付け大切に育てることで、8月に開花させることができました。その後も球根を成長させるために大切に育てています。

今年度は新型コロナウイルス拡大防止のために中止となりましたが、例年はサギソウフェスティバルを開催し、来校された地域の方々に育てたサギソウの苗を配布してきました。また、桜井海岸においては4年生が漁場となるアマモ場を復活するためにアマモの種蒔きをしています。総合的な学習の時間にアマモから種子を採取し、2枚のガーゼの間にその種子を挟み込み、それを2枚の穴の開いたワッシャーで挟み込んで接着したものを海岸から投げ込んで（播種）、種子を海底に定着させています。



〈蛇池の草刈り活動〉



〈開花したサギソウ〉



〈アマモの種子入れ〉



〈アマモの播種〉

2 桜井緑の少年団の取組

桜井小学校は全校児童353名の中規模校です。そのうち5年73名、6年68名で桜井緑の少年団を構成しています。今年度、桜井小学校は創立150周年を迎え、11月6日(日)に盛大に記念式典が行われました。桜井緑の少年団は、例年サギソウフェスティバルに向けての準備を学校全体をリードして行いますが、今年度は中止となったため、代わりにその式典に向けての環境整備に力を注ぎました。中でも栽培委員会はサギソウの世話だけでなく季節の花々の苗をプランターに植え、日々の当番活動として水遣りを中心に大切に世話をし、全校児童や来校される方々の目を楽しませました。



〈栽培委員会の活動〉

今治市立富田小学校緑の少年団の活動紹介

今治市立富田小学校緑の少年団（今治市立富田小学校 教諭）松下 準市

緑の芝生に覆われている運動場が自慢の富田小学校は、今治市陸地部の今治平野の南部に在り、白砂青松の唐子浜・織田ヶ浜もあり、緑の田畑が広がる自然に恵まれた地域です。全校で572名（男子284名、女子288名）の元気な児童が通っています。富田小学校緑の少年団は、5年生10名、6年生10名の合計20名で活動しています。

栽培委員会の活動の時間を中心に、昼休み、放課後等の時間を利用し、土づくりやプランターへの苗植え、プランター運びなど環境美化の活動を進んで行っています。下表にあるような栽培（飼育）カレンダーに沿って、学級園の栽培、メダカの飼育を始め、春はパンジーやチューリップ、夏はマリーゴールドやサルビア、秋はペゴニアやピオラ、冬は葉牡丹やクリサンセマム、サクラソウなど色とりどりの花の苗をプランターに植えています。しかし、毎日の作業では、暑い日が続いた夏場は大変でした。今年は、秋の終わりまで比較的暖かく、作業ができたのはとてもよかったです。

毎月の作業日に作業をするのは、少し大変だと思っている児童もいたようですが、一度やり始めると時間を忘れて取り組むことができていました。「プランターが垣根に沿って並んでいる様子はとてもきれいだね。」とか、苦勞して育ててきた植物に対して、「とてもきれいだね。」と地域の人からも声を掛けられるとうれしくなります。がんばって取り組んでよかったと思う瞬間です。学校や地域を花や緑でいっぱいできるようにこれからも栽培活動をがんばっていきたくて児童のみんなが思っています。最後に、この言葉でしめたいと思います。「念ずれば花開く 置かれた場所で咲きましょう。」



〈サルビアの種を取って、来年まきましよう。〉



〈早く大きくなってね。〉



〈使い方上手になりました。〉

学年	植物名	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
3年	ホウセンカ 植物の成長 植物の体のづくり	○		▼		□		※				●			△										
	ヒマワリ 植物の成長 植物の体のづくり	○						■		※		◎		●		△									
	キャベツ 昆虫を育てよう モンシロチョウ産卵期			●											○		□						■		
4年	ヘデマ 季節と植物の成長	○			□		■			※		◎		●		△									
	アブラナ 花のづくり、実のでき方			◎											○									■	※
5年	インゲンマメ 植物の成長の条件	○			□		※		◎						△										※
	アサガオ 花のづくり、実のでき方	○				■				※			●			△									
	メダカ メダカの誕生									※															
6年	ジャガイモ 日光とでんぷん	▼			▲		◎				△									△					○
	メダカ 体のづくりとはたらき 生物博士のかかわり 水中の小さな生き物							※																	

今治市日高小学校緑の少年団の活動紹介

今治市日高小学校緑の少年団（今治市立日高小学校 主幹教諭）矢野 時寛

本校では、5年生8名、6年生9名の栽培委員会児童を中心に、校内の栽培活動に取り組んでいます。校庭の花壇やプランターの花の苗植え、草抜き、水やりなどの世話を続け、季節の花が一年中咲いています。また、1・2・3年生が行っている一人一鉢栽培の土作りや水やりの手伝いも行っています。プランターの花は、卒業式や入学式の式場を飾るために、がんばって世話をしています。

本校の特徴的な取り組みを二つ紹介します。一つ目は、全校児童の縦割り班（スマイル班）で協力し合って行う、「さつま芋栽培」です。畝作り、芋植え、草抜き、水やり、芋掘り、そして、全校焼き芋集会和、地域の方にも協力してもらいながら、6年生を中心に活動します。これら、異学年児童の交流を通して、収穫の喜びや達成感を味わうことができました。緑の少年団としても暑い時期の水やりや草抜きなどに取り組みました。二つ目は、今治南高等学校園芸クリエイト科との交流です。2年生の野菜作りやミカン狩りの活動を通しての交流が中心ですが、野菜や花の土づくりなど校内の緑化活動に協力してくれています。コロナ禍ということもあり緑の少年団との交流はできませんでしたが、1月には花苗を寄贈していただき、卒業式で式場に飾るために緑の少年団員が大切に育てています。

これからも栽培や世話を続け、植物を大切にしようとする優しく豊かな心を育てていこうと思います。



〈栽培委員会の活動〉



〈さつま芋の収穫〉



〈南高園芸クリエイト科との交流〉



〈南高園芸クリエイト科との交流〉

乃万小学校緑の少年団の活動

乃万小学校緑の少年団（今治市立乃万小学校 教諭）田窪 所

1 はじめに

本校は、今治市の南西部に位置しています。校区近隣には市民の森や野間馬ハイランドなど、市民の憩いの場所があります。また、延命寺や野間神社など歴史的な建造物も多く残っています。学校の周りには田畑が点在しており、近くには広葉樹林が広がるなど、里山的な要素をもっています。しかし、近年校区内の交通量がとても多くなったり、田畑を埋め立て、住宅地が増えたりして、少しずつ豊かな自然が減ってきているのが現状です。

2 今年度の活動

(1) 学校内での栽培活動

緑の少年団員が中心となり、活動に取り組んでいます。腐葉土と鹿沼土、山土等を混ぜ合わせた土作りやプランターへの苗の移植など季節に合わせて一年間活動しています。春に一人一鉢栽培としてサルビアを植え、プランター内の草抜きや芽摘みをするなどの世話を一生懸命に行っています。全校児童に対して、水やりをするよう呼び掛けたり、忘れていた子の植木鉢に水をやったりと分担しながら毎日活動しています。

また、きれいな花が咲き続けるようパンジーやピオラなどのプランターでの栽培活動にも取り組んでいます。



〈苗をプランターへ移植〉



〈草抜きの様子〉

(2) 地域の施設へ

地域の緑化活動を推進するために、乃万小学校の近くにある公民館に、花の咲いたプランターを置かせていただきました。公民館を利用する地域の方々から、感謝の言葉をいただきました。今後も公民館を利用する地域の方々に、きれいな花を見ていただき、喜んでいただけるようにしたいと思います。



〈公民館へプランターを設置〉

3 おわりに

本年度も、新型コロナウイルスの影響が続き、十分な活動ができなかった時期もありましたが、その中でも、子どもたちは、栽培活動を通して花いっぱいの美しい学校、校区にしていきたいという気持ちを高めていくことができました。このような栽培活動を継続して行うことで、子どもたちの思いやりの心や命を大切にする心を養い、心豊かな人間に成長するよう努めていきたいと思っています。

今治市立国分小学校緑の少年団活動報告

今治市立国分小学校緑の少年団（今治市立国分小学校 教諭）芥川 享司

1 今治市立国分小学校緑の少年団の概要

本校では、「心豊かでたくましく、自ら学ぶ国分の子を育てる」の教育目標の下、美化活動、栽培体験活動を中心とした緑の少年団活動を全学年で行っている。特に「里山」を利用した栽培体験活動は、本校の特色の一つとなっている。これらの体験活動を通し、自然に親しみ、命や故郷を大切にする気持ちが育ってきている。

2 今年度の活動状況

(1) 花いっぱい活動の実施

年間の栽培計画を基に、校内を花でいっぱいにするために、栽培委員会の児童を中心に、土づくりやプランターへの苗植えなどの活動を行い、正門付近をそれぞれの季節に応じた花が咲いている状態にしている。水やりなどの世話は、高学年の児童を中心に行っている。また、低学年の児童は、一人一鉢栽培として、夏はアサガオやミニトマトを栽培し、秋にはそれぞれが育てたい花の球根を植えて世話をしている。自分が世話する鉢から芽が出たり花が咲いたりするたびに、友達と喜び合う児童の姿が見られた。



〈高学年児童による土づくり〉



〈1年生のアサガオの種まき〉

(2) 里山を活用した栽培体験活動

学校の裏の里山を活用して、全学年でサツマイモの栽培体験活動を行っている。

山の斜面に畑があるので、草刈りや畑の整備は教職員で行っているが、苗植えから水やり、草取りなどの世話は、児童の手で行っている。畑の周囲は樹木が茂っているので、作業の時にはいろいろな昆虫に出会ったり、鳥の声を聴いたりして、国分の豊かな自然を感じながら活動している。



〈サツマイモの苗植え〉

3 おわりに

緑に親しみ、守り育てるこれらの体験活動を継続することで、自他の生命や故郷を大切に思う気持ちを持つ児童の育成を目指し、これからも緑の少年団活動の充実に努めたい。

「朝倉緑の少年団」の活動報告

朝倉緑の少年団（今治市立朝倉小学校 6年生）河上 颯花

「朝倉緑の少年団」は、昭和48年5月、愛媛県第1号の緑の少年団として誕生しました。9年前の学校統合をきっかけに全校児童が緑の少年団員となり、全校167人で、様々な自然に関わる活動に取り組んでいます。

1 朝倉のシンボルに緑を取り戻す活動：6年 総合的な学習の時間「未来を考える」

平成20年8月24日、笠松山で山火事が発生しました。その火事で、多くの山林は焼け、緑は減り、笠松山は土の部分が多く見えるようになりました。山火事後、私たちの先輩は、「朝倉のシンボル、笠松山の緑を増やしていこう」と、植樹活動と山の木々の勉強を始めました。今年は、5月と11月の2回、先輩方が植樹した木々を実際に笠松山に登って調査しました。ゲストティーチャーの方々を招き、植樹された木や笠松山に生えている木々について教えていただきました。植樹した木は元気に育っていました。その他にも火事で燃えた場所でたくさんの木が育っていることが確認できました。アカマツは、去年と比べると最大1メートル高くなっているものもありました。今は、植樹活動は行っていませんが、これからも先輩方が植樹された木々が、元気に育つように見守る活動を続けていきます。また、11月に森林林業課の方に土砂崩れを防ぐ方法や針葉樹や広葉樹の種類などを教えていただきました。これからも「朝倉のシンボル、笠松山の緑を増やしていこう」という気持ちを持ち、関わっていきたいと思います。



〈笠松山現地調査5月〉

2 全校で取り組む活動：「この指とまれ」班活動

朝倉小学校では、全学年が交ざった班を作って1年間、活動をしています。6月には、サツマイモの苗植えをしています。植えたサツマイモは、秋に収穫し校庭にかまどを作り、焼き芋をしてほかほかの状態でいただきました。みんなの笑顔を見るとお芋はあっというまに美味しくなります。私が入学して6年間続いている活動です。これからもみんなの笑顔とおいしい芋づくりが朝倉小学校の伝統として続いてほしいです。



〈サツマイモ苗植え6月〉

3 各学年が取り組む活動：緑いっぱいの校内、自然とのふれ合い

学校の校庭には1年中、緑がたくさんです。正門には、サクラソウ、パンジー、綿、ゴーヤ、サルビア、葉牡丹などの花が、お客様を出迎えます。また、1年生は、アサガオやチューリップを育てたり、木の実や落ち葉などを使っておもちゃを作って遊んだりしています。地域の方々に教えていただきながら、2年生はオクラなどの野菜を育てたり、3年生は学校の樹木を調べたり、4年生は校区を流れる頓田川の水に住む生き物を観察したり、5年生はバケツで稲を育てたりしています。私たち6年生は、綿を育てて収穫しました。これらは、私が入学してからずっと続けている朝倉緑の少年団の大切な活動です。

このように、私たちは、1年間を通して植物の栽培や地域の自然と関わる活動を行ってきました。これらの活動を通して、私たちは、収穫の喜びを感じたり、自然のよさを学んだりしました。これからもこれらの活動を続け、自然を大切にしたいと思っています。

鴨部小緑の少年団の活動

鴨部小緑の少年団（今治市立鴨部小学校 教諭）御手洗律子

1 はじめに

本校は、今治市玉川町の南部に位置し、楯原山に源を発する蒼社川や、田園や山林、神社仏閣の木々が緑に彩る自然が豊かな地域です。児童は、このすばらしい自然が多くの人々によって受け継がれてきたことを学習していきます。そして、自然を愛し、守り育てようと地域の方とも交流しながら、自然に親しむ活動や栽培活動、環境美化活動に取り組みました。

2 本年度の活動状況

(1) 花いっぱい運動

学校や地域のみなを笑顔にしようと、全校で花いっぱい運動に取り組みました。一人一プランターを担当し、春はサルビアやペチュニア、ポーチュラカを植え、運動会で披露しました。秋はパンジーやアリッサムを植えて栽培しており、卒業式を飾る予定です。年間を通じて、色とりどりの花が校舎の周りを飾っています。

栽培委員会の児童は、5年生の焼いた竹炭や校庭で集めた落ち葉を混ぜ込んで、土づくりをしました。培養土を買うだけでなく、自分たちでできる土づくりを積極的に行っています。SDGsを意識した取組になるように進めています。

(2) 野菜や学習に使う植物の栽培

学校園では、ヒマワリやヘチマを栽培しました。2年生は、地域のJAにも協力していただき、春からキュウリやナスなどの夏野菜を育てて収穫しました。秋は、水菜やホウレンソウ、ラディッシュを栽培することにし、責任を持って世話をしています。

(3) 地域の自然を知り、守る活動

1年生は、生活科の材料を学校の裏山に拾いに行きました。拾った落ち葉や実で秋を感じ、けん玉やどんぐりゴマなどを作って、2年生と一緒に楽しみました。3、4年生は総合的な学習の時間に、地域の自然を調べています。3年生は、蒼社川周辺の自然環境について調査し、川にごみがたくさんあることを知りました。川に流れ込むごみを減らすために、道路のごみ拾いをしようと提案があり、実際に拾いに行きました。4年生は、校内や近くの神社の樹木を調べています。今年度は、地域ボランティアの方にゲストティーチャーになっていただき、夏と秋の植物の様子の違いをフィールドワークで教えていただきました。また、自分の木を決め、タブレットで季節の変化を記録しています。これらの活動を通して、児童は身近に自然の恵みがあふれていることを感じる事ができました。



〈登校時の花の世話〉



〈土づくり〉



〈ごみ拾い〉

3 おわりに

児童は、栽培活動を通して、世話を続けることの大切さを感じるとともに、美しい花が咲く喜びを味わうことができました。また、身近な自然に触れ合うことで、地域の自然に関心を持ち、自然の魅力を感じることもできました。様々な人々との交流では、学校の中での学習だけでは得られない知識や経験を得ることができ、そのことがコミュニケーション力の向上につながりました。

今後も、感染症対策を行いながら、地域の方と交流を深め、身近な地域に興味・関心を持ち、ふるさとのすばらしい自然を守り育てようとする心を育みたいと思います。



〈地域ボランティアの先生と〉

九和小緑の少年団の活動

九和小緑の少年団（今治市立九和小学校 教諭）越智 徳郎

1 はじめに

今治市玉川町は、美しい山林や川などの豊かな自然に恵まれた地域です。このような環境の中で、九和小緑の少年団は、3年生から6年生までの児童が団員として登録し、緑化活動や地域の自然に関する学習、奉仕活動を中心に、地域の美しい環境を守るための活動を行っています。今年度の活動内容の一部を紹介します。

2 主な活動内容

(1) 緑化運動

季節ごとに咲く花々に興味を持ち、その美しさに感動したり、小さな命を大切にしようとする心を育てたりするために、毎年「花いっぱい運動」に取り組んでいます。毎日の水やりなどの世話は大変ですが、季節ごとに苗を植え、美しい花を咲かせたときの喜びは大きく、自分たちの活動に対する満足感を覚えることができます。



〈花の入れ替え〉

(2) 環境美化運動

通学路や近隣の公園を中心に、環境美化活動を行っています。空き缶やプラスチックごみ、落ち葉などがたくさん集まります。また、時には、地域の方が一緒に活動をして、きれいになったことを喜んでくださることもあり、活動の充実感を得ています。これらの活動を通じて、自分たちもごみを捨てないようにしようとする思いを深めています。

(3) 学習活動

校区は山や川などの豊かな自然に恵まれています。近隣の玉川総合公園「万葉の森」には、たくさんの珍しい植物が植えられており、生活科や理科、総合的な学習の時間などで、活用しています。また、校庭の裏には竹林（学校林）が広がり、たけのこ掘りや竹細工などの体験活動に活用しています。



〈「万葉の森」での学習〉

(4) 地域の人とのつながり

お世話になっている地域の施設に、自分たちが育てた花を届ける活動を続けています。プランターに植えた花を受け取る時に見せてくださる笑顔や「ありがとう」の言葉が児童の活動の支えとなり、自分たちの活動に対する満足感にもつながっています。



〈花のプレゼント〉

3 終わりに

花いっぱい運動や環境美化活動を通して、ふるさと玉川を緑いっぱい・花いっぱいの美しい地域にしていきたいという気持ちを高めることができました。今後も、地域の方々との交流を深めながら、未来の玉川町の自然を守っていくために、九和小緑の少年団は活動を続け、ふるさとを愛し、ふるさとを大切に思う心を育てていきたいと思っています。

波方小学校緑の少年団活動

波方小学校緑の少年団（今治市立波方小学校 教諭）越智 桃香

1 はじめに

今治市波方町は、高縄半島の最北端に位置し、東、西、北の三方が、海（燧灘、斎灘）に面した海と緑の美しい町です。特に、北側に突き出た半島「大角の鼻」は、美しい海岸とともに、毎年秋になると、黄色いツワブキの花と白いノジグクが美しく咲くことでも知られています。そんな自然いっぱいの環境の中、高学年9名の団員が協力して、主に校内の緑化活動を進めています。



〈正門の風景〉

2 今年度の活動内容

緑の少年団の活動は、季節の花を学校の正門前に飾ることが主な活動です。

例年の活動は、春にパンジー、夏はマリーゴールドやサルビア、秋からは、ピオラ、サクラソウを正門前に飾っています。朝の登校後や昼休みに団員たちは、水やりや草抜き、花摘みなどの世話を行っています。



〈花摘み〉

春季大運動会は保護者テントの設営を見送ることになり、がらんとした運動場のトラック沿いに、侵入防止の柵の代わりにサルビア等のプランターを並べて、花の持つパワーと癒しの効果を実感しました。



〈運動場の様子〉

今年度は秋に文部科学省人権教育研究指定校研究発表会がありました。研究大会に向けて、正門に飾る花の数を増やしました。花を植えるために、今まであった土と腐葉土を混ぜて、土を作り、それを40個以上プランターに入れました。団員たちが丁寧に水やりや草引きを毎日してくれました。その結果、正門にピオラとサクラソウがきれいに飾られました。団員たちのおかげでたくさんの花が咲き、児童や来校者を気持ちよく迎えることができます。



〈水やり〉

3 今後の活動について

これからも緑の少年団活動を通して、栽培活動の喜びや自然を愛する豊かな心を育てていきたいと思えます。そして、花いっぱいの美しい波方小学校を目指して活動を続けていきます。

大西小緑の少年団の活動

大西小緑の少年団（今治市立大西小学校 教諭）渡部 充裕

1 大西小緑の少年団の概要

本校は、今治市の北西部に位置し、北は海に面していて、造船業をはじめ、様々な工場が並んでいる。南には、東西に延びる山があり、山林やミカンなどの果樹園が多い。

本校には、327名の児童がおり、栽培委員会を中心とする5年生10名、6年生8名の計18名で緑の少年団を構成し、活動を行っている。

2 活動状況について

(1) 一人一鉢栽培

本校では、児童全員が一人一鉢栽培に取り組んでいる。緑の少年団では、土づくりや苗の準備を行い、一人一鉢の花の栽培のサポートをしている。

一人一鉢栽培は、生活科や理科の学習と兼ねているところもあるが、1年生がアサガオとチューリップ、2年生がミニトマトなどの野菜、3年生がヒマワリとホウセンカ、4年生がヘチマと綿、5年生はベゴニア、6年生はサルビアと多種多様な品種を育てている。そして、植物の成長を感じながら自然を愛する心情を育んだり、大切に育てていくことで他者をいたわる優しい気持ちを育てたりしている。また、理科や生活科の学習への利用も随時行い、有効に活用している。

(2) 校内緑化活動

緑の少年団の校内緑化活動として、正面玄関周辺を彩るプランターや正門横花壇での栽培活動を行っている。緑の少年団員がプランターや花壇に苗を植え、水やりや草抜き、花がら摘みなどの世話を毎日行っている。一人一鉢の栽培活動に加え、校内外が常に花いっぱいになるようにしている。プランターの花は、卒業証書授与式や入学式の時に式場に飾り、式典に彩を添えるのにも役立っている。

(3) 緑化フェアへの出展

今治市では、毎年春に緑化フェアを開催している。その際に、学校で育てているプランターを学級数分、出展している。大西小学校では、出展するプランターの準備を緑の少年団が1月から担当している。多くの方に見ていただくので、水やりや花がら摘み草抜きなどの世話を丁寧に行い、美しく咲いた状態で出品するようにしている。



〈一人一鉢栽培〉



〈正門横花壇の花植え〉



〈緑化フェアへの出展〉

亀岡小学校緑の少年団活動

亀岡小学校緑の少年団（今治市立亀岡小学校 教頭）新居田貴祐

1 はじめに

亀岡小学校のある亀岡地区は、高縄半島の北西に位置しています。北側には瀬戸内海国立公園の斎灘、南側には中世の城跡がある高仙山、無宗天山がそびえており、自然と歴史ロマンあふれる地域です。本校は少規模校（全校児童40名）で、少人数を生かした温もりのある学校教育を行っています。緑の少年団活動も学校全体で取り組んでいます。「緑を創る」という伝統を守り、精力的に活動してきました。保護者や地域の方々も協力的で、学校・家庭・地域を挙げた活動を繰り広げています。

2 活動状況について

(1) 花・野菜の栽培活動

コロナ禍の閉塞感がある中でも、花は癒しを与えてくれます。計画的に栽培をすることで、途切れることなく花を咲かせることができました。また、生活科の学習を通して、野菜作りにも取り組んでいます。栽培がしやすいように畑を移設し、教室からでも生長の様子を見られるようにしました。愛情たっぷり注いだ野菜を、児童たちはうれしそうに収穫していました。



〈花の苗植え〉



〈野菜の収穫〉

(2) 除草活動

年に数回、校庭の除草作業をしています。今年度は、3年ぶりに地域の方（ボランティア）も参加しました。学校の昔話などを聞きながら、和気あいあいとした作業になりました。



〈海岸清掃〉

(3) 海岸の緑を守る活動

自然豊かな亀岡地域でも、海岸に漂着するごみを目にすることがあります。本校では、海岸の清掃活動を親子活動や学校行事、学習活動に取り入れています。



〈田植え〉

(4) 地域の方と米作り活動

毎年、地域やJAの方に協力をいただきながら、米作りに挑戦しています。水を張った田に入るときに不安げな表情を見せる児童もいましたが、苗を植え始めると表情が一変。黙々と作業をこなしていきます。稲刈りでも、鎌の使い方に最初は戸惑う様子が見られましたが、慣れてくると大人顔負けの刈りっぷりでした。手作業をして苦労をしたことで、食料生産の有り難さを体で味わうことができました。



〈稲刈り〉

3 おわりに

緑の少年団活動を通して、児童に自然を愛する心情が育っていると実感しています。今後も「緑を創る」活動を継続していきます。

吉海小学校緑の少年団の活動

吉海小学校緑の少年団（今治市立吉海小学校 教諭）渡邊 百合

1 はじめに

吉海小学校は、瀬戸内海に浮かぶ島の一つ大島にあり、バラ公園や亀老山など、景観が良く、見どころがたくさんある吉海町の中心部に位置します。子どもたちにとって吉海の自然は身近で大切なものであり、未来永劫大切にしていきたいと感じています。今年度は、環境委員会の児童（5年生2名、6年生4名）が中心となって活動に取り組んできました。



〈パンジーの苗植え〉

2 活動状況について

委員会の時間に、花の苗植えや草取りを中心に行いました。季節の花を育て、登校後に水やりなどの世話を続けて、1年中花が咲いているよう努力しました。

(1) 苗植え

校舎前の60個のプランターに、5月にはポーチュラカ、11月にはパンジーの苗植えをしました。一つのプランターに苗を3個ずつ丁寧に植えていきました。



〈水やりパイプ〉

(2) 水やり

昨年度、塩ビパイプに穴をあけて作った水やりパイプで水やりをしています。蛇口をひねるだけで、全てのプランターに自動的に水やりができるので、水やり作業がとても楽になりました。



〈花の剪定〉

(3) 花の剪定

長く花を咲かせるために、花の剪定をします。ハサミで花と茎の部分を切ります。短く切っても1週間もすれば花が咲き始めます。パンジーは5月の終わりまで咲きます。

3 おわりに

児童は、活動に取り組む中で、植物を大切にする心が育ってきました。今年度は、コミュニティスクールで土づくりボランティアの方が来てくださり、土づくりとプランターへの土入れをしてくださいました。とても有り難かったです。

今後も様々な活動を取り入れ、吉海の自然を大切に守り育てる心を育んでいきたいと思ひます。



〈土づくりボランティア〉

宮窪小学校 宮窪緑の少年団の活動

宮窪緑の少年団（今治市立宮窪小学校 教諭）八木 明美

1 はじめに

宮窪町は、今治市の北東海上約4kmに位置する大島にあり、日本遺産として認可された村上海賊の里としてもよく知られています。美しい海や山に囲まれた環境の中、宮窪小学校の全校児童64名が、元気に伸び伸びと育っています。今年度は、5名（5年生2名・6年生3名）が緑の少年団員（環境委員会）として全校の中心となり、花や野菜の世話などの栽培活動に取り組んできました。

2 活動状況

(1) 全校での花や野菜の世話

今年度も学級園やプランターを使って、学年ごとに、パンジー・サルビア・日日草・松葉ぼたん・コリウス・アサガオ・チューリップ・ヒマワリ・矢車草・ポピー・綿などの花や、ミニトマト・ピーマン・オクラ・キュウリ・枝豆・カブなどの野菜を育てました。児童は、自分の植木鉢や学級のプランター、学級園に、毎日水遣りをしたり草抜きをしたりして成長過程を観察しました。花がきれいに咲いたり野菜をたくさん収穫したりすることができ、大変喜んでいました。また、今年度も4・5年生がヘチマの種をポットにまき、本葉が数枚出たところでプランターや学級園に植え替えをしました。プランターは、1階の職員室前に置き、網を使ってグリーンカーテンになるようにしました。2階までつるが伸び、たくさんの葉がついて花が咲く頃、職員室に影ができて大いに涼感を得ることができました。また、学級園近くのフェンスにもヘチマが巻き付き、近くで観察することもできました。

(2) 委員会活動

月1回の委員会活動の時間にプランターに土を入れ、花を植えたり水遣りをしたりしました。今年度は、5名の委員が、土置き場と展示場所（正門付近）を何往復もして運びました。そのかいあって、正門付近をたくさんの花で飾ることができました。また、枯れた後もみんなで協力して一生懸命片付けを行いました。

3 おわりに

花や野菜がどんどん成長していくのを楽しみに、緑の少年団員はもちろん、どの児童も水遣りや草抜きを意欲的に行いました。「綿ってこんなふうにできるんや！」「いっぱい取れたあ！」など発見や驚きを大切に、今後も栽培活動に取り組んでいきたいと思えます。



〈正門近くのプランター〉



〈土入れ〉



〈プランター運び〉



〈綿〉

伯方小学校緑の少年団の活動

伯方小学校緑の少年団（今治市立伯方小学校 教諭）御堂 夕貴

1 はじめに

本校の緑の少年団は、環境委員会（5年生5名、6年生5名、計10名）を中心に活動を行っています。主に、季節の花をプランターで栽培し、正門前で児童や来校者を迎えるようにしています。今年度は、今治市の人権の花事業の担当校になり、6年生32名も花の栽培に力を入れてくれました。

2 活動内容

(1) プランター栽培

春はパンジー、夏はサルビア・マリーゴールド・ポチュラカ・ペチュニア・マツバボタン、秋からはピオラ・サクラソウを、正門前のプランターで栽培しています。葉ボタンやノースポール、シルバーリーフで寄せ植えも行いました。

曜日ごとに当番を決め、休み時間に水やりや草抜きを行い、花の世話を行いました。きれいに花を咲かせるために、咲き終わった花を摘んだり肥料をやったりと、花の様子を観察しながら、心を込めて世話をしています。入学式や卒業式には、環境委員会が育てたパンジーやピオラで会場を飾っています。

また、正門の外にある花壇には、昨年度の冬から、チューリップとネモフィラと一緒に植えました。入学式頃には、満開のチューリップとネモフィラが元気に子どもたちを迎えてくれました。

(2) 学校園栽培

白菜、キャベツ、小松菜などの野菜を学校園で栽培しています。収穫を楽しみに世話を行いました。

また、腐葉土や肥料を混ぜて土づくりをしたり、草抜きをしたりして、次年度の栽培の準備を行いました。

3 おわりに

花をきれいに咲かせよう、学校を花で美しくしようと児童は一生懸命花の世話をしてきました。緑の少年団の活動を通して、土のつくり方や花の手入れの仕方を知ったり、生命力に驚かされたりしながら、自然に親しんできました。今後も、栽培活動を通して、自然に親しみ、自然を大切に作る気持ちを養っていききたいと思います。



〈正門前プランター〉



〈花壇〉



〈花苗植え〉



〈花がら摘み〉

上浦緑の少年団の活動

上浦緑の少年団（今治市立上浦小学校 教諭）陶山 明子

1 はじめに

今治市上浦町は、しまなみ海道沿いの大三島にある、気候は温暖で海に囲まれた自然豊かな町です。上浦緑の少年団は、4年生12名、5年生9名、6年生11名の合計32名で活動しています。上浦町は、ミカン、レモン、イチゴ、野菜などを栽培している家庭もあり、手伝ったことのある児童もたくさんいます。この町の自然を愛し、故郷を愛する心豊かな児童の育成を目指して、活動に取り組んでいます。

2 主な活動内容の紹介

(1) 花いっぱい運動

年間を通して栽培活動に取り組み、季節ごとに花の苗や種、球根を植え、育てています。水やりや草取り、花摘みなど日々の世話は、環境委員会の児童が中心となって行っています。季節の花が終わり、プランターを片付ける作業も大変ですが、暑い日も寒い日も頑張っています。



(2) 農作物の栽培（米作り体験）

学校に隣接する休耕地を地域の方から借り受け、毎年5、6年生で米作りを行っています。この活動は、保護者や地域の方々の協力を得て田おこしから始まり、脱穀まで年間を通して行っています。ここ数年は、コロナ禍の影響もあり、直接教えていただくという活動が十分できませんでした。今年、田植え、稲刈り、脱穀と大勢の方の協力をいただきながら充実した体験活動を行うことができました。収穫した米の一部は、日曜参観日に保護者の方に販売し大人気でした。例年、米作りに関わってくださった方々を招待し、感謝の気持ちを伝えるカレーパーティーを行う計画を立てています。しかし、昨年も一昨年も実施できませんでした。今年こそは、感謝の意を伝えたいと思っています。



3 おわりに

児童の活動への感想の中には、「土を触ったり、土の中から虫が出てきたりすることに対して気持ち悪いと感じていたけれど、友達と一緒に花壇やプランターに苗や球根を植えて、花が咲いたり芽が出たりするのを見たら、うれしかった。」とありました。また、「給食に毎日出るお米は農家の方が苦労してできた自然から生まれた命であるから残さずに食べなければいけない。」と給食を残さないように頑張っている児童の姿も見られるようになりました。緑の少年団に直接関わっていない低学年の児童たちも、作業をしていると興味を示し、花の名前を尋ねたり、「ありがとうございます。」とお礼を言ってくれたりして、自然に目を向ける活動が継承されつつあると感じています。身近な自然や地域の人たちと関わる体験を積み重ねることで、地域の人への感謝や友達を思いやる心、働くことの大切さが身に付いてきています。今後も、ふるさとの美しい自然を守るために自分たちができることを考え、活動を広げていきたいと思っています。

別宮小学校緑の少年団の活動

別宮小学校緑の少年団（今治市立別宮小学校 教諭）鎌田 大和

1 はじめに

本校は、今治市の中心から北西に位置し、JR今治駅、今治港の比較的近くにあります。市街地を南北に流れる浅川の両側に東西に1km、南北に2kmと近見山麓から美保海岸へと続く細長い校区です。本年度「郷土を愛し、自然に親しむ心豊かな児童を育成する」ことを目標として、緑の少年団を結成しました。栽培委員会の5年生4名、6年生4名の計8名で緑の少年団を構成し活動を行っています。

2 主な活動内容

(1) 校内の緑化活動

季節の花で学校の正門や中庭を飾ることが主な活動です。春から夏にかけてはサルビア、マリーゴールド、ポチュラカなど、秋から冬にかけてはピオラ、クリサンセマムなどで学校を飾りました。また、入学式や卒業式には、団員が育てた花で会場を飾ります。団員たちは、小さな苗が成長したくさんの花が咲くことを楽しみにしながら、土づくりや植え替え、水やりなどの活動を頑張りました。土づくりでは、土をふるいにかけて再利用し、肥料や腐葉土、苦土石灰と混ぜ合わせました。



〈花の様子〉

(2) 地域の人とともに

本校では、6年生が地域の団体連絡協議会（団連）の方々といっしょに花を植える活動を1年に2回行います。団連の方々が植え方を丁寧に教えてくれます。団員はプランターや道具の準備、土づくりを事前に行い、片付けも進んで行いました。植えた花は学校や公民館に飾っています。



〈土づくり〉



〈苗植えの指導〉



〈団連の方々と〉

3 おわりに

みんなで協力しながら花を大切に育てることで、子どもたちに優しい心が育ってきているように思います。子どもたちの一生懸命な世話のおかげで、きれいに花を咲かせることができました。今後も栽培活動を充実させ、花いっぱい潤いのある別宮小学校にしていきます。

鳥生緑の少年団の活動紹介

鳥生緑の少年団（今治市立鳥生小学校 教諭）前原

遼

本校区は、市内中心部を流れる蒼社川の南にあります。蒼社川沿いの木々や公園の木々、そして「鳥生レンコン」を栽培するレンコン田も多く点在しており、豊かな自然が広がっている地域です。鳥生緑の少年団は、ガーデニング委員会の5・6年生18名で活動しています。

今年度は、パンジーやサルビア、ピオラを中心に育てました。1学期には、玄関周りに飾ってあったパンジーの花のプランターの片付けを行いました。団員たちがお互いに協力してプランターを運び、枯れ始めてきたパンジーや土を片付けて、新しいサルビアをプランターへと植え替え、新年度らしい環境づくりに取り組みました。

2学期には、新しく入れ替えたサルビアの花の世話を主に行いました。団員たちはサルビアの花がより長く咲き続けるよう、しおれて元気がなくなってきた花を丁寧に摘んだり、プランターの草抜きを行ったりして意欲的に活動していました。団員たちの意欲的な活動が鳥生小学校の美しい景観の維持に一役買っており、本校の子どもたちの自然愛護の意識を高めてくれています。

また、2学期後半には、枯れ始めたサルビアを片付け、新しく植えたパンジーの世話をしました。団員たちはそれぞれ役割分担を行い、新しいプランターに作っておいた土を敷き詰めて運んだり、運んできたプランターにパンジーの苗を植えていったりしました。多くなりすぎないように土をならしたり、プランターを割らないよう2人で協力して丁寧に運んだり、パンジーの根が土の中にすべて埋まるよう土をしっかり掘り起こし丁寧に苗を植えたりしていました。

このように、団員たちの活動により、鳥生小学校の玄関前には色とりどりの花が並べられており、来校者を楽しませています。



〈サルビアの花を運ぶ団員〉



〈花摘みをする団員〉



〈土を運ぶ団員〉



〈苗を植える団員〉

近見小学校の緑少年団の活動紹介

近見小学校緑の少年団（今治市立近見小学校 教諭）小堀 誠之

近見小学校緑の少年団は、学校、地域を花いっぱいにして、気持ちよく過ごせる近見にすることを目指しています。メンバーは、5、6年生で、環境委員会が中心となって活動しています。

活動内容

○ 日常的な活動は、水やりと花の世話です。当番制で1プランター10秒以上、丁寧に水やりを行っています。お互いに協力し合って1年間続けて活動しました。

花の世話は、主に草引きと花摘みです。草引きは夏場、花摘みはパンジーとピオラの世話が大変でした。しかし、美しく咲いた花をやりがいに、がんばりました。

児童の感想 プランター一つ一つに丁寧に水をあげることを心掛けました。水をやると気持ちがすっきりして、花の元気さを感じました。

○ 一番大変な作業は枯れた花の片付けとプランター運びです。リアカーを使ってたくさんのプランターを運びます。プランターはかなり重く、枯れた根を取り出す作業も根気がいらいます。高学年パワーを発揮して活動しました。

児童の感想 友達が手伝ってくれて、たくさん運ぶことができました。花のいいにおいがして、力仕事だけががんばることができました。

○ 地域活動は、新型コロナウイルス感染症対策の影響で、ほとんど活動できていませんでした。しかし、秋に地域の幼稚園に花を届ける活動を再開しました。パンジーとピオラを植え替え、世話をした花を届けました。

児童の感想 自分たちが育てた花を幼稚園においてもらえてうれしかったです。より花いっぱいのすてきな幼稚園になって欲しいです。

○ 今年は、土の再生に有志の子どもたちと挑戦しました。古い土をふるいにかけて、根やごみを取り除いたり、細かい土を捨てたりしました。また、日光消毒をしたり、肥料を加えたりして再生土を作りました。

児童の感想 土づくりはたいへんでしたが、やりがいを感しました。この土に、自分の好きな花を植えて、育てたいです。楽しく活動できました。

1年間を通して、充実した活動ができました。いろいろと反省点もありますが、児童の思いを大切にしながら来年度の活動に結び付けていきたいです。



〈枯れた花の片付け〉



〈夏の学校園〉



〈幼稚園に届ける花の植替え〉



〈再生土づくり〉

今治市立清水小学校緑の少年団活動報告

今治市立清水小学校緑の少年団（今治市立清水小学校 教諭）会田 憧夢

1 主な活動内容

(1) 花いっぱい運動

5、6年生の栽培委員会のメンバーが花の栽培を行っています。今年度は、パンジー、ピオラ、百日草、サルビアなど、様々な草花を季節に合わせて栽培してきました。お客様が入ってこられる玄関の前に色鮮やかな草花を設置し、気持ち良く清水小学校へ来ていただけるように児童も工夫しながら活動しました。

また、公民館とも連携して、4年生が植え付けをしたピオラのプランターを公民館やJAなどに飾っていただき、地域の緑化活動にも貢献しています。

(2) サツマイモ栽培

1、2、4、6年生が学校園の学年で割り振られた場所に、サツマイモを植えました。6月にサツマイモの苗を植え、水遣りや草抜きなどの世話を各学年で行いました。

収穫後は、給食の材料に使っていただき、自分たちが育て、収穫したサツマイモを自分たちで食べることによって、育てる喜びや、食の大切さを実感しました。

(3) 野菜の栽培

2、5年生が野菜の栽培を行いました。

2年生はミニトマト、ピーマン、オクラなど各自が選んだものを一人用のプランターに植え、毎朝水遣りをがんばりました。少しずつ育っていく野菜に児童は喜びを感じていました。

5年生は、JA共済の協力で、キュウリ、ナス、トマトなどの夏野菜を学年園で栽培しました。支柱建て、野菜の苗植え、水遣り、草抜きなど、5年生全員で世話を行いました。自分の顔より大きな野菜を持つ児童の顔は、喜びにあふれていました。



〈栽培委員会の活動〉



〈4年生のピオラ植え〉



〈1年生とサツマイモ〉



〈5年生の夏野菜植え〉

2 まとめ

栽培活動を通して、植物に関心を持ったり、食に対して感謝の気持ちを持ったりすることができました。植物の栽培は1年間通して行っているものなので、今後も地域と協力しながら、自然を大切に、守り育てていこうとする気持ちを育むための活動を行っていきたいと思います。

波止浜緑の少年団の活動

波止浜緑の少年団（今治市立波止浜小学校 教諭） 縄田 秀志

1 波止浜緑の少年団の概要

波止浜小学校では、1～6年生298名が、波止浜緑の少年団として校内や波止浜公民館の緑化推進活動に取り組んでいます。

2 活動の様子

(1) 校内緑化活動

本校では、正面玄関から体育館前に季節に応じた花をプランターに並べて鑑賞できるようにしています。花いっぱいの学校を目指し、栽培委員会を中心に、土づくり・花の移植・草引き・水やりなどの活動を行っています。今年度は、マリーゴールド、サルビア、ポーチュラカ、サクラソウ、クリサンセマム、パンジー、ピオラ、葉ボタンなどを植えました。また、除草や花摘みを繰り返し行い、いつもきれいな草花が鑑賞できるように努めました。児童は自分たちの活動で、多くの花を長く咲かせることができ、満足しています。

(2) 公民館緑化活動

地域の方に喜んでいただけるよう、様々な花をプランターで育て、隣接する波止浜公民館に飾っています。この活動は、地域の方から好評をいただき、児童も喜んでいます。



3 おわりに

今年度も、新型コロナウイルス感染対策をした上での緑化推進活動でした。そのような中でも草花の世話をすることで、命の大切さや緑化活動の大切さを感じながら進めていくことができました。また、集団での活動は、児童相互の信頼関係や協調性を育むことにもつながったと思います。今後も栽培活動を継続して行い、心豊かな児童を育てたいと思います。



菊間小学校緑の少年団活動報告

菊間小学校緑の少年団（今治市立菊間小学校 教頭）近藤 健介

1 はじめに

菊間町は、山と海のある自然豊かな地域で、主産業の石油精製・瓦製造のほか、農畜産業やチリメン等の沿岸漁業も行われています。また、加茂神社の「お供馬の走り込み」（県指定無形文化財）をはじめ、たくさんの伝統行事が地域によって守られています。そのような環境のもと、学校や地域の美しい自然を守るため、5・6年生を少年団のリーダーとして、全校児童102名が意欲的に活動しています。

2 今年度の活動報告

(1) 花いっぱい活動

花いっぱい活動として、正門や玄関周辺で草花のプランター栽培を行っています。マリーゴールドやゼラニウム、ベゴニア、マツバボタン、センニチコウ、ケイトウ、パンジー、ハボタン、プリムラジュリアンなど、たくさんの種類の草花を季節ごとに植え替えて育てています。

また、アサガオやホウセンカを植木鉢で育てたり、ヒマワリやヘチマを学級園で育てたりして、校内が花いっぱいになるようにしています。ゴーヤも栽培し、緑のカーテンづくりにも取り組みました。1年を通して咲き誇っている草花は、児童の登下校を温かく出迎えてくれているようです。

(2) 野菜の栽培

学校園にサツマイモを植え、収穫を楽しみました。6つの縦割り班に分かれ、畝作りや苗植え、水やり、草抜き、収穫などの作業を楽しみました。収穫の喜びを味わうとともに、他学年の児童とも関わることができ、全校での仲間づくりにつながりました。

また、学級園のニンジンやダイコン、ミニトマトなどの野菜作りは、学校生活の楽しみを増やしてくれています。



3 おわりに

緑の少年団活動を通して、身近な自然に親しみ、大切にしようとする気持ちが育ってきています。これからも緑や花があふれる明るい学校を目指し、自然や地域を愛する児童が育つよう、活動を継続していきます。

大三島小学校緑の少年団の活動

大三島小学校緑の少年団（今治市立大三島小学校 教諭）砂田 真宏

1 はじめに

今治市立大三島小学校は、本州と四国を結ぶ「しまなみ海道」の中間、大三島にあります。島内には大山祇神社や豊かな自然があり、年間を通してたくさんの観光客の方が訪れています。大三島小学校緑の少年団は、環境委員会の児童が中心となり、全校児童で組織しています。

2 主な活動内容

(1) 環境委員会の活動

学校の正門から玄関までの通路では、地域の「大三島花作り会」の方からいただいた花を育てています。この「大三島花作り会」は大三島地域の方々と組織し、年2回学校や地域に花苗を提供してくださっています。児童数の少ない大三島小学校では、花苗の寄贈は大変ありがたく、地域とともにある大三島小学校の特色の一つです。

(2) 各学年の活動

それぞれの学年で、生活科や理科、総合的な学習の時間に栽培活動をしています。1年生は生活科の時間にアサガオやクロッカスを育てました。2年生は生活科の時間に自分の植木鉢でミニトマト、学級園でナス、トマト、キュウリ、トウモロコシ、……とたくさんの夏野菜・冬野菜を育てました。3年生は新しく勉強する理科でハウセンカやヒマワリを育てました。4年生はヘチマを栽培し、緑のカーテンを作りました。5年生は総合的な学習の時間にミカンの学習をし、実際にミカンの苗木を育て始めました。6年生は理科の学習でジャガイモを育てました。

どの学年もその教科の学習内容だけでなく、植物を育てる喜びを感じることができました。

3 おわりに

その他にも、環境委員会が中心となって、緑の募金活動に全校で取り組みました。自然豊かな大三島で、これからも地域の方々と共に花いっぱいの学校づくりに取り組み、緑と親しむ活動を続けていきます。

これからも緑豊かな大三島小学校が続いていくよう未来への種まきをしていきます。



〈春の植え付けの様子〉



〈2年生生活科の野菜の観察〉



〈環境委員会が挿し芽で殖やしたポーチュラカ〉

魚島で「幸せの緑」を育てよう

上島町魚島緑の少年団（上島町立魚島小・中学校 教諭）近藤 勇輔

本校が所在する魚島は、瀬戸内海のほぼ中央に位置しており、漁業が主な産業の自然豊かな島です。本校はへき地小規模校で、同じ校舎内に小学校と中学校があり、児童1名と生徒3名が様々な学校行事や地域行事に協力して取り組んでいます。今年度は環境教育の一環として、美化活動を行ったり、野菜の種や花の苗を植えたり、育てた花を地域に届けたりするなどの活動を行いました。

美化活動では、校内や通学路をきれいにする活動を行っています。通学路に落ちている葉や木の枝を拾い集めることで、通学路が美しくなり、登下校しやすくなりました。児童生徒は、校内や通学路がきれいになった様子を見て達成感を感じ、この美しい島をこれからも守っていこうとする気持ちが芽生えました。

また、本校では、毎年野菜や花を育てています。今年度は、ラディッシュやほうれん草などの野菜の種やパンジー、ピオラなどの花の苗を植えました。野菜づくりでは、肥料や腐葉土などを混ぜる作業から行い、おいしい野菜を育てるための土壌づくりの大変さを学びました。大切に育て、収穫した野菜は家庭で調理をして食べました。自分で育てた野菜の味は格別であったようです。花の苗植えは、教員や校務員の指導のもと、一つ一つ丁寧にを行いました。入学式や卒業式等の式典で花を飾るというめあてがあるため、毎日水やりや成長の観察に励み、立派に花を咲かせました。さらに、育てた花は島の公共施設に寄贈しました。地域の方は、「ありがとうございました。大切に育てるね。」と喜んでくれて、児童生徒は自然と笑顔になっていました。育てた野菜は児童生徒を笑顔にし、育てた花は学校や地域を明るく華やかにしました。

これからも、児童生徒だけでなく、地域の方も笑顔になる、緑を通した幸せを育む活動を続けていきます。



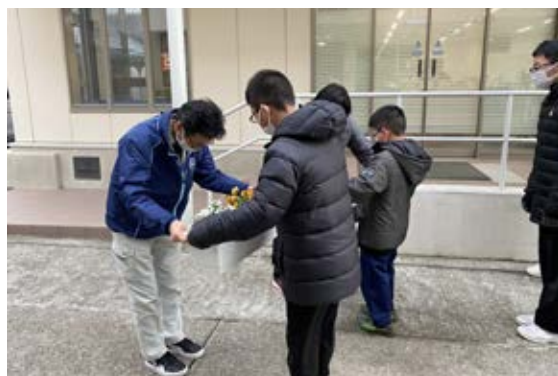
〈美化活動〉



〈野菜の収穫〉



〈花の苗植え〉



〈贈呈式〉

緑あふれる弓削島に！

上島町弓削小緑の少年団（上島町立弓削小学校 教諭）久保 賀愛

1 はじめに

上島町弓削島は、愛媛県と広島県の県境に位置する離島で、海に囲まれた自然豊かな島です。その環境の下で、子どもたちは緑化運動だけでなく、地域の自然環境を生かした豊かな体験活動に取り組んでいます。

2 活動状況について

(1) サツマイモ栽培

4年生が、サツマイモを栽培しています。今年度も2品種の苗を6月初旬に植えました。この辺りは、イノシシがよく出るので、十分な対策をしていないと全て食べられてしまいます。地域の方の栽培指導を始め、多くの方の協力を得ながら10月に無事収穫をすることができました。



〈サツマイモの苗植え〉

(2) まんじゅう山「アスレチックトリムコース」

弓削小学校の裏には、「まんじゅう山」と呼ばれる山があります。そこには、昭和50年代に弓削小学校PTAの方が作ってくださった「まんじゅう山アスレチックトリムコース」があります。しかし、十数年間活用しなかったため荒れ地になっていました。3年前から、トリムコースを復活させ、児童が自由に遊べるコースに生まれ変わりました。



〈遊具で遊んでいる1年生〉

(3) 花の苗植え

12月に、5年生・6年生がプランターにパンジーとピオラの苗を植えました。水やりや肥料やりは、環境委員会に頼みました。根付いて元気よく育った花を見て、「きれいだね」「植えて良かったね」と話している児童の言葉を聞いて、活動をして良かったと感じました。卒業式や入学式には、子どもたちが心を込めて育てたパンジーが式を華やかに演出してくれると思います。



〈苗を植えている5年生〉

(4) 人権の花運動

町から依頼を受け、「人権の花運動」に取り組みました。この活動は毎年ではなく、小学校、中学校と隔年の活動で、今年度は小学校が依頼を受けました。町の予算が学校に割り当てられ、その予算の中でプランターや花の苗、土や肥料などを自由に購入できます。購入後は、緑の少年団員が植え付けました。水やりは、環境委員会の児童に頼みました。植え付け2週間後に、役場や老人ホームなどの公共施設に配りました。



〈役場の方と苗を植えている緑の少年団員〉



〈花の贈呈式〉

上島町生名小緑の少年団活動

上島町生名小緑の少年団（上島町立生名小学校 養護教諭） 徳永美佐希

1 はじめに

本校は愛媛県の北部、広島県との県境に位置する生名島にあります。校庭から対岸に尾道市の因島を眺めることができ、海と山に面した自然豊かな地域です。緑の少年団活動は、全校児童30名が登録し、環境・図書委員会の児童を中心に活動しています。

2 今年度における主な活動

(1) 花いっぱい活動

年間を通して、校庭に花がいっぱいになるように活動しています。春にはポチュラカやブルーサルビア、ニチニチソウ、マリーゴールド、秋にはパンジーやピオラ、ダイアンサス、ノースポールなど年に5回、色とりどりの花を植えました。委員会の時間に土づくりや花の定植を行い、登校後に水やり等の花のお世話をしています。学校の門をくぐると、心を込めて育てた花が来校者や児童を気持ちよく迎えてくれます。また、美しく咲いた花は学校行事や式典に飾り、彩を添えます。



〈様々な花の定植〉



〈毎日の水やり〉



〈校庭の花〉

(2) 人権の花運動

今年度は「上島町人権の花運動事業」として、町の人権擁護委員の方々と生名小緑の少年団でパンジーとピオラを育て、開花に合わせて公共施設や地域の高齢者施設にプランターを贈呈しました。大切に育てた花が町中に広がり、地域の皆様に喜んでいただけたことは、今後の活動の励みになりました。



〈人権の花〉



〈人権の花贈呈式〉

みんなで協力して花を育てることで、私たちもやさしく、おだやかな気持ちになることができました。この花をみて、多くの人が笑顔で喜んでいただけたとうれしいです。

（5年生児童の感想より）

3 おわりに

児童は活動を通して、生活の中に緑がある心地よさを感じながら、みんなで協力する大切さを学び、思いやりの心を育むことができました。今後も活動を継続して、自然豊かな生名島の環境を守っていききたいと思います

上島町岩城小緑の少年団の活動

上島町岩城小緑の少年団（上島町立岩城小学校 教諭）越智 麗世

1 はじめに

本校は、愛媛県の北部、広島県との県境に位置する自然豊かな岩城島にある。全校児童86人が、緑の少年団として、様々な活動を行っている。

2 実践内容

(1) 野菜の栽培活動

岩城小学校では、1～4年生が野菜作りに取り組んだ。夏には、サツマイモ、オクラ、キュウリ、トマトなどを育てた。秋には、1・2年生と特別支援学級の児童が、大根やハツカダイコン作りを行った。

3年生は、給食に新鮮な野菜を提供してくださっている「うまい会」の方に、野菜の育て方を教わった。成長の様子を観察したり、教えてもらったことを実践したりして、収穫の喜びを味わうことができた。

また、今年度から、花だんを整備して、春から夏にかけて3年生のヒマワリ畑、秋から冬にかけて特別支援学級の児童の大根畑として使用した。運動場と近いこともあり、水やりもしやすく、他学年の児童も成長を楽しみにできる良い環境であった。特別支援学級では、小学校にあるレモンの収穫体験をした。畑で育てている大根を間引きしたものと収穫したレモンの皮でふりかけを作る活動をし、育てた野菜を無駄なく使うことで食物を大事にする心情が育った。

(2) 花の栽培

花の栽培は、運営委員会の児童が中心に行った。1年を通してパンジーやピオラなどの定植を行った。花は正門や玄関の周囲に飾り、学校を訪ねる方を気持ちよく迎える工夫をした。土作りやプランター作り、水やりなどの世話を丁寧にする様子から、植物を思いやる心情が育った。

3 おわりに

岩城小学校の児童は、花や野菜を育てる活動を通して、友達と協力することの大切さや、収穫の喜びを経験している。今後も緑の少年団活動を継続し、身近な自然を愛し、大切にしようとする気持ちを育てていきたい。



〈野菜の世話〉



〈大根の間引き〉



〈レモン摘み〉



〈花の水やり〉



〈花の苗植え〉

味酒小学校緑の少年団の活動紹介

味酒小学校緑の少年団（松山市立味酒小学校 教諭） 大久保奈吟

味酒小学校では、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間を育てることを目的として、全校で「一人一鉢」の栽培活動を行っています。毎朝水やりをし、自分が植えた植物が大きく成長して花を咲かせる喜びや実を収穫する喜びを味わうことで命を大切にする気持ちを育てています。

4月には、育ててきた植木鉢を中庭に並べて「花の道」をつくり、入学してきた1年生を歓迎しました。工夫したのは、パンジーなど草丈の低い植物は前列、草丈の高いチューリップは後列にしたこと、同じ種類で同じ色の花が列を作るように並べたこと、花の色が互いに引き立て合うように、前後の列でコントラストをつけた配色にしたことです（資料1）。

入学式の日には、新入生の多くのご家族が「花の道」で写真を撮っていました。また、松山市学校花壇コンクールで優秀賞をいただきました。

栽培委員会では、花の苗を育てたり、放送で水やりを呼び掛けたり、肥料の配付を行ったりして栽培活動をサポートしています。肥料の配付は、粒状の肥料を入れたペットボトルのキャップを、朝、登校してきた児童一人一人に渡すものです（資料2・3）。1か月に1・2度実施していますが、植物が目に見えて成長していくのが実感できます。

また、今年度は、栽培委員会で学校西側の歩道に面した敷地に、長さ約40mにわたってスイセンの球根を定植しました（資料4）。

スイセンは、昭和57年に味酒校区の「街の花」に選定された故郷の花です。この歩道はJR松山駅やフジグラン松山などに近いことから、通勤、通学、買い物等の人通りが多いことから、道行く方々の心が安らいたり、楽しんだりという願いを込めて、スイセンの世話をしています。



〈資料1 花の道〉



〈資料2 朝の肥料配付〉



〈資料3 自分の鉢への施肥〉



〈資料4 スイセンの植え付け〉

松山市立東雲小学校緑の少年団活動

松山市立東雲小学校緑の少年団（松山市立東雲小学校 教諭）中田 久美

1 はじめに

本校は、校区に松山城があり、松山市の中央に位置しています。校舎の改築に伴って学校の敷地内の様子も大きく変わりましたが、新しい環境のもと、よりよい栽培活動となるよう、栽培環境を整え、工夫を重ねてきました。

東雲小学校緑の少年団は、全校児童で構成され、一人一鉢栽培や教材園、プランターなどでの栽培活動に、日々取り組んでいます。

2 主な活動内容

(1) 一人一鉢栽培活動

全校児童で、一人一鉢栽培活動を行っています。

前期には、教科学習とも関連させ、アサガオ、ミニトマト、ホウセンカ、マリーゴールド、マツバボタン、ペチュニアを、後期には、パンジー、チューリップ、デージー、クリサンセマムを育てました。

後期に大切に育てた全校児童の鉢で、卒業式や入学式の式場や玄関を飾ったり、学校花壇コンクールに参加したりしています。

(2) 教材園での栽培活動

本校には、正門や児童玄関の近くに、教材園があります。学級に1区画ずつ（特別支援学級は3学級で1区画、2年生は学級数+1区画）あります。

前期は、生活科や理科の学習で利用しています。4年生の区画では、棚を使ってヘチマを育て、松山市立子規記念博物館のヘチマコンテストに出品しました。

後期は、花いっぱいの花壇を目指し、各区画に品種の異なるチューリップを含めた3～4種類の球根や花苗を植えました。レイアウトについて学級で話し合い、子どもたちが協力して植え付け作業をしました。春に花いっぱいになるのを楽しみに世話を続けています。

(3) 栽培委員会の活動

栽培委員会は、5、6年生15名で活動しています。一人一鉢や教材園で育てる花の種まきや育苗、苗や球根の植え付けなどに取り組みました。日々の水やりとともに、12月からは、毎週木・金曜日、全校児童の一人一鉢への液肥やりの世話を行いました。

また、委員会で育てたフウセンカズラで、全校児童を対象に、学年ごとに日を設定し、昼休みに「フウセンカズラの種とり体験」を行いました。

3 終わりに

今年度はSDGsの視点からも、「花いっぱいの学校」づくりが、みんなの心を豊かにすることを大切にしました。今後も、環境を生かし児童が自分でできることを創造し、自然に関わる活動を深め広げていきたいと考えています。



〈学校花壇コンクール〉



〈教材園を花いっぱい〉



〈液肥やりの世話〉



〈フウセンカズラの種取り体験〉

花いっぱい 학교に ~令和4年度の活動~

松山市立湯築小学校緑の少年団（松山市立湯築小学校 教諭）平田 啓

1 はじめに

湯築小学校緑の少年団は、緑化栽培活動を通して、「命を大切にする」、「優しい気持ちを育む」ことを目的に活動しています。さらに、団員だけではなく、全校児童で一人一鉢の栽培活動を行い、自然を愛する心や環境を大切にする心を育てています。

2 活動状況

(1) 団員の活動

今年度は、校内を花と緑で彩ることを目標に、活動してきました。5月、6月には、花壇や鉢の手入れ、草抜きなどを行いました。9月には、夏植えのできる花を話し合い、正門周辺にクリサンセマムを植え付け、その世話をしました。こまめに花摘みや水やりを行うことで、立派な花を咲かせました。10月には、校内の渡り廊下周辺に花壇を作りたいという意見の下、ピオラを植え付けました。「ゆづき」の字になるよう、団員たちが配置と配色を話し合い、美しい花壇が完成しました。

(2) 全校での一人一鉢活動

5月は、各学年の生活科や理科、総合的な学習の時間など、教科に関わる花や野菜を育てました。11月には、全校児童で一人一鉢の栽培活動に取り掛かりました。1年生は、チューリップ、2・3年生はパンジー、4・5年生はピオラ、6年生はサクラソウを植えました。自分の花をきれいに咲かせようと、児童一人一人が水やりや草抜き、花摘みに責任をもって取り組んでいます。



〈団員による花壇づくりの様子〉



〈団員の作った花壇〉



〈一人一鉢の花〉

3 おわりに

児童たちは年間を通じて、よく観察しながら花の世話をしていました。休み時間には花壇周辺の虫を採集したり、摘んだ花を押し花にしたりするなど、自然に親しむ姿もたくさん見ることができました。また、団員たちは自分たちで工夫して花壇を作り、緑あふれる学校にしようと主体的に活動してきました。今後も、全校児童の「自然を愛する心」や「環境を大切にする心」の育成に努めていきたいと思ひます。



〈一人一鉢の栽培活動〉

「河中緑の少年隊」の活動について

河中緑の少年隊（松山市立日浦小学校 教諭）宮本 春奈

1 はじめに

本校は、高縄山地の山並みや石手川の清流など、豊かな自然に囲まれています。春の桜や菜の花、夏のホタル、秋の彼岸花や紅葉、冬の雪景色など、四季折々の美しい自然の中で、小中連携教育を実践しています。

2 主な活動内容

「ヒメユリの播種」

ヒメユリは、日浦地区に自生する小さなヤマユリで、絶滅危惧種になっている貴重な山野草です。今年度も小学1年生と日浦中学校の3年生がヒメユリの保護活動を行い、種床作り・播種・中学校内の花壇への植え替えをしました。開花まで3～5年もかかると言われているヒメユリですが、子どもたちの手で大切に育てられています。



〈ヒメユリの花〉

「530（ごみゼロ）運動」

小学1年生から日浦中学校3年生までの縦割り班に分かれ、年に3回、学校周辺や国道317号沿道のごみを拾ったり、草抜きをしたりと、清掃活動を実施しています。夏の「ホタル観賞会」、冬の「日浦駅伝」前に自分たちの手で地域をきれいにしようと意欲的に取り組み、地域の環境美化に対する意識を高めました。



〈播種作業の様子〉

「米作り」

小学校1・2年生は学校田、3年生から6年生及び中学生は借用田において米作りを行いました。ひえぬきでは、時が経つにつれて大きく育っていく稲の間を通りながら、ひえを取り除きます。稲刈りでは、校務員さんに鎌の安全な使い方を分かりやすく教えていただき、手際よく稲を刈ることができました。大変な作業ですが、美味しいお米をたくさん収穫するには欠かせません。農家の方々への感謝の気持ちが、より一層強くなったようでした。日浦ならではのこの体験によって、自然の豊かさや恵みをしっかりと感じる事ができました。



〈530運動の様子〉



〈稲刈りの様子〉

3 おわりに

今年度も花、野菜や米の栽培活動や清掃活動等を通して、身近な自然に親しみ、自然を愛する気持ちが育っていると感じます。今後も日浦の自然を生かした活動、日浦の自然を守る活動を積極的に行い、心豊かな児童を育てていきたいと思ひます。

元気いっぱい、花いっぱい、坂本緑の少年団

坂本緑の少年団（松山市立坂本小学校 教諭）菅野 真理

今年度は、全校児童による「一人一鉢花いっぱい運動」や、学習園の「花や野菜いっぱい運動」などの緑化運動に取り組みました。

花をたくさん咲かせて学校を明るくするために、春と秋の2回、季節の花を、1人が1つの鉢（学年によってはプランター）に植えました。学年ごとに、春はニチニチソウ、ハウセンカ、ペチュニア、マリーゴールド、サルビアを植えました。秋にはサクラソウ、チューリップ、ピオラ、クリサンセマム、ムスカリを植えました。児童は、一人一人が自分のプランターに責任を持ち、草引きや水やり、施肥などの世話をし、いつでも学校に元気な花があるように心掛けました。現在育てている花を立派に咲かせて今年度の卒業生を見送り、来年度の1年生を花いっぱい迎える予定です。



〈一人一鉢の水やり〉



〈正門を彩る花々〉



〈委員会による花の世話〉

また、環境委員会は、学校の正門や行事に飾るための花の世話を行いました。「坂本小学校が花や緑のたくさんある学校にしたい」「学校に来ていただいた人たちに素敵だと思ってほしい」という思いを持ち、毎朝世話をしています。

学習園には、授業に必要な花や野菜を育てました。生活科では、少人数の良さを生かし、サツマイモや自分の育てたい野菜を、一人一人が季節に合わせて栽培しました。高学年では、理科の学習に必要なハウセンカ、ヒマワリ、ヘチマなどとともに、ジャガイモなどを育て、観察をしながら大切に育てました。

校庭や学習園の草引きは、毎週月曜日、1年生から6年生までの縦割り班清掃で取り組んでいます。特に学習園では、花や野菜が十分に育つよう協力して丁寧に草引きをすることができました。

これらの活動を通して、児童一人一人に、小さな生命も大切にする優しい気持ちが育っています。来年度もこれらの活動を継続する予定です。

松山市立双葉小学校緑の少年隊活動報告

松山市立双葉小学校緑の少年隊（松山市立双葉小学校 教諭） 鏝河内 薫

1 はじめに

本校の敷地内には日本庭園があり、桜やハナミズキなど、四季折々の姿を楽しむ木々がたくさん植えられています。子どもたちは、理科や生活科で花を観察したり虫探しをしたりするなど、日々、自然に触れ合い親しんでいます。

2 主な活動内容

(1) 一人一鉢栽培

全校児童645名は、緑の少年隊の一員として一人一鉢栽培に取り組んでいます。毎朝、ペットボトルに水を入れ、自分の花に水をやった後、草を取ったり、枯れた花をちぎったりして大切に育てています。子どもたちが育てた花は、校内をきれいに彩るとともに、卒業式や入学式の会場を華やかに飾ることで全校の子どもたちからの「おめでとう」の気持ちを伝えています。

学年	前期（春植え）	後期（秋植え）
1年生	アサガオ	チューリップ
2年生	夏野菜	クリサンセマム
3年生	ハウセンカ	パンジー
4年生	サルビア	パンジー
5年生	マリーゴールド	ピオラ
6年生	サルビア	パンジー

〈一人一鉢栽培〉



〈令和4年度入学式〉

(2) サツマイモ栽培

1年生と2年生、特別支援学級の子どもたちは、サツマイモを育てました。春にサツマイモの苗を1人1本植え付けました。すくすく成長する様子を観察カードに記入したり、草取りをしたりしました。11月に入ってサツマイモの収穫を行いました。つるを引っ張ったり、スコップで土をひっくり返したりして出てきたサツマイモを見付ける度に歓声が上がりました。収穫したサツマイモの一部はふかして全員で試食しました。残りは持ち帰り、各家庭で料理をし、収穫を祝いました。



〈サツマイモの収穫〉

(3) 栽培委員会の活動

栽培委員会では、「双葉小学校を花いっぱい学校にしよう」と年間計画を立て、取り組みました。本年度も花文字を書き、中庭を飾りました。どんな文字がいいか話し合い、「ハッピー」という文字に決めて飾りました。後期は、卒業式や入学式に飾るたくさんの花の世話を寒さに負けずに行っています。また、校内だけではなく、地域も花いっぱい学校と育てた苗を全校の子どもたちに配布



〈花文字「ハッピー」〉

しました。袋を持って集まってきた子どもたちに「大切に育ててね。」と声を掛けながら、苗を配っていました。

3 終わりに

子どもたちは、「美しく花が咲く双葉小学校にしよう」と、毎朝、水やりをして世話をしています。これからも、栽培活動を通して自然を愛する心を育てていきたいと思っています。

姫山小学校緑の少年団の栽培活動

姫山小学校緑の少年団（松山市立姫山小学校 6年生）岸田 妃禾

姫山小学校は、小高い丘の中腹に位置し、四季の景色を楽しみ、自然を身近に感じることができる学校です。

私は、栽培委員会に所属しています。私たち姫山小学校の栽培委員会は、みんなで話し合い、協力しながら様々な活動に取り組んでいます。

常時活動として行っているのは、月・水・金曜日の登校してからの花壇の整備です。7時45分までの間です。やってみて、あまり目立たない活動だと感じることもあります。でも、私たちが正門周辺の花壇の雑草を抜いたり、水やりをしたりすることで姫山小学校が花いっぱいの素敵な学校となり、登校してくる姫山っ子が笑顔になってほしいと思い、心を込めて花のお世話をしています。

定時活動では、1か月の活動を振り返り、常時活動ではなかなか行うことができないことを行います。花の植え替えの時期には、みんなで何を育てたいか話し合いました。インターネットなどで自分たちが調べ、無理なく育てられるものを選びました。自分たちで植える花を決めることができるのは、とても楽しいです。他には、使い終わった土の再生や、枯れてしまった花の後始末、土で汚れた鉢をきれいに洗うなど、全校のみんなが気持ちよく栽培活動に取り組める準備をしています。これらの作業をしていると、土の中や鉢の間から虫が出てきて驚くこともありますが、それも楽しいハプニングの一つとしていい思い出になりました。

全校児童による前期の一人一鉢栽培は、苗から育てるのではなく、自分が選んだ花を種から育てました。種から育てるため、芽が出た時の喜びを感じることができました。また、学級のペランダにいろんな種類の植物が並んだので、それぞれの違いを楽しむこともできました。

また、低学年は、花壇や学級園で年間を通して野菜やサツマイモを育てて、収穫を喜んでいました。

後期の一人一鉢栽培は、卒業式や入学式の会場を飾るために心を込めて育てています。自分たちの卒業式に思いを込めて育てた花を飾ることができるのは、いい思い出になります。



〈入学式〉



〈サツマイモの収穫〉



〈花の植え替え〉

育てた野菜でピザづくり

立岩緑の少年団（松山市立立岩小学校 教頭）出山 利昭

本校の緑の少年団は、全校児童15名で校内の緑化活動と野菜の栽培活動に取り組んでいます。今年度の春は、サルビアとポーチュラカを、秋にはパンジーやピオラ、葉ボタンを植えました。正門周辺に並んだ四季折々の花は学校を彩り、来校者の目を楽しませています。

野菜の栽培活動では、春から夏にかけて、学級園や三角畑でトマトやナスビ、ピーマン、キュウリ、ダイズ、トウモロコシ、スイカ、オクラなどの夏野菜をたくさん育てました。昨年の冬から育てていたジャガイモもたくさん収穫できました。秋に育てたサツマイモは、日頃お世話になっている地域の方にもおすそ分けして、たいへん喜んでいただきました。



〈三角畑のジャガイモ〉



〈学級園の新鮮野菜〉



〈大きなサツマイモが獲れたよ〉

今年、学校で収穫した夏野菜やサツマイモは、手づくりピザのトッピングにもしました。本校には、学校としては珍しく、ピザ窯が二つも設置してあります。このピザ窯は、PTAが地域の協力を得て設置したものです。学校で収穫した四季折々の野菜をどうするか話し合う中で、子どもたちから「ピザの材料にしたい」という案が出て、実現することになりました。子どもたちは、薄くスライスしたサツマイモと好みのトッピングをピザ生地並べて、自分のピザをつくります。トッピングが完成したピザ生地は、PTAのお父さんたちがピザ窯に入れて、絶妙な火加減で焼き上げてくれました。自分たちで育てた野菜をトッピングにした焼きたてピザが食べられる学校は、立岩小学校ならではの自慢です。子どもたちと保護者の皆さん、お手伝いに来てくれた地域の方と先生たち、みんなで手づくりピザを味わいました。これからも、立岩緑の少年団は、四季折々の花と野菜を育て、学校と地域を明るく元気にしていきます。



〈立岩小のピザ窯〉



〈焼きあがったサツマイモピザ〉



〈おいしいね！〉

笑顔と花が咲き誇る学校・地域をめざして

正岡小学校緑の少年団（松山市立正岡小学校 教諭）岡本 孝徳

1 一人一鉢運動

本校では、栽培委員会や各学年が、年間を通して栽培活動に取り組んでいます。栽培委員会では、土づくりから種まき、移植、施肥など1年を通して学校に花が咲き続けるよう、植物の世話を計画的に行っています。また、全校でも1・2年生はアサガオ、チューリップ、3年生はヒマワリ、ホウセンカなど、学習の内容に合わせた植物を育てるとともに、「一人一鉢運動」として、一人一人が自分たちで育てるための花を植え、その世話に取り組んでいます。他にも、朝のボランティア活動の時間には、自分の担当する花の水やりをしたり雑草を抜いたりと自主的に活動しています。自分たちの育てた花で、卒業式の式場を美しく飾り、卒業生に喜んでもらうことを目標に日々頑張っています。



〈毎朝の水やり活動〉

2 おもしろ理科出前教室

4年生は、市教育委員会が主催する「おもしろ理科出前教室」に参加しました。講師の先生から花の世話について、水やりや施肥の仕方など様々な知識を教えていただいた後、ピオラ、アリッサム、キンセンカ、シレネなどの花の苗を植える活動を行い、その世話に励んでいます。今年も美しい花々が学校を彩ってくれることでしょう。



〈4年生「おもしろ理科出前教室」〉

3 桜の植樹

3月には、6年生が卒業記念行事として、地域にある八竹山で桜の植樹を行っています。地区のまちづくり協議会の方や保護者の方と協力して、桜の苗木を毎年5本ずつ植えています。これまでの卒業生が植えた苗木も成長を見せており、多くの桜が咲き誇る未来のふるさと光景を楽しみにしています。



〈桜の植樹の様子〉

北条小学校緑の少年団活動

北条小学校緑の少年団（松山市立北条小学校 教諭）塩見 佳世

1 はじめに

本校の緑の少年団は、全校で校内緑化活動を進め、花や緑であふれた学校を目指しています。

2 活動内容の様子

(1) 全校での取組み

本校では、栽培委員会や各学年が、年間を通して一人一鉢の栽培活動に取り組んでいます。子どもたちは登校すると、ペットボトルで水やりをしたり、花摘みをしたりしています。その時、友達の花も見て、水やりのことや花の様子などを話しており、植物を大事にする気持ちが育っていると感じました。花鉢は正門から児童玄関までの通路を彩っています。

2年生は、生活科の内容に合わせて夏野菜を育て、成長の様子を写真に撮ったり観察記録を付けたりしました。

(2) 花の植替え

1学期は、6月にホウセンカ、マリーゴールド、サルビアの苗の植替えをしました。栽培委員の子どもたちが、児童全員の名前テープを鉢に貼ったり、フラワースタンドの準備をしたりしました。苗の植替えは、学級ごとに行いました。立派な苗を見て子どもたちはとても喜んでいました。根を傷めないように慎重にポットから取り出し、根が浮いてこないように土をたっぷりかぶせて植替えました。

2学期は、11月下旬にクリサンセマム、ピオラ、パンジー、桜草の苗の植替えをしました。桜草は、子どもたちが毎朝、土の乾き具合を見て水やりをしています。パンジーやピオラ、クリサンセマムは、すくすく元気に育ち次々に花を咲かせています。

(3) クリーン活動

毎年7月に行われているクリーン活動は、今年度も感染症の影響で実施できませんでした。しかし、夏休み明けに全校で草引きをしたり、日頃の清掃活動で落ち葉集めをしたりしました。栽培委員会では、花鉢の草引きをしたり、植替え後の清掃をしたりするなど、校内環境の美化に取り組んでいます。



〈委員会による植替えの様子〉



〈花摘みの様子〉



〈朝の水やりの様子〉

3 終わりに

これからも、緑の少年団活動を通して、美しいもの、命あるものに感動し思いやりをもって接する気持ちや、環境を守り大切にしようとする気持ちを子どもたちが育んでくれることを願っています。

日浦を心のふるさとへ

日浦緑の少年団（松山市立日浦中学校 教諭）大野 浩明

1 はじめに

本校では、「環境や環境問題に関心を持ち、よりよい環境づくりに主体的に取り組む生徒の育成」を研究主題に設定し、「環境について学ぶ」「環境から学ぶ」「環境のために学ぶ」という3つの視点から環境教育に取り組みました。

2 各学年の主な学習活動

- (1) 炭焼き活動（昭和62年度より実施、本年度は1年生が担当）

先輩方と地域の方々の方が作った炭窯を利用して、端材を活用した炭焼き活動を引き継いでいます。温度管理が大切で、窯に火を入れてからはこまめに温度を確認しながら丁寧に焼き上げます。地域の方々の御指導は欠かせません。



〈炭出し〉

- (2) ホタルの保護活動（昭和58年度より実施、本年度は2年生が担当）

例年6月にホタルパトロールを行い、地元の川に生息するホタルの数を調べています。雌雄のホタルを捕獲して産卵させ、毎日えさやりなどの世話をし、幼虫を育てます。この幼虫を捕獲した場所に放流することで、たくさんのホタルが舞う日浦の里を守っています。



〈ホタル観賞会〉

- (3) 絶滅危惧種指定の地域の花「ヒメユリ」の保護活動

（平成5年度より実施、本年度は3年生が担当）

ヒメユリは種を植えてから球根になるまで3年、花を咲かせるまでに5年かかります。小学校1年生と一緒に種をまいたり、卒業した先輩方が育ててきた苗を引き継いで育てたりしています。今年咲いたヒメユリからも、多くの種子を採集することができました。ヒメユリの花の咲く日浦の復活が楽しみです。



〈ヒメユリ播種〉

3 その他の活動

- (1) 地域の休耕田を利用した米作り（平成15年度より実施）

地域の方々の御指導のもと、小学生と協力して手作業での米作りをしています。

- (2) 530（ごみゼロ）運動（昭和55年度より実施）

道路のごみ拾いや草刈りで地域をきれいにする運動を学期に1回実施しています。日浦地区を小中学校全員で掃除することで、地区への愛着も深まります。

- (3) 「全国緑の少年団活動発表大会」（令和4年11月12日実施）

愛媛県を代表し、全国緑の少年団活動発表に団長と副団長の2名で参加しました。松山市や日浦地区の紹介をし、日頃の少年団活動を伝えました。全国各地の活動内容を知ることで刺激を受け、より本校の活動に積極的に取組もうという気持ちになりました。



〈全国少年団活動発表大会〉

4 おわりに

少年団の活動は私たちの力だけでできるものではありません。これまで活動してきた先輩、協力してくださる地域の方々や保護者の方々のおかげでできる活動です。また、その成果を広く啓発することで今後の活動の幅が広がったり、より高い効果が期待できたりすると思います。このような伝統の継承と啓発が私たちの役割だと考えます。

愛大附属緑の少年団活動報告

愛大附属緑の少年団（愛媛大学教育学部附属特別支援学校 教諭）笠井真奈美

1 はじめに

本校は、小学部・中学部・高等部合わせて59名の児童生徒が在籍している学校です。緑の少年団は、中学部生徒18名が中心となって活動しています。今年度は学校の緑化活動、地域の清掃活動、農園での野菜栽培に加えて、新たに校内にあるリヤカーや傘立てなどの修繕に取り組みました。

2 主な活動内容

(1) 学校の緑化活動（写真1）

緑化活動は、昨年度使ったプランターの土をこして、再生材と混ぜ、土を再生することから始まります。そして、園芸班が種から育てた苗を使って、校内を美しく彩ります。今年は春から夏にかけてマリーゴールド、ポーチュラカ、秋から冬にはパンジー・ピオラ・クリサンセマムなどを育てました。



〈写真1 プランターの入れ替え〉

(2) 地域の清掃活動（写真2）

今年も附属校園内の清掃に取り組みました。学年縦割りで班編制を行い、4日間実施しました。初めて参加する中学1年生は、ほうきやてみの扱いが日ごとに上達し、先輩を見習って進んで活動する姿が見られました。



〈写真2 附属中グラウンドの清掃〉

(3) 農園での野菜栽培（写真3）

津田山にある農園で、季節ごとに様々な野菜を栽培しています。学校から農園までスクールバスで移動し、1時間ほど農作業を行います。今年は何の野菜も豊作で、タマネギ、ピーマン、水菜、春菊、ダイコンなどたくさんの種類の野菜を栽培し、収穫の喜びを味わいました。



〈写真3 サツマイモの収穫〉

(4) リヤカーや傘立て等の修繕（写真4）

清掃活動で使用するリヤカーや、校内の傘立て、靴箱などの修繕を行いました。はじめにやすり掛けを行い、表面の凸凹をなくしてからペンキを塗ります。やすり掛けの作業は大変ですが、みんなで協力することで楽しみながら取り組みました。



〈写真4 リヤカーの修繕〉

3 おわりに

今年度は新しい活動が加わり、緑の少年団活動がより充実したものとなりました。今後も緑と花にあふれる地域作りの一翼を担っていききたいと思います。

難波小学校緑の少年団活動 ～花いっぱいの学校に～

難波小学校緑の少年団（松山市立難波小学校 養護教諭）井上 芽衣

1 はじめに

本校は、松山市の北部の難波地域に位置し、春には松山市天然記念物「エヒメアヤメ」が淡い紫色の花をつけ、夏には恵良山があざやかな緑色をみせてくれるなど、豊かな自然に恵まれています。今年度は緑の少年団結成3年目となりました。全校児童52名で緑の少年団活動に取り組んでいます。

2 主な活動内容

(1) 花いっぱい運動

色とりどりの花で学校をいっぱいにするために、一人一苗をプランターに植えて、季節の花を育てました。6月には、マリーゴールド、日日草、サルビアを、10月には、なでしこやピオラの苗を植え、体育館の周りを飾りました。12月にはチューリップの球根植えも行いました。全校での活動では、高学年が低学年に苗ポットの扱い方や球根の向きなどをそっと手助けしたり優しく教えたりと異年齢交流の場にもなりました。また、毎朝、プランターの様子を見て水やりを行うのが日課となっていて、花が身近にある生活になっています。

(2) 栽培活動

総合的な学習の時間に、庄地区で古くから作られてきた伝統野菜である庄大根の栽培を行いました。土嚢袋を使つての栽培で、秋には防虫ネットをするなど工夫しながら栽培しています。庄大根の特徴であるあざやかな赤色や甘みが出せるように世話をしています。収穫が楽しみです。



〈毎日の水やり〉



〈体育館前の花〉



〈一人一苗運動〉

3 おわりに

現在、大規模改造主体工事を行っています。制限のある中での活動ではありましたが、プランターで栽培した花によって学校が明るく彩られました。来年度は、学級園での、野菜栽培にも挑戦したいと思います。

緑の少年団の活動を通して、身近な自然に親しみ、自然を大切にする気持ちが育ってきています。今後も緑や花があふれる学校・地域を目指し、活動を継続していきたいと思っています。



〈庄大根栽培〉

地域の自然に学び、感謝する緑の少年隊活動

上林ささゆり緑の少年隊（東温市立上林小学校 教諭）橋本優里絵

1 はじめに

令和4年度、上林ささゆり緑の少年隊は、「緑に囲まれた豊かな自然の中で、緑を育て、緑に親しみ、緑に学び、互いに助け合いながら進んで奉仕しよう」という活動目標のもと、3～6年生、計17名で活動を行いました。

2 活動の内容

- サツマイモの苗植え
- 「谷の公園」ボランティア清掃
- 一人一鉢栽培活動
- 環境ポスターの製作・貼り替え
- 米づくり（稲刈り、脱穀等）
- 朝の落ち葉集め
- 椎茸植菌体験
- 総会



〈「谷の公園」ボランティア清掃〉



〈米づくり〉

3 主な活動の様子

(1) 「谷の公園」ボランティア清掃

6月中旬に「谷の公園」の清掃を行いました。「谷の公園」は、皿ヶ嶺登山やサイクリングを楽しむ人の休憩スポットであり、ささゆり緑の少年隊の石碑がある、上林にとって憩いの場です。地域の方々にも協力していただき、刈った草をトラックいっぱい集めることができました。今回の体験から、身近な自然環境を整える大変さを実感させるとともに、定期的に清掃をして、地域の大切な自然環境を守っていかねばならないという心情を育てました。

(2) 米づくり

本校では、毎年地域の方々の協力を得て、田植えや稲刈り、脱穀等、米の収穫に関する一連の体験を教育活動の中に位置付けています。田植えは、資源環境保全会の方々の御指導のもと、米の豊作を願う儀式である「おさんばいおろし」から始まります。地域に伝わる風習を体験させていただくことも貴重な学びとなっています。子どもたちは、鎌を上手に使うって稲刈りを行い、稲木干しを体験する中で、束ねた稲穂の重さに植物の生長を感じました。12月には、収穫した米を使って地域の方と餅つきを行い、おいしくお餅をいただきながら、収穫した喜びを味わいました。

4 おわりに

「谷の公園」のボランティア清掃や米作り等の体験を通して、自然の恵みに感謝し、地域の自然を守り育てていこうという意識の高まりを感じました。今後も、地域の豊かな自然環境を生かし、緑を育て、緑に親しみ、緑に学び、進んで奉仕しようとする児童の育成を目指します。

西谷緑の少年隊活動紹介

西谷緑の少年隊（東温市立西谷小学校 教諭）渡部 好紀

1 はじめに

西谷緑の少年隊は、4～6年生の20名で活動しています。また、1～3年生の準隊員も一緒に活動し、森の魚“モーリー”をシンボルに、緑化活動や美化活動に取り組んでいます。

2 活動の様子

○ 朝ボランティア活動

毎朝10分間、朝ボランティア活動の時間を設定しており、全校児童で花の種蒔きや花植などの緑化活動、草引きや落ち葉掃きなどの美化活動に取り組んでいます。

1学期には6種類、2学期には14種類の花を、種から育てました。東温市地域協働活動サポーターである、元校務員の方に御指導いただき、種蒔きや定植の仕方を教わりました。2学期だけでも1,000以上の花が育ち、学校や地域の花壇に植えました。1年間、季節ごとの花でいっぱいになりました。



〈苗植え〉

○ サツマイモ栽培

5月に緑の少年隊結成式の記念行事として、サツマイモの苗を植え、全校児童が縦割り班ごとに世話をしました。昨年度は不作だった上、イノシシの被害に遭ったために全く収穫できませんでした。

そこで、今年度は栽培する前から草木灰などの肥料を撒いて土作りをしたり、イノシシ除けのテープを畑の周りに張り巡らしたりしました。そのおかげで、秋にはたくさんのサツマイモを収穫することができ、収穫の喜びを味わうことができました。



〈芋掘り〉

○ 自然体験教室

星空・ホタル観賞、七夕飾り、野菜スタンプ作り、ジャック・オー・ランタン作り、しめ縄飾り作りなどの活動を行いました。平日の夜や休日に実施する教室ですが、多くの児童や保護者が参加し、自然の壮大さやよさ、地域の方々に関わる楽しさを感じることができました。

○ 米作り

地域の有機グループの方々に御協力いただき、米作り体験をしました。6月に泥の感触を味わいながら手植えをし、9月には昔ながらの方法を用いて、稲木で米を乾燥させる稲刈りをしました。作業の前には、地域の方から苗の育ち方や苗の植え方、刈り取り方についてお話を聞く場もあり、貴重な体験ができました。



〈田植え〉



〈稲刈り〉

北山っ子緑の少年隊活動報告

北山崎小学校緑の少年隊（伊予市立北山崎小学校 教諭）石田 智愛

1 はじめに

本校は、東に谷上山、西に伊予灘を臨む、豊かな自然や田畑に囲まれた地域にあります。自然豊かな環境のもと、全校児童が緑の少年隊の一員として栽培活動やボランティア活動を行い、環境整備に取り組んでいます。緑・花いっぱいの学校づくりを目指し、身近な自然に親しみ、一つ一つの命を大切にする心を育てる活動を進めています。



〈育てた野菜の収穫〉

2 主な活動内容

(1) 栽培活動

本校では、児童一人一人が自分の花を育てる「一人一鉢活動」を行っています。春にはサルビア・ポチュルカ・マリーゴールドを、秋にはパンジー・ピオラ・サクラソウ等を育てています。児童は、自分たちが植えた花の成長を楽しみにしており、登校後すぐに花の様子を見に行き、水やりをしたり雑草を抜いたり大切に世話する姿が見られました。一人一鉢で育てた花は、学校を彩り、入学式や卒業式などの会場も華やかにしています。



〈稲刈り〉

この他に、各学年で生活科や理科、総合的な学習の時間、委員会活動と関連させながら、野菜作りや米作りを行いました。特に5年生の米作りの活動では、地域の方にご指導・ご協力していただいたり、収穫した米を学校行事の際に販売したりするなど地域との交流の場となっています。



〈米の販売〉

(2) 朝のボランティア清掃活動

本校児童は、登校してすぐ朝のボランティア活動として、校庭の草引きや落ち葉集めなどの習慣が身に付いています。秋には、落ち葉を100袋分集めようという活動で全校児童が気持ちを一つにして取り組みました。目標を大幅に超え、たくさんの落ち葉を集めることができました。自分たちの学校は自分たちできれいにするという環境美化の精神が育ちつつあります。



〈朝のボランティア清掃活動〉

3 おわりに

今年度も栽培活動やボランティア活動を通して、身近な自然に親しみ、一つ一つの命を大切にする心が育っていると感じます。これからも、命を大切に、緑や花があふれる学校を目指し、活動を継続していきたいと思えます。

中山小学校緑の少年隊の活動紹介

中山小学校緑の少年隊（伊予市立中山小学校 教諭）坂井 見早

1 はじめに

本校は、伊予市の南部に位置し、四方を山に囲まれた緑豊かな校区です。本校では、全校児童45名が緑の少年隊員になっており、栽培活動やクリーン活動等、緑や花いっぱいの美しい学校づくりに努めています。

2 主な活動内容

(1) 緑化活動

年間を通して花や野菜の栽培を行い、緑豊かな環境づくりに取り組んでいます。一人一鉢運動として、1・2年生は生活科の学習と関連させながら春にはアサガオを育て、秋にはチューリップの球根を植えました。3～6年生は春にはサルビアやポーチュラカ、秋にはパンジーの苗を植えました。どの学年の児童も、花の成長を日々楽しみにしながら、登校後の水やりや草取り、花がら摘みなどの世話や観察に励んでいます。また、生活科や理科などの教科学習と関連させながら、学級園で野菜等の栽培も行いました。1・2年生は、ミニトマトやキュウリなど、それぞれ自分の育てている夏野菜に名前を付けて世話をし、たくさん収穫して喜びました。また、3・4年生は、ヒマワリやヘチマが自分の背よりも大きく成長したことや出来た種の多さに驚きました。

(2) クリーン活動

本校では、毎週木曜日を「全校みどり」の日とし、全校一斉のクリーン活動を行っています。毎日遊んでいる校庭や遊具場をきれいにしようと、暑さや寒さに負けずに草取りや落ち葉拾い等に取り組んでいます。毎回、活動後はゴミ袋やじょうれんいっぱいの草や落ち葉を運びながら「こんなに取れたよ」「きれいになった」と達成感を持つことができます。

3 おわりに

1年間の活動を通して、子どもたちは花のある学校生活のよさや、花や野菜を育てることの大変さや達成感を感じています。今後も緑の少年隊の活動を通して、身近な植物に触れながら、自然や命を大切にする心や奉仕の心を育んでいきたいと思えます。



〈登校後の水やり〉



〈サツマイモの収穫〉



〈花の植え替え〉



〈遊具場の草取り〉

佐礼谷小学校 緑の少年隊活動

佐礼谷小学校緑の少年隊（伊予市立佐礼谷小学校 教諭）二宮 裕美

1 はじめに

本校は、伊予市南東の山間部に位置する全校児童11名の小規模校です。春は新緑、夏はホタル、秋は紅葉、冬は雪景色と四季折々の景色あふれる自然豊かなところ。地域の方々も学校の教育活動に関心が高く、野菜作りや奉仕活動など、様々な面で協力していただいています。このような恵まれた環境の中で、子どもたちは学校生活を送り、緑の少年団活動にも全校児童が意欲的に取り組んでいます。

2 主な活動内容

(1) 花いっぱい運動

一人一鉢運動として、校庭に季節の花が咲くよう取り組んでいます。春にはマリーゴールドやサルビア、秋にはチューリップやパンジーを植えました。育てた花は学校の玄関前に飾られ、学校に来た方々を温かく迎えました。



〈球根植え〉

(2) 野菜や花の栽培活動

各学年で生活科や理科などの教科と関連させながら、野菜作りや花の栽培を行いました。水やりや草引きなどの世話をしながら観察を続け、野菜や花々の生長の様子に喜びや驚きを感じることができました。



〈野菜の苗植え〉

(3) 米作り体験

地域の方の水田をお借りして地域の方々の指導の下、もち米作りを行いました。全校児童が昔ながらの方法で田植えや稲刈りを行い、3・4年生はその後の脱穀をしました。

(4) 朝の清掃活動

佐礼谷小学校では、3～6年児童が毎朝の自主活動として玄関掃除や運動場整備などを行い、皆が気持ちよく過ごせるようにしています。また、春から夏には運動場の草を引き、秋には桜の落ち葉集めを行い、校庭をきれいにしました。



〈落ち葉集め〉

3 おわりに

緑の少年隊活動を通して、子どもたちは進んで自然に親しむことができました。今後も様々な活動を通して、植物や地域の自然を愛する心を育てていきたいと思えます。

下灘小学校 緑の少年団活動

下灘小学校緑の少年団（伊予市立下灘小学校 教諭）稲田 雅美

1 はじめに

本校では、全校31名が緑の少年団の一員として、様々な活動に取り組んでいます。毎年、年間を通して、校内での花の栽培、地域の方への花のプレゼント、さつまいも作り、奉仕活動等を実施しています。

2 活動状況

(1) 校内・校外の花いっぱい活動

毎年、全校児童で、一人一鉢やプランター等に花苗を植え、校庭に季節の花が咲くよう取り組んでいます。一年に2回、春と秋に花苗を植え替えています。今年度は、春にはマリーゴールドやポチュラカ、秋にはパンジーやピオラを植えました。明るい色とりどりの花は見る人の心を癒しています。入学式や卒業式の会場を飾る花、地域のみもる君の家への感謝の気持ちを伝えるために贈る花も、委員会の児童を中心に栽培しています。児童は「きれいに咲いてね。」と声を掛けながら苗を植えたり、大切そうに水をやったりしていました。



〈花を植える様子〉



〈パンジーやピオラ〉

(2) 奉仕活動

今年も、6月に、校区内の下灘グラウンド、下灘公園の清掃を行いました。グラウンドや公園は、子どもたちや地域の方がよく使っている場所です。自分たちが普段お世話になっている所をきれいにしようと、児童は汗だくになって草引きを行いました。また、高学年の児童は青石海岸を清掃し、学校の近くの海がきれいになるように、海岸のごみを一生懸命拾いました。

(3) さつまいも作り

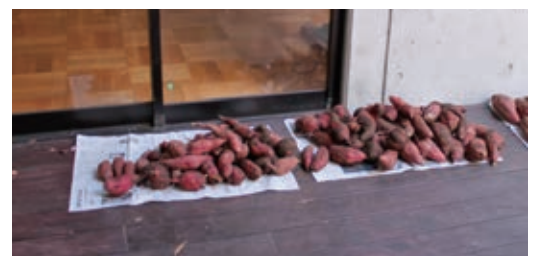
毎年、学校園でさつまいも作りをしています。収穫体験ができる楽しい行事です。収穫は、縦割り班で友達と協力して行いました。縦割り班活動では、上学年の児童が低学年の児童を優しく手伝ったり、みんなで歓声をあげながら掘ったりする姿が見られました。昨年度に比べ、大きないもがたくさん収穫でき、子どもたちは大喜びしました。



〈苗植えの様子〉



〈いも掘りの様子〉



〈たくさんとれたさつまいも〉

3 おわりに

活動を通して、児童は身近な自然と触れ合い、ふるさとの自然を愛する気持ちが育ってきています。今後も、自然や地域を愛し、守り育てていこうとする意識を高めていきたいと思ひます。

由並小学校 緑の少年団活動報告

由並小学校緑の少年団（伊予市立由並小学校 教諭） 井上 恵美

1 はじめに

本校は、伊予灘の美しい海や緑豊かな山々に囲まれ、自然環境に恵まれた学校です。全校児童が緑の少年団の一員として様々な緑化活動に積極的に取り組み、これらの活動を通して、植物や自然を大切に、地域の緑を守り育てようとする心を育てています。

2 活動状況

(1) 一人二鉢の栽培

花いっぱいの学校を目指し、全校児童が1年を通して一人二鉢の栽培に取り組んでいます。5月にはサルビアとポチュラカを、11月にはパンジーとピオラを植えています。児童は、土の乾き具合を見ながら朝の水やりを行っています。また、枯れた花摘みや草引きを行ったりして、日々、植物の生長を見守りながら大切に育てています。児童が育てた秋植えの花を入学式や卒業式の会場に飾ることで、彩りのある心のこもった式づくりに生かしています。



〈花の苗植え〉



〈水やり〉

(2) さつまいもの栽培

本校で一番日当たりのよいプール裏の土地を利用して、さつまいもの栽培をしています。6月上旬に全校で苗を植え、7月に草引きをし、11月中旬に収穫をしました。今年は梅雨の時期の雨が少なく、気温の高い日が続いたため、いものできがよくありませんでしたが、蒸かしいもや大学いもにして味わいました。



〈さつまいもの苗の植え付け〉

(3) 奉仕活動（親子クリーン活動）

10月の休日に、親子で草引きを中心としたクリーン活動を行いました。保護者も児童も教員も、全員が協力して作業し、見違えるほど美しい環境となりました。



〈親子クリーン活動〉

(4) 学習活動

1・2年生は生活科で季節の野菜を育て、3・4年生は理科でハウセンカ、ヒマワリ、ヘチマの栽培活動を行いました。教科の学習と関連を図りながら、日に日に生長する植物の様子を観察し、喜びや驚きを感じることができました。

(5) 委員会活動

栽培委員が、毎朝、玄関前のプランターの花に水やりを行っています。また、委員会活動の時間には、花摘みや草取り、苗の植え替え、落ち葉拾いなどをして、校内環境の美化に努めています。

3 おわりに

児童たちは、栽培活動を通して、育てる喜びや収穫の喜びを味わう経験を重ねています。今後も継続して緑の少年団の活動を行うことで、身近な自然に親しみ、自然を大切にする気持ちを育みたいと思います。

港南中学校みどりの少年隊活動紹介

港南中学校みどりの少年隊（伊予市立港南中学校 教諭）土井内幸太

1 はじめに

本校の位置する伊予市は、緑豊かな山々と美しい瀬戸内の海に囲まれ、魅力あふれる自然環境に恵まれた地域です。本校は男子333名、女子289名、計622名の中規模校である。今年度は、美化委員会を中心とする47名の隊員が協力して、みどりの少年隊活動に積極的に取り組み、校内の緑化等に努めています。

2 活動状況

(1) さつまいも栽培

さつまいもの栽培は、学校園に牛糞などの肥料をまき、よく耕し、畝づくりをしてサツマイモを植える準備から取り掛かりました。6月に苗植えを行い、根付くまではしっかりと水やりを行いました。夏は炎天下での作業となりましたが、草引きを行い、11月には収穫をしました。

今年度は、教室前にも新たに畑を作り、苗の数がさらに増えましたが、協力して世話をを行い、大きく育った作物を目にして、植物の成長を実感できました。



〈さつまいも掘り〉

(2) 花いっぱい運動

「花いっぱい」運動は、春にマリーゴールド、サルビア、ポチュラカの苗を、秋にピオラ、パンジーの苗を購入し、プランターに移植しました。また、中庭の材木を伐採した跡地に花壇を作り、例年の正門前だけでなく、校内の様々な場所に花を飾ることができました。植えた後は当番を決めて、水やりや花がら摘みなどを行いました。初めは、水の量が少なく、植物を弱らせることがありましたが、この経験が丁寧に世話を続けることの大切さや生命を大切に育てていくことを学びました。



〈花苗の植え替え〉

3 おわりに

今年度も、学校の畑を利用したさつまいも作りと花いっぱい運動を行いました。毎日の水やりや学校園の草引きなどの世話は大変でしたが、花が咲く様子や、野菜が実をつけ育っていく様子を日々目にする中で、植物の成長に関心を持ち、積極的に活動に関わっていこうとする姿が見られました。また、現在は教室前のスペースに畑を作り、様々な野菜が育てられるように作業を進めています。今後も、みどりの少年隊の活動を通して、自然を愛する心を育てていきたいと思えます。

伊予中学校の活動

伊予中緑の少年隊（伊予市立伊予中学校 教諭）山田 温

1 はじめに

本校は、行道山の山裾にみかん畑、水田などが広がる自然に恵まれた地域に位置しています。全校生徒198名が緑の少年隊員として、校内の緑化推進や自然を愛する心情の高揚を目指して様々な活動に取り組んでいます。

2 活動状況

(1) 栽培活動と収穫

5月に2年生を中心に、食育として地域の方々の支援を受けながらキュウリなどの栽培活動をしました。6月には収穫を行い、給食でサラダとして味わいました。11月からは白菜、キャベツ、ブロッコリー等を栽培しており、誰もが健やかでいられるような持続可能な社会作りや「ふるさと南伊予」のために、自分に何ができるかを、考えていきます。



〈キュウリの苗植え〉

(2) 町内の清掃活動

6月と9月に地域貢献活動として、地域の役に立てることはないか、皆で課題を見付け、自分たちにできることを計画し、実行に移しました。まずは、地域のトンネルの落書きや、ガードレールの汚れを落とし真っ白にすることができました。次に地域の公園や池の除草作業、神社やお寺の落ち葉集め、通学路のごみ拾いなどを行いました。いつもお世話になっている南伊予のために、これからも恩返しのつもりで張り切って活動します。



〈除草作業の様子〉

(3) 校内の緑化推進

本校では、四季折々の野菜苗を購入し、生徒の手によって植えたり世話をしたりすることで、美しい学校作りに努めています。毎年5月と10月に近隣の業者高校から花苗を購入し、正門や校舎周辺に植えて栽培しています。

また、特に11月には白菜、キャベツ、レタスなどたくさんの種類の花苗を購入し、食の大切さを体験する学習を進めています。



〈体育館前の野菜畑〉

3 おわりに

このような様々な活動を通し、生徒たちは、緑化推進活動に興味や関心を持ち、地域への奉仕活動を通して、情操豊かに生活しています。今後も四季折々の自然に目を向けながら、緑の保全に自ら努められるような生徒の育成を目指し、活動を続けていきたいと思えます。

双海中学校 緑の少年団活動

双海中学校緑の少年団（伊予市立双海中学校 教諭） 藤井 裕子

1 はじめに

双海町は、伊予灘に面した海岸と緑濃い山々に囲まれた自然豊かな地域です。

「双海シーサイド公園」や「ふれあい公園」などの自然に親しむ施設もあり、「沈む夕陽が立ち止まる町」としても有名です。年間を通して多くの観光客が来ていますが、ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、観光客の数も減少しています。本年度、本校は統合13年目に当たり、上灘中学校・下灘中学校のそれぞれのよさや伝統を引き継ぎ、全校生徒66名で、校内の緑化活動や清掃活動を中心に活動を行っています。

2 活動事例

(1) 花いっぱい活動

正門を入ると、そこには季節に応じた花をプランターに植えて飾っています。生徒の登校時や、校内への来客時には、その花々が華やかで落ち着いた気持ちを与えてくれています。春には、ポチュラカ、サルビア、マリーゴールドを、秋にはピオラ、パンジーを植えました。水やりは、園芸ボランティア部の生徒を中心に当番制で行います。その隣では、生徒会役員やあいさつ運動に参加している生徒が、周辺を自主的に清掃しています。花を育てようとする意識や態度が育っており、双海中学校の良き伝統になりつつあります。

(2) 地域貢献活動

緑化活動の一環として、地域社会の一員としての自覚をもち、郷土のために貢献しようとするを目的に、7月には全校生徒でクリーン運動に取り組みました。また、夏休みには全校生徒、保護者、教職員で校内外の美化活動に取り組んでいます。校内やその周辺、通学路の草引きを行いながら、美化活動を行います。



3 終わりに

本校の緑の少年団活動は、花いっぱい運動が中心です。全校生徒が協力して、花の世話をを行い、学校を花で癒やされる環境にしたいと頑張っています。今後も、園芸ボランティア部を中心にこの活動を継続していきたいと思います。

麻生小緑の少年団活動

麻生小緑の少年団（砥部町立麻生小学校 教諭）眞山 昭一

1 はじめに

麻生小学校は、松山平野の南端に位置し、近くに重信川や砥部川が流れ、緑豊かな自然に恵まれた地域です。また、近隣には動物園や砥部焼の窯元があり、地域での体験活動が充実しています。このような自然環境に恵まれた中で、全校児童441名が日々生き生きと活動しています。

2 主な活動内容

(1) 一人一鉢、野菜の栽培

ア 前期栽培活動

1年生 アサガオ

2年生 ミニトマト、キュウリなど

3～6年生 サルビア、マリーゴールド

イ 後期栽培活動

1年生 チューリップ、クロッカス

2年生 ダイコン、カブ、ニンジン

3～6年生 ピオラ

本校では、1年生から6年生までそれぞれの学年の実態に応じて、前期後期に分けて、草花や野菜の栽培活動を行っています。

前期の一人一鉢では、1年生は、アサガオ、2年生は、ミニトマトやキュウリ、3～6年生は、サルビアやマリーゴールドを植えました。夏場の水やりは大変でしたが、ペットボトルに水を入れ、登校時に水やりをしました。7月には、アサガオやサルビアなどが大きく育ちました。また、学級園で野菜を育てた、2年生や特別支援学級では、丹精込めて毎日世話をを行った努力のお陰で、甘いトマトや大きなキュウリを収穫することができました。



〈マリーゴールドの苗植え〉



〈アサガオの種植え〉

後期の一人一鉢では、1、2年生は、チューリップやクロッカスの球根を植え、3～6年生は、ピオラを植えました。学級園では2年生が、冬野菜の苗を植えて、ダイコンやカブなどを育てました。後期は前期に比べて気温が低く、水やりや草引きなどの面では楽になり、植物の生育状況を把握することを怠ることがあります。そのため、観察日記などを行い、日々の成長を観察し大切に育てています。



〈ピオラの苗植え〉

(2) 委員会活動

栽培委員会の活動として、月一回の委員会活動の時間に、土づくりやプランターへの花の植え付けなどを行ったり、花の育て方や水やりについて掲示物を作り、全校に花の世話を呼び掛けたりしています。また、水やりや花がら摘み、草引きなどを当番制で毎朝行い、校内の花がきれいに咲き続けるため、みんなで協力して取り組んでいます。

(3) 米作り体験

毎年5年生は、米作り体験を行っています。地域の方の水田をお借りし、地域の方々の指導のもと行っています。1学期は代かきや田植え、2学期は稲刈りや感謝祭を行い、収穫の喜びと米作りの大変さが実感できる、貴重な体験活動となりました。



〈田植え〉



〈稲刈り〉

3 おわりに

児童は、毎日心を込めて草花の世話をすることにより、色、香り、手触りなどの変化から、季節の移り変わりを感じ取っています。これからも、栽培活動を通して、自然に親しみ自然を愛する心が育まれるよう、緑の少年団活動に取り組んでいきたいと思ひます。

宮内小緑の少年隊活動

宮内小緑の少年隊（砥部町立宮内小学校 講師）武田 孝一

1 はじめに

旧砥部町の中ほどに位置する宮内小学校は、周囲を田園や柑橘類の畑に囲まれた穏やかな場所にあります。このような場所に位置する学校で、全校330名の緑の少年隊員は、一人一鉢栽培、学年園での栽培活動、七折梅の栽培活動、朝の奉仕活動等に日々励んでいます。

2 活動状況

(1) 栽培活動

前 期	後 期
アサガオ、ミニトマト、各種夏野菜、ヘチマヒョウタン サルビア、ポーチュラカ	チューリップ、パンジー ナデシコ

(2) 一人一鉢栽培活動

1年生は恒例のアサガオ、2年生はミニトマトの栽培を始め、3年生から6年生は毎年趣向を変えて一人一鉢栽培活動を推進しています。毎日の水やり、花がらつみ、雑草取りなどに取り組んでいます。言葉を発しない植物ですが、心を込めて行うことにより、美しく可憐な花が咲いています。



〈一人一鉢栽培〉

(3) 七折梅の栽培活動

本校校区には全国的にも有名な七折梅を栽培している七折地区があり、毎年3年生が七折地区に出掛けていき、七折梅に親しんでいます。また、本校敷地内にも5本の七折梅があり、七折地区の梅林に負けじと3年生が雑草取りや清掃などに取り組む、毎年3月にはたわわに実がなります。



〈除草〉



〈七折梅の観察〉

(4) 委員会の栽培活動

児童一人一人の栽培活動に加えて、本校では委員会活動で、5・6年生が日々栽培活動に取り組んでいます。後期は、セキチクとパンジーを植えて日々散水や花がら摘み等を行っています。卒業式には一人一鉢栽培の花と合わせて体育館に飾り、6年生の新しい門出に花を添えています。



〈栽培委員会活動〉

3 おわりに

暑い夏の水やりや畑の雑草取り、寒い冬の水やりや花がら摘みはそれぞれ大変ですが、児童は、花や野菜の栽培活動を通して、自然に触れ、自然と一体になって日々過ごしています。毎日の世話を通して、きれいな花が咲いたり、おいしい野菜が収穫できたりしたときの子どもたちの笑顔はすてきです。もしかしたら、植物に潜む精霊が子どもたちに話しかけているのかもしれない。

砥部小学校緑の少年団活動

砥部小学校緑の少年団（砥部町立砥部小学校 講師）岡田 忠

1 はじめに

本校は、砥部町の中央に位置し、美しい山々に囲まれた自然豊かな地域にあります。学校はたくさんの木々に囲まれ、正門前には交通公園にある学校園、校舎裏には広々とした緑いっぱいの「とべっ子広場」という他校にはない恵まれた環境の中、自然を大切に、緑を愛するとべっ子の育成を目指し、日々の栽培活動に取り組んでいます。

2 今年度の主な活動

(1) 一人一鉢栽培

全校児童で、一人一鉢栽培に取り組んでいます。自分の鉢やプランターに、春には3年生以上がマリーゴールドやサルビア、秋には2年生以上がパンジーやピオラを植えました。植えた花は交通公園で育て、来校者を温かく迎えています。毎朝、登校したときに花の様子を見ながら、水やりや花がら摘みなどをして、大切に育てています。1年生は、春にはアサガオ、秋には6年生の卒業式を飾ることを目指してチューリップ栽培に挑戦しています。



〈一人一鉢栽培〉

(2) 学校園栽培

3・4年生は、正門前の学校園のきれいに整えた畝に、一人一鉢に合わせた苗を植え、ペットボトルで丁寧に水やりをしたり、草取りをしたりしています。

2年生は、校舎横の学校園で、ミニトマトやサツマイモなど、一年を通してたくさんの種類の野菜栽培をしました。夏前には芋づる苗を土に差し込み、秋にはたくさんのサツマイモを収穫し、家の人に見てもらいました。



〈学校園栽培〉

(3) 栽培委員会による活動

今年は、5年生7名、6年生4名の計11名で活動を行っています。毎朝の中庭を中心とした花の手入れや追肥などの作業、全児童に向けて今の時期の花の手入れポイントを、ポスターによって呼び掛ける活動などを行っています。



〈委員会活動〉

3 おわりに

一人一鉢への水やりの後の時間を使った、春の学校園の草取りから始まり、夏時期の学校園周辺の草取り、秋から目立つ落ち葉の掃除など、季節に合った活動が学校の美化だけでなく、とべっ子の伝統となっています。このことは、植物や生活する環境に関心を持ち、自然を大切に、守り育てていこうとする気持ちを育て、今後も継続した活動を実践していこうと思います。

広田小学校緑の少年団の活動

広田小学校緑の少年団（砥部町立広田小学校 教諭）重松 祥子

1 はじめに

本校は、砥部町南部の、山間部に位置しています。学校の周辺を流れる玉谷川には蛍が見られ、夏にはこの清流を利用したそうめん流しが有名です。

本年度は、地元児童5名と、山村留学児童16名の計21名で活動をしています。留学児童の多くは、松山市や県外の都市部から来ており、自然と触れ合うことに興味をもっています。今年度も広田の自然を活用した様々な教育活動に取り組みました。

2 主な活動内容

(1) 自然薯の栽培

学級園で自然薯の栽培をしました。地元の自然薯農家の方に教えていただきながら、種いもを植えました。2～4年生が中心となって世話をし、12月には、立派な自然薯を収穫しました。



〈自然薯収穫の様子〉

(2) 米作り体験

6月に全校児童で田植えをしました。秋には稲刈りや稲木かけ、脱穀の作業を行いました。手作業で田植えや稲刈りをする中で、農作業の大変さを実感することができました。



〈田植えの様子〉

また落穂拾いをし、最後の一本まで大事にすることを学びました。

(3) 一人1プランター運動

夏にはマリーゴールドやサルビア、秋からはパンジーなど、全校児童で季節に応じた花を栽培しました。またお世話になっている地域の方々に、感謝の気持ちをこめて苗を植えたプランターをプレゼントしました。



〈種まきの様子〉



〈プランター配りの様子〉

3 おわりに

一人1プランターによる校内の環境美化活動、地域の清掃や緑化活動、米作り等の活動が、子どもたちと地域の方々に関わりをもつよい機会となっています。今後も自分たちで育てる活動を続けていくことで、地域に花を届け、子どもたちが地域の方々につながるができる活動を工夫し、さらに充実させていきたいと思ひます。

花と緑が紡ぐつながり

明神小緑の少年隊（久万高原町立明神小学校 講師）山岡未央子

1 はじめに

豊かな山々に囲まれた里山に、澄んだ光と水気を含んだ風が、四季折々の風情を添える久万高原町。その久万盆地を見下ろす小高い丘の上、明神小学校は今日も、花と緑と子どもたちの明るい笑い声に包まれています。明神小を彩るのは、地域の人々が何十年もかけて植えてこられた桜と、児童が育てている花壇の花々です。全校児童10名の本校では、全員が明神小緑の少年隊として、協力し、助け合って活動しています。



〈サルビア植栽〉

2 今年度の活動

栽培活動として、児童は、冷涼な高原の気候に合った花々を花壇に植え、育てています。穀物を育む瑞雨の頃に、ケイトウ・サルビア・ベゴニアを植え、できるだけ長く咲くようにと、水やり、花殻摘み、肥料やりを丁寧に行ってきました。天高くなる秋からは、パンジー・ピオラ・プリムラを植え、越冬させて、卒業式に満開になるようにと、大切に世話を続けています。高原にやっと春の便りが届く4月には、毎年約200本の桜の木々と、雪の下で長い冬を耐え抜いた花壇のパンジーとピオラが、まるで三重奏を奏でるかのように咲き香り、私たちの心を躍らせてくれます。



〈正面玄関前のサルビア〉

体験活動では、地域への奉仕作業として、地域ゆかりの人の墓地と歌碑周辺の草引きや、通学路の掃除に取り組みました。栽培活動の「植える」「育てる」活動に加え、地域の自然を「整える」「受け継ぐ」活動を体験することで、子どもたちの視野は、大きく広がりました。自分たちが暮らす土地の風光明媚な自然を、今、自分たちが楽しみ愛でることができるのは、地域の方々が守り伝えてくれたからだということに気付き、感謝の気持ちを抱くようになりました。これからは自分たちが未来へと守り伝えてゆく番だと、思いを新たにしました。



〈墓地周辺の草刈り〉

3 おわりに

本年度の活動を通して、児童は身近な自然への親しみと、地域の人々への感謝の気持ちを高めることができました。自然とともに生きることの喜びと、地域の環境への愛着を授けてくれる緑の少年隊活動に、これからも真摯に取り組んでいきます。



〈通学路のごみ拾い〉



〈パンジー・ピオラ植栽〉

久万小緑の少年隊活動

久万小緑の少年隊（久万高原町立久万小学校 講師）渡部 颯馬

久万小緑の少年隊は、全校児童143名で結成しています。体験活動を通して自然に親しみ、美しい環境を守ろうとする意欲を高めています。

本校の活動の特徴として、隣接する上浮穴高等学校森林環境科との交流活動があります。3年生は国語科「すがたをかえる大豆」で学習した大豆を育てました。「教科書の中に書かれていた通りだ。」と驚いたり、「これはまだ枝豆だね。」とつぶやいたりしながら大豆の収穫をしました。4年生では大根を育てました。9月に種まきをし、12月に収穫をしました。予想以上に大きく育った大根を見て、児童は驚きながら喜んでいました。5年生は米作りを行いました。春に植えた苗が、秋を迎えて黄金色に実りました。自分たちの手で、鎌を使って刈り取りました。お米はおにぎりにしておいしくいただきました。自分たちで種まきから収穫まで行うことで、農業への関心を高めることができました。

継続した活動として、環境委員会のメンバーが中心となり、年間を通して学校を花いっぱいにしていきます。春と夏はジニア、サルビア、マリーゴールドなどを、秋と冬はパンジーとピオラなどを花壇やプランターに植えます。卒業式・入学式には、そのプランターを並べて体育館に花の道ができます。

児童は様々な体験を通して、自然やふるさとについてたくさんの学びを得ることができました。これからも郷土や自然を愛する心を育てていきたいと思えます。



〈3年生 大豆の収穫〉



〈入 学 式〉



〈5年生 田植え〉



〈4年生 大根の収穫〉

畑野川緑の少年隊の活動

畑野川緑の少年隊（久万高原町立畑野川小学校 教諭）板崎 見奈

1 はじめに

畑野川緑の少年隊は、全校児童27名で結成しています。豊かな自然に囲まれた環境で、植物や地域の自然を大切にできる心豊かな子どもの育成を目指し、年間を通して様々な活動に取り組んでいます。

2 今年度の活動

(1) 校内における栽培活動

通年の校内緑化活動として、季節に合わせた花苗を花壇やプランターに植えて学校を彩りました。子どもたちは、水やりや草取り、花がら摘み、肥料やり等の地道な活動をコツコツと続け、大切に育てています。また、生活科や理科などの教科と関連させながら、アサガオやトマト、ヘチマなどの栽培も行いました。植物に命があることを知り、その命を大切にしようとする気持ちが育ってきています。



〈花の苗植え〉

(2) 田植え体験・稲刈り体験・サツマイモ掘り

1・2年生は、幼稚園児と一緒に地域の方の田や畑で田植え体験・稲刈り体験・サツマイモ掘りをさせていただきました。11月には、収穫したお米やサツマイモを使って「カレーパーティー」を行い、収穫を祝いました。活動後のお礼の手紙には、地域の方への感謝の思いや収穫できた喜びなどが綴られていました。機械ではなく全て手作業で行うことで、農作業の大変さを実感できる貴重な体験になりました。



〈田植え体験〉

(3) 地域の美化活動

7月には、地域の清掃活動として通学路を中心にゴミ拾いを行いました。思っていたほどゴミが落ちていなかったことから、ふだんから地域の方がきれいにしてくださっていることに気づき、「自分たちも住んでいる地域の美化に努めたい。」という気持ちを高めました。



〈サツマイモ掘り〉

3 おわりに

今年度も、地域の方々の協力を得ながら様々な活動をすることができました。これからも、身近な自然に関心を持ち、自然や人との触れ合いを大切にしながら豊かな心を育ていけるよう、活動をより充実させていきたいと思えます。



〈地域の美化活動〉

「直瀬緑の少年隊」の活動

直瀬緑の少年隊（久万高原町立直瀬小学校 教諭）渡部 美咲

1 はじめに

本校は、美しい山々に囲まれ、仁淀川水系の直瀬川が流れる自然豊かな地域にあります。「直瀬緑の少年隊」は、全校児童12名で結成されており、一人一人が少年隊の一員として、自然を大切に、緑あふれる学校・郷土づくりを目指して、栽培活動やクリーン活動などの様々な活動に意欲的に取り組んでいます。

2 今年度の活動

(1) 花の栽培活動

本校では、栽培活動を通して、命を大切にする優しい心を育てることや、美しい環境づくりに努めています。校内緑化活動として、季節に合った花を花壇やプランターに植えて育てました。栽培委員を中心に、全校児童で協力しながら花の水やりや花摘みなどを行い、大切に育てました。



〈花の苗植え〉

(2) もち米栽培

学校田でもち米栽培を行いました。田植え・稲刈りともに保護者の方に協力していただきました。手作業で田植えや稲刈りをする中で、農作業の大変さを実感しました。



〈田植え〉



〈稲刈り〉

(3) サツマイモ・トマトの栽培

学校園で、サツマイモとトマトを育てました。サツマイモとトマトの苗植えや収穫は、幼稚園児と交流をしながら行いました。一緒に穴を掘って苗を植えたり、大きなサツマイモの収穫を手伝ったりするなど、優しさあふれる交流になりました。トマト栽培では、畑作りからビニルハウスの設営、畝作りやマルチの準備など、トマト農家の方の指導の下、保護者の方にも協力していただきながら行いました。



〈サツマイモの収穫〉

3 おわりに

今年度も、多くの保護者・地域の方々のご協力のもと、様々な活動を行うことができました。今後も人との触れ合いを大切にしながら、自然を愛する心豊かな児童を育てるための活動を継続して行っていききたいと思います。

父二峰緑の少年隊の活動

父二峰緑の少年隊（久万高原町立父二峰小学校 教諭） 河口 佳代

父二峰小学校は全校児童20名の極小規模校です。環境委員会を中心に、全校で力を合わせて緑化活動や美化活動などを行っています。

1 緑化活動

1年間を通して花いっぱい、緑いっぱいの学校を目指し、栽培活動に取り組んでいます。春と夏はマリーゴールドやサルビア、ヒマワリなど、秋と冬はパンジー、ピオラなどを栽培しています。植え付けから水やりなどの世話を児童が協力して行っています。隣接の幼稚園の花の栽培のお手伝いもさせていただいています。



〈パンジーの植え付け〉

2 体験学習

隣接の幼稚園児と共同でさつまいもの栽培をしました。地域の方に植え方を教わり、草取りなどをして育てました。夏休みには、動物に畑を荒らされるというアクシデントがあり、例年よりも少なくなりましたが、何とか収穫することができました。収穫後は焼きいもにして食べ、作物を育てる喜びを感じることができました。



〈さつまいもの植え付け〉

5月には、面河山岳博物館の学芸員さんから、地域の川に生息する水生生物について教えていただき、採集や観察をしました。水生昆虫や魚に触れ、地域の自然の豊かさを実感しました。



〈水生生物の観察〉

また、どろんこになって田植え体験を行いました。そして、9月には稲が実り、稲刈りも体験できました。



〈稲刈り〉

11月には、ふるさとウォークラリーを行いました。校区を歩きながら、地域の文化財についてのクイズをしたり、ネイチャービンゴを楽しんだりしました。

3学期には、木工教室を行い、ブックスタンドや椅子などを製作しました。それぞれの作品の完成を喜び、木のよさを感じることができました。

3 美化活動

7月には、通学路のゴミ拾いを、11月には通学路の落ち葉掃除を行い、学校周辺の美化に努めました。

これからも、これらの活動を通して、ふるさとの自然を愛する心を育てていきたいと思っています。



〈通学路の清掃〉

面河小緑の少年団の活動紹介

面河小緑の少年団（久万高原町立面河小学校 教諭） 日野 昭紀

1 はじめに

面河小学校は、全校児童8名の小規模校で、全員で緑の少年団活動に取り組んでいます。地域や保護者の方々とともにみんなで取り組む緑の少年団活動を目指して活動しています。また、幼稚園が併設されているので、幼小合同で様々な活動に取り組んでいます。



〈入団式・結団式〉

2 主な活動内容

(1) 入団式、結団式、芋づる植え

5月16日(月)、結団式とサツマイモの芋づる植えを行いました。結団式では6年生が司会・進行を務め、新しく入団した1年生を迎えました。その後、6年生が中心となって、下学年の児童に植え方を教えながら30本の芋づるを植えました。



〈芋づる植え〉

(2) 収穫祭

11月2日(水)、芋掘り収穫祭を行いました。くじを引いて6年生をリーダーとする3つのチームに分かれ、収穫した芋を使って3種類のコンテストを行いました。

- 重さ比べ…各チームが掘った芋の合計の重さを競います。
- 重さNo.1…掘った芋の中から一番重い芋を選んで、重さNo.1の芋を決めます。
- ぴったり1kg…掘った芋を組み合わせ、ちょうど1kgになるようにします。

今年は、天候不順で芋の生育が悪く、例年より3週間ほど収穫を遅らせましたが、残念ながら収穫量は少なくなっていました。

コンテストの後は、焼き芋です。収穫した芋を炭火の上に乗せて焼きます。みんな、おいしそうに焼き芋をほおばっていました。



〈収穫祭・芋掘り〉

(3) 花や野菜の栽培

全校での活動だけでなく、各学級でいろいろな花や野菜を育てています。育てた花で教室や玄関を飾ったり、収穫した野菜を調理して食べたりしています。



〈収穫祭・ぴったり1kg〉

3 おわりに

豊かな緑に囲まれた面河小学校ですが、その環境を十分に生かされてはいません。今後は、子どもたちの健康と安全に気を付けながら地域の人たちと交流を深めていきたいと考えています。そして、校内だけの活動で終わるのではなく、もっと地域に関わり、ふるさと面河の自然を大切にする子どもたちを育てていきたいと思ひます。

仕七川小緑の少年団活動

仕七川小緑の少年団（久万高原町立仕七川小学校 講師）上本 恵里

1 はじめに

本校は、豊かな自然に恵まれた山間部に位置する全校児童10名の小規模校です。自然豊かな環境の中、植物の栽培活動を通して、生命の尊さや美しい自然を守ることの大切さを学んでいます。また、地域の方とのかかわりの中で、郷土を愛し、豊かな自然を受け継ごうとする心や態度を育てることを目指しています。

2 主な活動内容

(1) 花の栽培活動

年間を通してプランターや花壇で花の栽培活動を行っています。前年度採取していた種を中心に種まきをして育てました。5月に、ジニア・サルビア・メランポジウム、11月にピオラ・チューリップ・シレネ・貝細工等を植えました。7月に、育てた花を近くの郵便局や交番に届け、そこに来られるたくさんの方々に見ていただきました。また、今年度は警察署と連携し「ひまわりの絆プロジェクト」に参加しました。花を育てることから命の大切さを学びました。



〈花苗の移植〉



〈花配り〉



〈ひまわりの絆プロジェクト〉

(2) 地域の方とのふれあい活動

5月には学校の茶畑で、茶摘み体験をしました。また、地域の方の広大な畑でサツマイモを掘る作業の体験をさせていただいたり、ピーマン農家の畑で、ピーマン、里芋、落花生等の収穫体験をさせていただいたりしました。12月にはお世話になった地域の方を招いて「ありがとう集会」を開きました。学級園で栽培した野菜と収穫させていただいた野菜を使って昼食会を開き、活動を振り返ったり感謝の気持ちを伝えたりすることができました。



〈茶摘み〉



〈芋掘り〉



〈ピーマン収穫体験〉



〈ありがとう集会〉

3 おわりに

地域の方に教わったり、地域の方に喜んでいただけたりする活動を多く取り入れることで、ふるさとのよさにふれ、地域の人々の思いを感じ、自然の大切さを知ることができました。また、年間通して全校を縦割りにした異学年集団で活動することにより、リーダーを育成し、主体的な活動ができるようになりました。今後更に児童数が減り、活動の規模が小さくなってしまふことが懸念されますが、自分たちの小さな活動がSDGs（持続可能な開発目標）につながるという意識を持ちながら、緑の少年団活動を積極的に行っていきたいと思ひます。

美川小緑の少年団活動

美川小緑の少年団（久万高原町立美川小学校 教諭）小倉 芳一

1 はじめに

美川小緑の少年団は、全校児童9名で結成しています。年間を通して花の栽培や、清掃活動などを行い、美しい学校や地域づくりに努めています。5月に行った結団式では、全校児童で協力して豊かな自然環境を大切に、守って、いこうと誓い、令和4年度美川小緑の少年団の活動をスタートさせました。



〈結団式〉

2 主な活動内容

(1) 花いっぱい活動



〈花の世話〉

「花いっぱい活動」では、春と秋に花の苗を植え、育てています。縦割り班で活動し、全校児童が交流しながら苗を植え、大切に育てていこうという気持ちが高めることができました。学校を訪れる保護者や地域の方々にもきれいな花を見ていただけるよう、世話に取り組みました。

(2) サツマイモやピーマン、オクラ、カボチャの栽培

学校園でサツマイモの芋つるとピーマン、オクラ、カボチャなどの野菜の苗を植えて育てました。併設されている幼稚園の園児と一緒に、協力して植えました。秋に収穫したサツマイモを使って「みかわ収穫祭」を行いました。地域の方に教えていただきながらスイートポテトを作り、一緒においしくいただき収穫の喜びを分かち合いました。



〈芋つる植え〉

(3) 学校近隣の清掃活動

児童が毎日通学に利用している国道33号線沿いの梨ノ下停留所や、学校周辺の清掃活動を7月に行いました。通学路やバス停に捨てられているごみを集めたり草を引いたりしました。児童は、自分たちにとって身近な場所をきれいにすることで、地域社会に貢献する喜びを感じることができました。



〈停留所や通学路の清掃活動〉

3 おわりに

本校は緑の少年団活動を通して、自然に親しみ、郷土や自然を愛する心を育てるよう努めています。今後も美川地域の豊かな自然環境を生かした取組や、地域の方々や保護者の協力を得ながら伝統を受け継いでいく活動を推し進めていきたいと考えています。小規模校の良さを生かしながら、内容を工夫し、児童一人一人が活躍できるような少年団活動を目指していきます。

久万中 緑の少年団 活動報告

久万中学校緑の少年団（久万高原町立久万中学校 教諭）宮岡 弘樹

1 はじめに

久万高原町は、愛媛県のほぼ中央部に位置し、久万中学校校区（明神・久万・直瀬・畑野川・父二峰）は、総面積165km²のうち、84%が森林で、自然豊かな町です。

久万中学校緑の少年団は、1年生35名が中心になって活動しています。本校の校区にある五つの小学校が緑の少年団活動を積極的に行っており、生徒たちは、中学校入学後も小学校からの延長として、自然に緑化活動に取り組むことができています。また、総合的な学習の時間を中心に活動しており、校内、地域の緑化活動や、林業、森林についての学習、地域の産業についての調べ学習を年間活動計画に位置付けています。清掃活動で集めた落葉や草引き作業で集めた草などを使用し、自分たちで管理した腐葉土を用いるなど、SDGsの視点をもって持続可能な緑化活動を目指しています。3学期には、地域の産業、緑化活動について調べた内容をもとに、久万高原町の魅力や課題について発表会を行います。

2 主な活動内容

(1) 緑の少年団結団式

4月に結団式を行い、1年生35名が新たに入団しました。代表生徒による誓いの言葉を発表した後、校長先生から団旗を受け取りました。

(2) あいロードの緑化活動

本校の前を走る国道33号線沿いに、季節に合わせて、6月にはマリーゴールドとサルビア、12月には葉牡丹とパンジー、ピオラの苗を植えました。曜日ごとに当番を決めて灌水をしたり、学年全体で除草作業をしたりするなど、生徒が中心になってその管理を行いました。

生徒の感想として、「草抜きや花植えをきれいにできたと思います。これからきれいな花が咲いてくれたらと思います。僕は頑張ったと思います。友達も頑張ったと思います。」「この活動を通して、自然と仲良くなれた気がします。たくさん草を抜き、きれいな花を植え、ふれあいロードがきれいな花畑へと生まれ変わりました。たくさん水をやって大きな花にしたいです。」「プランターに花を植えたけど、植える幅がバラバラで難しかったです。色や幅、植え方など考えながら植えました。手が土だらけになったけど、それだけ頑張ったので良かったです。」「地域の人たちも通ると思います。汚く植えたら通った時に気持ちが良くないと思います。そのために、ていねいに植えるという事を大切にしました。」「花を育てることや水やりを面倒くさがってしないけど、緑の少年団を通して、水やりを家で少しずつできるようになりました。」といったものがありました。

地域貢献に対する思いや友達と協力する思いを育てたり、普段はできないような活動を体験できたりする機会となりました。



3 まとめ

本校では、1年生を中心に緑の少年団に取り組み、その経験を発展させて2年生では「地域の産業や職業」について、3年生では「SDGs」について学んでいます。豊かな自然環境があり、林業、農業の盛んな本校の地域の特性を生かし、生徒にとって身近で、将来に生きる活動を目指したいと思います。

美川中緑の少年隊 活動報告

美川中緑の少年隊（久万高原町立美川中学校 教諭）久米 一弘

本校は生徒数28名の小規模校で、全校生徒が緑の少年隊の一員として活動しています。人数が少ないため、一人一人の活動は多岐にわたっていますが、8名の1年生を中心に今まで以上に活発に緑化活動に取り組んでいます。

今年度は1年生の地域めぐりで森林組合の見学を実施したり職場体験学習で林業体験に取り組んだりすることで、地域の協力を得ながら、深まりのある活動を行ってきました。以下、本校の今年度の主な活動を紹介させていただきます。

1 緑の少年隊結団式

4月に結団式を行いました。今年度は1年生8名全員で団旗の引継を行い、誓いの言葉を発表しました。全校生徒27名での美川中緑の少年隊としての活動をスタートしました。



2 校内緑化活動(6・11月)

6月と11月には、校内の緑化活動を行いました。6月にはサルビアを中心に、11月にはパンジー・ピオラ・葉牡丹を植え替えました。仕事を互いに分担しながら協力して、楽しみながら活動に取り組みました。また、土作りから、植え替える作業を経て、手間をかけて花を育てていくことで、協力することの大切さや、思いやりの心を育む活動につながったと思います。



3 地域めぐり(森林組合訪問)

久万高原町の森林組合の方に協力していただき、1年生が林業の仕事の見学をさせていただきました。森林組合では、木を伐採してから、その木が少しずつ普段目に見ている家の柱や机などの木材になるまでの工程を見学させていただきました。学校では体験できない、貴重な経験をする事ができました。



4 日々の奉仕活動

今年度の奉仕活動では、昨年度同様、河川の清掃も実施しました。このような経験や実践を通して、緑の少年隊の伝統を繋いでいきたいと思えます。



肱川小学校緑の少年隊

肱川小緑の少年隊（大洲市立肱川小学校 教諭）松村眞由美

1 はじめに

本校は、大洲市肱川の中心にある豊かな自然に囲まれた学校です。6月に1年生9名の入隊式を行い、全校児童81名で活動を行っています。

2 主な活動

(1) 緑の少年隊入隊式・森林教室

6月に八幡浜支局林業振興課、市役所農林水産課、大洲市森林組合の方々を来賓としてお迎えし、入隊式を行いました。入隊式では1年生9名が新たに入隊しました。その後、八幡浜支局林業振興課の方を講師として、森林教室を行いました。森林の役割や森林を育てる大切さについて話を聞き、緑の少年隊としての意欲を高めることができました。



〈1年生入隊式〉

(2) 花いっぱい運動

年間を通して花いっぱい活動に取り組んでいます。6月には縦割り班でサルビアやマリーゴールドを植えました。11月には、学年ごとサクラソウやパンジーなどをプランターに植えました。卒業式や入学式には、そのプランターを使って、体育館に花の道ができます。土の入れ替えや苗植え、プランター運びなどの作業では、上学年が下学年に教えたり、重いものを運んだり、今までの経験を生かして活動することができました。



〈花いっぱい運動〉

(3) 野鳥観察

肱川にある鹿野川ダム周辺は、野鳥の訪れるスポットとしても有名です。4年生が野鳥について地域の保護グループの方の話を聞き、巣箱づくりを行いました。春には、巣箱を設置する予定です。また、5年生になると、自分たちが設置した巣箱と野鳥の観察を行います。設置した巣箱は10年ぐらい使うそうです。



〈巣箱づくり〉

(4) シイタケ栽培

シイタケの栽培活動も行っています。4年生の2月に林業振興課の方に指導していただきながら、原木への植菌活動を行います。5年生、6年生とシイタケ栽培を行い、6年生の2月には原木を家庭へ持ち帰り家庭で栽培をしています。

3 おわりに

他にも、肱川の環境について調べる水生生物調査、学級園での栽培・観察等の活動なども行っています。自然や人と関わる活動に取り組むことで、ふるさと肱川の豊かな自然に気付くとともに、郷土や自然を愛する気持ちを育んでいきたいと思ひます。

肱川中学校 緑の少年団の活動

肱川緑の少年団（大洲市立肱川中学校 教諭）築山 恵司

1 はじめに

本校は、自然豊かな肱川の上流、肱川町にある全校生徒44名のへき地小規模校です。

「自己有用感を高め、自ら学び心豊かに躍動する生徒の育成」を目標に、明るく元気な挨拶、ボランティア活動、地域の自然や文化を生かした体験学習に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の影響で、学校行事が今まで通りにいかないところがありましたが、様々な方々のご支援とご協力により、緑の少年団の活動は滞りなくできました。



〈しゃくなげ植栽〉

2 主な活動内容

(1) 地域の植栽活動

今年度も大洲森林林業振興班、喜多地区林業研究グループ連絡協議会、森林組合、鹿鳴園の方々に協力していただき、3月に植栽する予定になっています。「しゃくなげは本来寒い場所に植生するものであるが、地域の方が山を切り拓き肱川の地にたくさん植えたこと」、「森林を守るには長い年月が必要なこと」などを学んだあと植栽活動をする予定になっています。今年も昨年同様20本のしゃくなげを植える予定です。



〈しゃくなげ植栽〉

○ 生徒の感想

しゃくなげについての講義で、地域の方が山を切り拓いて植えたことを聞きました。今まで何気なく見ていたしゃくなげ畑ですが、大切にしなければいけないという気持ちになりました。急な斜面で作業するのは大変だったけど、ふるさとに感謝する気持ちで活動することができました。（令和3年度）

(2) 炭焼き体験活動

炭焼き体験活動は平成3年度から始まり、現在も年に一度、1年生を対象に行っています。今年は新校舎に移転し、学校横にできた新しい炭窯でこれから炭焼き体験学習を実施する予定です。試運転で有志の方に焼いてもらった炭の窯出しから行います。

3 おわりに

今年度は、新校舎移転に伴い、上記の活動が3学期にずれ込み、まだ活動が残っている状態です。活動を通して自然や環境への興味・関心を高め、自然あふれる故郷「肱川町」を愛する心が更に育ってほしいと思います。地域コーディネーターと連携しながら、地元の優れた人材の力を借りて地域密着の活動を今後も推進していきたいと思っています。

大洲東中学校 花づくりの取組

大洲東中学校緑の少年団（大洲市立大洲東中学校 教諭）増本 順一

1 はじめに

4月に赴任した時、ピオラやノースポール、ポリアンサが咲き誇っていました。あいさつロード（グラウンド横の道路）に咲くハナモモも鮮やかでした。そんな花いっぱいの学校で、再任用の勤務が始まりました。

2 活動の様子

(1) クッションマムの栽培（1年技術科）

学習活動 (形態)	時間	学習活動			○指導上の留意点 ◎評価(評価方法)
		分かる	考える	実行する	
1 本時の課題を知る。 (一斉)			取りつった挿し穂には、根がないのに、2年前に挿したものは今も緑色をしているのはなぜか		○「命」を扱うことを強調する。 ○ 挿し穂には根がないため、「生きている」と思いにくいと思われるので、「生きようとしている」命であることを説明する。 ◎ 折り返す長さ、下葉の処理ができていないか。
2 養根の仕組みがわかる。(一斉)			発根することがわかる		○ 丁寧に扱うよう声掛けをする。
3 さし芽の手順がわかる。(一斉)			さし芽の手順がわかる - 葉の外部の芽が気味よく取りとる - 下葉を取る - 水につける		○ 水につけている挿し穂の中で、どんなことが起こっているのか考えさせる。 ○ ルート(養根促進剤)の役割を説明する。 ◎ 自分の苗を大切に扱うことができるか。
4 実習 (個人・グループ)			挿し穂を取り、水につける		
5 水につける理由がわかる。(一斉)			水につけた挿し穂では、何が起きているだろう		
6 用土に挿す手順がわかる。(一斉)			用土に挿す手順がわかる - 割り箸で穴を開ける - 根本に土をつける - ルートをつける - 挿し穂を挿す - 穴を閉める - 風しの障子を入れる		

〈指導案〉



〈7号鉢への植え替え〉

4月に前年の親株から、さし芽をし、5月の鉢上げ後、6月、7月の植え替えをしました。9月ごろから咲き始め、11月末まで、玄関を飾ってくれました。

最初はあんなに小さかったのに、どんどん大きくなって花もたくさん咲きました。色は濃いピンク色でした。いろいろな色があったので、他の色も育ててみたいです。

(2) 大洲東中には、「朝ボラ」と呼ぶ、ボランティア活動が毎朝あります。中庭やグラウンドの草引き（雨天時は窓ふき）など、10分間のボランティア活動の後に学校生活が始まります。

生徒数が少ないため、何をするにも全員で取り組むこととなります。



〈サルビアの植え替え〉

5月には、サルビアとポーチュラカを植えました。10月には、ピオラを植え付けました。生徒たちは、命あるものを慈しみながら、作業をしています。



〈10月の玄関〉

3 終わりに

花を育てることは、よく人を育てることにたとえられます。その苗を育てることで、大きく、鮮やかな花を咲かせることの喜び。毎年、同じようには育たず、その度にうろたえる自分。手間を惜しんだために、今の姿がある。後悔と次への意欲の喚起。新しい発見の積み重ね。繰り返すことで得られる楽しさがあるから、次を考えられる。

そろそろ校内に取り入れたシンビジュームの花が見られる季節になりました。

大洲南中学校の取組

大洲南中学校緑の少年団（大洲市立大洲南中学校 教諭）高木 健司

1 はじめに

本校は、伊予の小京都と呼ばれる大洲市の中心部・大洲城を望む情緒あふれる街並みに位置する、全校生徒216名の学校です。本校緑の少年団は、「緑あふれる学校に！」を目標に活動を続けてきました。ここでは、環境委員会の活動を中心に、本校の取組について報告します。

2 活動の様子

(1) 朝清掃

環境委員会では、週に3回（学年別に曜日を設定）、朝清掃を実施し、環境美化に努めています。朝の10分という短い時間ですが、落ち葉掃きや草引きなどの活動を自主的に行っています。

(2) 緑の募金活動

5月には、全校生徒に呼びかけて、緑の募金を実施しました。環境委員が教室で呼び掛け、環境委員長が募金額を毎日



〈緑の募金の様子〉

放送しました。そうすることで全校生徒に周知を図ることができ、多くの生徒が募金に協力しました。

(3) 金魚の飼育

正面玄関に設置している水槽で、金魚を飼育しています。毎日、水質に気を付けながらエサを与



〈環境委員による水槽掃除〉

え、月に1度は、水かえや水槽の掃除を行っています。多くの生徒が教室移動の際に立ち止まり、金魚の泳ぐ姿を鑑賞しています。

(4) エダマメの栽培

1年生は今年度、エダマメの栽培（技術分野）を行いました。夏季休業中も班で分担して



〈エダマメの定植〉

水やりを行い、心を込めて育てました。育てた実は食べられるため、生徒の育成意欲も高まり、多くの生徒が立派に育て上げ、たくさん持ち帰ることができました。

(5) 校内に緑を！

大洲南中学校は、緑にあふれた学校です。廊下に沿って植えられたツツジ、玄関前の藤棚。校舎内もプラン



〈環境委員長による水やり〉

タや鉢植えに、たくさんの花が咲いています。緑いっぱいの環境を守ることも活動の一つです。

3 終わりに

緑の少年団の活動を通して、自然に親しみ大切にしようという心が育ってきています。これからも、花や緑あふれる学校を目指し活動していきたいと思ひます。



〈正門前の草花たち〉

平野中緑の少年団活動

平野中緑の少年団（大洲市立平野中学校 教頭）谷山

稔

1 はじめに

平野中学校は山や水田、豊かな自然に囲まれています。学校周辺の川には、ホタルやカワセミなどが生息しています。平野中緑の少年団は、全校生徒38名（1年11名、2年18名、3年9名）で構成されています。地域のために花いっぱい運動に取り組んだり、ふるさと学習の時間に地域の自然を調べたりしました。

2 活動内容

(1) 花いっぱい運動

平野幼稚園児、平野小学校児童と一緒に、プランターにトレニアの花を植えました。プランターを地域の公民館や駅、駐在所、公園などに持っていきました。



〈花いっぱい運動 5/24〉

(2) 水生生物調査

1年生がふるさと学習の時間に、久米川の水生生物を調査しました。ホタルの幼虫のエサとなるカワニナやサワガニなどの生物を確認することができました。



〈水生生物調査 6/9〉

(3) 水田の生物調査

2年生が学校田周辺に生息する生物を調査しました。トノサマガエルやコセオイムシ、ホウネンエビなど様々な種類の小動物を確認することができました。



〈水田の生物調査 6/10〉

(4) クリーン運動

全校生徒が平野ふれあい公園の除草作業を行いました。暑い日で大変でしたが、みんなで協力して、公園をきれいにすることができました。



〈クリーン運動 7/20〉

(5) 学校林の巣箱設置

陸の生物の多様性を保全しようと、1年生がふるさと学習の時間、学校林に野鳥シジュウカラ用の巣箱を設置しました。



〈巣箱設置 10/21〉

3 おわりに

緑の少年団の活動を通して、生徒は平野の豊かな自然に親しむことができました。また、地域の公園を清掃したり、花いっぱい運動できれいな花を届けたりすることで、地域の方に喜んでいただきました。これからもSDGsの目標「陸の豊かさを守ろう」を実践していきたいと思ひます。

平野小学校緑の少年団活動

平野小学校緑の少年団（大洲市立平野小学校 養護教諭）高橋 寿子

1 はじめに

平野小学校は、同一敷地内に幼稚園、小学校、中学校があり、以前より幼小中合同による様々な取組を実践しています。令和2年度より小中学校でコミュニティ・スクールが導入され、地域の方々との交流を生かしながら、自然豊かな環境の下でいろいろな活動を行っています。

2 活動内容

(1) 花いっぱい運動

年に2回、幼稚園児、小学校児童、中学校生徒全員による花いっぱい運動を行っています。春にはトレニア、秋はピオラをプランターに植え、地域の公民館や駐在所、JR平野駅等の6か所に持って行き世話をしました。また、学校園の花の植え替えも行いました。



〈花植え〉

(2) 水生生物調査

5年生が、総合的な学習の時間に、近くを流れる沼田川の水生生物調査を行いました。四国では初めてとなる外来種の「ムネアカハラビロカマキリ」を5年生男児が発見し、新聞・テレビ等で報道されました。

(3) 学級園での作物の栽培

各学年が、学級園でピーマンやナス、トマトやスイカ等を栽培しています。水やりや草引きのお世話や成長過程の観察をする中で、野菜を育てることの難しさや大変さを体験しました。その後、収穫、調理を行い、楽しさや喜びを共有しました。

(4) 地域の方とのふれあい活動

毎年、3年生が地域の方と交流しながら、田植えや稲刈りを行っています。さらに、収穫したお米を使って餅つきを行うなど、貴重な体験の場となっています。



〈炭焼き体験〉

(5) 炭焼き体験活動

ふるさと学習の一環として、6年生が地元の煙友会の方々との炭焼き体験を行っています。地域の山で切り出した木材から炭ができるまでを学習しています。環境保全や自然愛護の意識が高まっています。

(6) 味噌作り

今年度ふるさと学習の一環で、5年生が地域の方に教えていただき、味噌作りを行いました。姿を変える大豆に驚いていました。



〈味噌づくり体験〉

3 おわりに

これまで、学校行事として行っていたことが、自然愛護にもつながっていることに改めて気付かされました。私たちの生活には、自然が密接に結び付いており、今後も様々な活動を通して、自然を愛し、地域に学ぶ活動を継続して行っていきたいと思います。

立川小緑の少年団 ～自然いっぱい立川・ふるさと大好き立川～

立川小緑の少年団（内子町立立川小学校 教諭）船田 義直

1 はじめに

立川小学校は、四方を山に囲まれた自然の中にあり、豊かな農産物にも恵まれた地域です。学校の裏山には「希望の森」という学校林があり、樹木や動植物の観察など様々な活動を通して自然に触れ合うことができます。また、年間を通じて花いっぱい活動にも取り組んでいます。立川小緑の少年団は、全校児童20名（男子8名、女子12名）で構成されています。毎年、結団式で行っている「スカーフ・バッジ贈り」は、コロナウイルス感染症対策によりできませんでしたが、今年も6年生から苗の植え方や水のやり方などを教わりながら、結団式記念行事として、プランターに花を植えました。みんな協力して楽しく活動できたので、みんなの心が一つになりました。



〈緑の少年団結団式〉

2 活動内容

(1) 花いっぱい活動

春にはポチュラカやマリーゴールド、秋冬にはパンジーやピオラを育てています。全校児童が協力し、水やりや花摘みなどの世話をしています。年間を通じて育てられた花は、学校の周りに飾ったり、入学式や卒業式などの会場に飾ったりしています。



〈花いっぱい活動〉

(2) バードウォッチング

3年生から6年生までの15名は、日本野鳥の会から講師を招いて、「野鳥観察会」を行いました。3時間という短い時間でしたが、中山川や学校林の周りにはたくさんの野鳥が生息していることに気がきました。合計22種類の野鳥を観察することができ、このすばらしい立川の自然を守るために、何ができるかをじっくり考えるよい機会となりました。



〈バードウォッチング〉

(3) 林業体験教室

椎茸の栽培にも挑戦しています。一昨年度植菌した椎茸が春には育ち始めました。児童は収穫した椎茸を各学年で順番に持ち帰り、家庭で調理してもらって食べています。今年度も、地域の方々や愛媛県の森林課に協力してもらい、2月に椎茸の植菌体験を行う予定です。



〈植菌体験〉

3 おわりに

緑の少年団活動も17年目になりました。全校児童で花を育てたり、環境をきれいに整えたりする活動を通して、高学年が下学年に教えたり、手伝ったりする優しい気持ちが育ってきています。今後も全校児童での取組を通じて、一人一人が植物を大切にできる心、地域の環境を大切にできる心、仲間を大切にできる心を育てていきたいと思えます。

神山小学校 緑の少年団の活動

神山小学校緑の少年団（八幡浜市立神山小学校 教諭）濱部

望

1 はじめに

神山小学校の校区には、地域に美しい海と山があります。全校児童190名の学校で、緑の少年団に参加して10年目になります。緑の少年団員を中心に、緑化活動などを行うことができました。

2 主な活動内容

(1) 緑化活動

神山小学校では、緑の少年団員を中心に、全校で花の栽培などの校内緑化活動に取り組んでいます。児童玄関前や学校前の花壇に、花の苗を植えて世話をしてきました。アサガオ、ホウセンカ、ポーチュラカ、パンジーなど、心を込めて毎朝水やりをしています。また、正門横の花壇には、八幡浜市の花であるスイセンの球根を植えました。委員会の時間には、土作りを行ったり、雑草を抜いたりしました。植物を大切にすることを育てるために、ポスター作成も行いました。作成したポスターは、校内に掲示しています。



〈花の世話〉



〈緑化ポスター〉

(2) 奉仕活動

年間を通して行っているのは、草引きです。花壇やプランター周辺の雑草をきれいに抜きます。また、秋には校庭にあるイチヨウの落ち葉拾いにも、毎朝取り組みました。学校や地域を美しくする活動は、終わった後にすがすがしい気持ちをみんなで味わうことができました。



〈落ち葉清掃〉



〈奉仕活動〉

3 おわりに

今年度も緑の少年団の活動を通して、自然とふれあったり、緑化活動への意識を高めたりすることができました。これらの活動を通して、植物を大切にしようとする気持ちが育ってきました。季節ごとにきれいに咲く花は児童だけでなく、神山小学校を訪れる方の目も楽しませることができました。今後も自分たちでできることを考え、相談しながら、緑の少年団として地道な実践を積み重ねていきたいと思えます。

日土小学校緑の少年団の活動

日土小学校緑の少年団（八幡浜市立日土小学校 教諭）井上 宗弥

日土小学校緑の少年団は、山に囲まれた自然豊かな環境の中、6年生14名、5年生19名で活動しています。少ない人数ですが、学校や地域の緑化を目指して、一人一人が一生懸命に活動しています。

花の苗植えや緑の街頭募金、奉仕活動など様々な活動を行っている中、特に朝の落ち葉拾いは団員の活動をきっかけに全校児童にも輪が広がるといったすてきな取組になっています。運動場には、本校自慢の「大銀杏」があり、秋になると落ち葉が地面を黄色に染めます。子どもたちは、登校後に落ち葉拾いを行います。初めは高学年中心で行っていた活動ですが、少しずつ他の学年からも参加するようになり、全校児童で学校をきれいにしようがんばりました。銀杏の落ち葉拾いは、日土小学校ならではの活動であり、高学年から低学年へ伝える伝統と言えるのではないかと感じています。



〈緑の少年団結団式〉



〈緑の募金活動〉



〈花の苗植え〉



〈落ち葉拾い〉

喜須来小緑の少年団の活動

喜須来小緑の少年団（八幡浜市立喜須来小学校 教諭） 眞矢 サキ

1 はじめに

喜須来小緑の少年団は、4年生27名を中心として、花苗を植える活動や地域への啓発活動を行ってきた。以下に、主な活動を紹介する。

2 主な活動内容

(1) 緑の募金活動

10月22日(土)に地域のスーパーマーケットにおいて、緑の募金活動を行った。1時間の活動であったが、たくさんの方に協力していただいた。元気な声で募金を呼び掛けたり、お礼を言って緑の羽根を手渡したりすることで、緑の少年団の一員としての自覚が高まった。



〈緑の募金活動〉

(2) 花いっぱい運動

11月2日(休)に、花いっぱい運動として喜須来地区婦人会や喜須来地区公民館の方々と一緒に、国道沿いの三叉路交差点で花の苗植えを行った。パンジー、葉ボタンなどの花の苗を植えることで、地域の方々との交流を深め、地域の環境美化に貢献しようとする態度が育った。



〈地域の方と一緒に花植え〉

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、いろいろな行事が中止となったり、また、生活様式も変わったりし、さみしい思いをしている方も多い。少しでも地域を明るくしようと、子どもたちが絵や言葉などを描いた標示プレートを作成した。花いっぱい運動に向けて、図案を考えたり、丁寧に仕上げたりすることで、自分たちの住む地域を大切にしようという思いが高まった。今後も、地域とのつながりを深めていく活動として、継続して行っていきたいと考えている。



〈花壇を飾る表示プレート〉

3 おわりに

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行われていた「緑に親しむ集い」が中止となり、他校との交流が十分にできなかったことは大変残念であった。しかし、緑の募金活動や花いっぱい運動で、地域の方々との交流を深めながら楽しく活動を行うことができた。これらの活動を通して、緑の大切さを感じ、緑を大切にしていこうとする意識を高めることができたように思う。緑の少年団の活動を、今後より一層充実させていくことができるよう、地域との連携を図りながら推進していきたい。



〈花いっぱい運動を終えて〉

伊方小緑の少年隊の紹介

伊方小緑の少年隊（伊方町立伊方小学校 教諭）阿部 雅浩

伊方小緑の少年隊は、4・5・6年生78名で活動しています。主に、「伊方っ子夢花だん」の管理と学校や地域に花を植える緑化活動を行っています。

「伊方っ子夢花だん」は国道197号線沿いにあります。春や夏には、アジサイ・ゼラニウム・マリーゴールド・トレニアなどの花が咲き誇り、秋には、パンジー・ビオラ・ツワブキなどが咲いています。5年生が花植えや草引きなどをし、管理をしています。

外部との交流では、年に2回老人会の方や日赤奉仕団の方と一緒に季節の花を植え、学校や地域で育てる花植え活動をしています。今年度は、春にヒャクニチソウ・マリーゴールド・トレニアなどを、秋にキンセンカ・サクラソウ・パンジー・ビオラ・ナデシコ・ハボタン・オミナエシなどを植えました。それぞれの花が色とりどりに輝いて、学校を華やかにしています。

毎日、児童が水やりや草引き、花がら摘みなどの作業をし、一年中花がいっぱいになるように努力しています。



九町小学校緑の少年隊の活動

九町小学校緑の少年隊（伊方町立九町小学校 教諭）井上 初美

1 はじめに

本校は、海と山に囲まれた佐田岬半島の中ほどに位置する小規模校です。今年度も、飼育・栽培委員会が中心となり、全校児童36名が、美しい学校づくり・住みよい町づくりのために、緑の少年隊活動に取り組んでいます。

2 活動報告

(1) 一人一鉢運動

本校では、年間を通して一人一鉢ずつハンギングで花を育て、正門周辺のフェンスに飾っています。今年度も、春はポーチュラカ、秋はピオラを植えました。登校後の水やりも、毎日自分たちでしています。世話をする活動を通して、花の成長に関心を持ち、植物を育てる喜びを味わうことができました。

校舎前を通る地域の方々にも好評です。

(2) 花いっぱい運動

春にはサルビア・ニチニチソウ・ジニア等、秋にはピオラ・パンジー・キンセンカ等をプランターに植え、年に2回、地域の公共施設に届ける活動を続けています。駐在所、診療所、郵便局、保育所、JA、そして福祉施設等、届けた施設の方々も大切にお世話をしてくださり、きれいな花を咲かせています。

また、町見公民館の花壇の花は、3年生が植え替えています。地域の方々の喜んでくださる姿を楽しみに、心を込めて活動をしています。

3 おわりに

緑の少年隊活動も15年目になり、今年度も、栽培を中心とした活動を継続して行うことができました。また、日赤奉仕団との奉仕活動や登校後の奉仕活動、地域の清掃活動等に進んで参加し、積極的に環境美化に努める姿も見られました。これからも、身近な自然に関心を持ち、人や地域と積極的に関わることを通して豊かな心を育ていけるよう、活動を充実させていきたいと思います。



〈緑の少年隊結団式〉



〈公民館前の花壇にて〉



〈全校での花苗植え〉



〈公共施設に花を届ける〉

三机小学校緑の少年隊の活動

三机小学校緑の少年隊（伊方町立三机小学校 教諭）河野 仁志

1 はじめに

三机小学校は、全校児童21名で緑の少年団活動を行っています。身近な自然に親しみ、郷土や自然を愛する心を育てることを目標に、栽培委員会を中心とした栽培活動や環境美化活動に力を入れて取り組んでいます。

2 活動の様子

(1) 朝の清掃活動

毎朝、始業前に、校庭の草引きや落ち葉集め等の清掃活動をしています。自主的に始まったこの活動は、長年継続されています。児童や職員が進んで取り組み、学年ごとに場所を分担して活動しています。



(2) 様々な奉仕活動

年に2回、各分団に分かれて、神社や児童公園、道路沿いなどをきれいにする奉仕活動を行っています。中学生とも協力して、地域の方々の声を聞きながら自分たちで計画をして活動することを通して、地域の環境美化に対する関心が高まっています。



(3) 花いっぱい運動

栽培委員会では秋から冬にかけて、ピオラ・パンジー・金魚草・クリサンセマム・プリムラ・アリッサム・シクラメン・チューリップ等を育てています。また、全校児童に呼びかけて、一人一鉢の栽培活動も行っています。栽培委員が、土や花の苗を準備し、花の特徴や植え方を説明した後、全校児童で自分の植えたい花を選んで植えています。栽培委員会を中心に、水やりや施肥等をしています。



(4) サツマイモの栽培

地域の特産物であるサツマイモの栽培に、毎年、全校で取り組んでいます。保護者でもあるサツマイモ生産農家の方に植え方を指導していただきます。児童は、高学年を中心に水やりや草引き、生育状況の観察を行います。せっかく実ったサツマイモをイノシシに荒らされてしまったので、今年度は保護者である農家の畑をお借りして芋掘り体験を行いました。近年、イノシシによる被害が続くため、生産農家の方の指導のもと、来年度に向けイノシシ除けの柵作りも行いました。そして、収穫したサツマイモを使ったおやつやカレーを全校で作り、楽しむことができました。



3 おわりに

上記の活動を通して、児童は、自然の恵みのありがたさや地域の方々の温かな心を感じ、児童みんなで協力することの大切さを学びました。来年度も、現在の活動をさらに工夫して充実させ、緑豊かな郷土を守り愛する心を育んでいきたいと思えます。

瀬戸中学校緑の少年団の活動紹介

瀬戸中学校緑の少年団（伊方町立瀬戸中学校 教諭）河野 晃男

瀬戸中学校は、全校生徒28名で緑の少年団活動に取り組んでいます。環境委員会を中心として、花を育てる活動と学校周辺の環境整備を主に行っています。毎月発行している「環境委員会だより」で、緑の少年団活動に関するクイズや誕生花の紹介をしました。また、全校生徒でプランターや学校園に花苗を植える活動も実施しました。



6月の親子活動では、楽しく軽スポーツをした後、運動場周辺の草引きを実施しました。また、9月には学校支援ボランティアの方々と協力して校舎周辺の環境整備を行いました。



このような活動を通して、全校生徒の草花への関心が高まってきていると感じます。来年度については、今年度の活動を継続しながら、花の種類や植える場所等について工夫していきたいと思います。



〈花の苗植えと校舎周辺の草引きの様子〉

三崎小緑の少年隊の活動

三崎小緑の少年隊（伊方町立三崎小学校 教諭）井上 富子

1 はじめに

三崎小学校は、海と山に囲まれ、児童は豊かな自然の中でのびのびと活動しています。緑の少年隊には、全校児童が参加し、「わたしたちは、花や木を育て、身近な自然を守ります」「わたしたちは、学校や町をきれいにし、すみやすい環境づくりに努めます」という二つの目標を合言葉に、今年度も様々な活動に取り組みました。

2 主な活動内容

(1) 緑の少年隊結団式

6月に、10名の1年生を新隊員に迎え、「緑の少年隊結団式」を行いました。昨年度の活動を振り返りながら、今年度どのような活動をしていくのかを確認しました。本校は縦割班で活動することが多いので、高学年のリードのもと、協力し合って活動することを誓いました。



〈緑の少年隊結団式〉

(2) 奉仕活動

毎朝、ボランティア活動として、校舎前や通路の掃除、運動場の草引きや石拾いなどを行っています。今年度、その活動を充実させるためにはどうしたらよいかを縦割班で話し合った後、「班対抗草引き大会」を実施し、話し合ったことの実践につなげていきました。登校後に速やかに始めたり、協力して手際よく活動したりする児童が増えてきました。



〈朝のボランティア活動〉

(3) 栽培活動

全校で、「一人一鉢運動」を行いました。春と秋には、全校児童が縦割班に分かれて植え方を教え合いながら花苗を植えていきました。また、環境委員会を中心に、学校園やプランターには、季節の花を栽培し、学校を花いっぱいにとしようと世話を続けています。入学式や卒業式には自分たちで育てた花を飾り、会場を明るく彩ることができました。



〈一人一鉢運動〉

(4) さつまいもの栽培

1、2年生は毎年さつまいもを栽培しています。今年度は、地域ボランティアの方が畑の準備や芋苗の植え方や芋の掘り方について丁寧に教えてくださり、温かい雰囲気の中で、楽しい活動ができました。収穫した芋は、家庭に持ち帰り美味しくいただきました。



〈さつまいもの栽培〉

3 おわりに

本校の緑の少年隊は、「継続は力なり」の言葉の通り、自分たちにできる活動を地道に続けてがんばっています。この経験を生かして、今後も、みんなで協力し合いながら、学校や地域に緑の輪を広げていきたいと思えます。

伊方中学校緑の少年隊活動

伊方中学校緑の少年隊（伊方町立伊方中学校 教諭）篠澤 朋子

1 はじめに

伊方中学校の敷地には、かつて「伊方農業実践学校」がありました。校内にある佐々木公園には、伊方農業実践学校の創始者である佐々木長治氏が遺した言葉「土を愛せよ」の石碑が建てられています。私たちは、伊方農業実践学校の伝統を受け継ぎながら、日々活動に取り組んでいます。

伊方中学校緑の少年隊は、生徒会環境委員会が中心となり、月々の活動計画を立て、全校生徒への呼び掛けを通して学校全体で活動しています。校内の環境整備や地域の奉仕活動等への参加が主な活動です。



〈「土を愛せよ」の石碑〉

2 緑の少年隊結団式

伊方中学校緑の少年隊の活動は、長い間、続いています。卒業生たちも「土を愛せよ」の合言葉のもと、この活動に取り組んできました。新入生が学校生活に慣れてきた5月、伊方中学校緑の少年隊の結団式が行われました。結団式では、「土を愛せよ」という言葉の説明や昨年度の活動内容などが紹介されました。佐々木公園内の花壇の維持管理や校舎内外の清掃活動など、日常の学校生活の中には、緑の少年隊活動に関連するものがたくさんあることに気付かされました。この結団式を通して、生徒たちはこれからどのような活動をしていけばよいのか理解することができました。

3 奉仕活動への参加

例年は、夏休み前に伊方町のライオンズクラブと連携し、地域の奉仕活動に参加します。残念ながら、ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、活動が中止になっています。また、校内や学校回りの親子奉仕活動も中止になりました。早く再開できる日常になってほしいと思います。

4 常時活動

環境委員会の園芸・清掃班が主体となって活動に取り組んでいます。

春と秋に花の苗を植え、毎日欠かさず水やりを行います。夏の水やりは大変ですが、協力して行い、花壇の環境を美しく保っています。

秋から冬にかけては、枯れた花がら摘みや雑草引き等に取り組んでいます。昼休みには、全校生徒への参加を呼び掛ける草引きボランティアを行いました。自主的な活動ですが年々参加人数も増えてきています。

花植えやボランティア活動を通して、環境への関心も高まっています。



〈花植え活動の様子〉

5 おわりに

伊方中学校では、「土を愛せよ」の言葉のもと、花と緑あふれる学校づくりに取り組んでいます。これからも全校生徒に活動の輪を広げ、四季折々の美しい花に囲まれた心癒される学校づくりを目指していきたいと思っています。

三中緑の少年隊活動

三崎中学校緑の少年隊（伊方町立三崎中学校 3年生）田中 波琉

1 はじめに

私たち三崎中学校緑の少年隊は環境委員が中心となって活動しています。今年度も全校生徒21名が緑化活動や奉仕活動に積極的に取り組み、緑豊かな環境を守ろうとする意識を高めています。

2 主な活動内容

(1) 緑化活動（季節の花を育てる活動）

花壇や玄關の周りを季節の花で美しく飾るなど、年間を通して校内の緑化に努めました。2学期後半からは卒業生一人一人に贈る鉢植えの花の栽培も始めました。卒業式に可愛い花が咲くように1、2年生が感謝の気持ちを込めて育てています。

(2) 奉仕活動（朝のボランティア活動&地域清掃）

毎週火・木曜日の朝は少し早く登校して「ちょボラ」を行っています。「ちょボラ」とは「ちょっとしたボランティア」のことです。主に校内外の除草をします。3学期も寒さにも負けることなく全校生徒が率先して参加しています。また、夏休み中に1年生が国の天然記念物である「あこう樹」周辺の落ち葉清掃を行いました。この活動には地域の方も多数参加されていて、親交を深めることができました。



〈苗植え〉



〈あこう樹清掃〉



〈卒業生に贈る花〉

(3) さつまいもプロジェクト（宮城県の中学校との交流活動）

今年度もプロジェクト班を中心に、さつまいもの栽培を行いました。担当の先生や地域の方から助言をいただきながら、畝づくり、苗の植え付け、つる返し、雑草取りなど、生徒の手で行うことができました。予想以上にたくさんのさつまいもを収穫することができました。収穫後はよく乾燥させて、東日本大震災の被災地の中学校に送る予定です。そして被災地の中学校のみなさんにおいしく食べてもらいたいと思います。震災から10年以上も続いているこの交流活動をこれからも大切にしていきたいと思います。



〈畝づくり〉



〈苗の植え付け〉



〈収穫〉

3 おわりに

私たち三中生は緑の少年隊として、緑に親しみ、緑を愛し、緑あふれる学校づくりに取り組んできました。来年もこれまでの伝統を受け継ぎながら、学校だけでなく地域へと活動の場を広げ、自然豊かな地域づくりに貢献したいと考えています。そして、緑の少年隊の活動を通して、ふるさとのよさを再確認するとともに、ふるさを愛する心豊かな人間に成長していきたいです。

嗚呼、楽しい田之筋緑の少年活動

田之筋緑の少年団（事務局：田之筋公民館 主事）上甲啓一郎

今年度で第40期となる田之筋緑の少年団では、年間を通じてさまざまなプログラムから緑に親しみ、土に親しみ、ふるさとを愛する活動を行っています。当団体の特色としては、小学校が事務局を持たず、地域の大人たち(保護者等)が中心となり学校の協力も得ながら、学校生活では味わえない体験の提供、山や川の中から感じる自然そのものの魅力や地域資源の素晴らしさを感じる感動体験を提供していること、そして大人も一緒に楽しんでいるということだと思います。近年、コロナ禍や天候不良等の要因で思うような活動ができないこともありますが、大人たちが知恵を絞り、未来ある子どもたちのため、役員一同無理のない範囲で活動を続けていきたいと思っています。

(年間活動紹介 R 4 団員数：58名)

- 5/14 第40期入団式(花植え400鉢)
 - 6/14 田植え実習(小学校事業と共催)
 - 8/7 低・中学年デイキャンプ
 - 10/22 高学年登山研修(石鎚山)
 - 10/19 稲刈り実習(小学校事業と共催)
 - 11/5 花植え400鉢
 - 1/22 スキー・スノーボード研修
 - 2/25 卒団イベント(地域の名山登山・タイムカプセル)
- 卒団式



〈花植え(パンジー、ピオラ)〉



〈SUP体験〉



〈ネイチャーゲーム〉



〈登山研修(石鎚山)〉

野村小緑の少年隊の活動

野村小学校緑の少年隊（西予市立野村小学校 教諭）山岡 裕子

1 はじめに

本校は、西予市の東部にある野村町の中心に位置し、田畑や川、野山などに囲まれ、四季折々の自然に親しみやすい環境にある。

今年度、「野村小学校緑の少年隊」として5年生49名が活動を行っている。植物や自然を愛し、守り育てるとともに、ふるさとの緑や自然、人とのきずなを深める心の育成に努めてきた。

2 主な活動の紹介

(1) 「人権の花」

「お世話になっている方に育てた花を贈ろう。」と秋から春まで楽しめる花を調べ、栽培する花を決めた。近くのホームセンターへ行き、実際に見て、パンジーやビオラの色合わせ等、グループで相談しながら苗を購入して寄せ植えを行った。一人一つのプランターを担当し、水やりや花がら摘みなどの世話を続けた。12月には、プレゼント用に育てた鉢にメッセージを添えて乙亥会館や保育所などへ送り届けた。花の名前や世話の仕方なども伝え、笑顔で受け取ってくださると、育ててよかったと感ずることができた。



〈苗植え〉



〈鉢植え贈呈〉

(2) 「木育授業」

西予市では、平成30年度にウッドスタート宣言を行い、子育て・教育に木を取り入れ、日常から「木」に触れ合うことで森林・林業への理解を深める「木育」を推進する取り組みを行っている。その取り組みの一つである『西予市林業課の出前授業』をお願いして、木育授業を行った。講師として、青年林業士の高橋征敏氏をお招きした。座学では、木育や西予市の森林などについての説明を聞いた。その後バスで桂川渓谷まで移動し、渓谷内の樹木や落ち葉観察を行い、広葉樹林についてのお話を聞いた。また、財産区有林まで移動して、人工林の必要性や、手入れ等の説明もしていただいた。



〈人工林の説明〉

(3) 「水生生物調査」

野村小学校校区である肱川で調査を行った。スタッフとして、愛媛大学・西予市復興支援室・肱川ダム統合管理事務所の方と一緒に実施した。たくさんの生き物を採取し、自然環境を守っていくことの大切さに気付くことができた。また、豪雨災害を経験し、川は怖いものという認識があったが、川とともに生活することは怖さだけではなく、良さもたくさんあるというお話も聞くことができた。



〈水生生物調査〉

3 おわりに

野村町は、豪雨災害によって甚大な被害に見舞われた町である。豊かな自然が破壊された場所も少なくありません。緑の少年隊の活動を通して、改めて自然のありがたさや素晴らしさを実感したり、自然の恵みに感謝したりすることができた。今後更に、主体的に自然に関わり、大切にしていこうとする実践力が育つことを願っている。

明浜小緑の少年団の活動

明浜小緑の少年団（西予市立明浜小学校 教諭）水口 志寿

1 はじめに

本校は、西予市明浜町にあり、全校児童87名の学校です。明浜町内の4つの小学校が統合して明浜小学校となり、今年度で開校8年目になります。児童は、美しい海とみかん山に囲まれた自然豊かな環境の中で、温かい地域の人々に見守られながら、明るく元気いっぱい活動しています。全校児童が緑の少年団のメンバーとなり、環境委員会を中心として花や野菜の栽培、清掃活動、花配り等の活動に取り組みました。

2 主な活動の紹介

(1) 花いっぱい運動

春と秋の2回、プランターや花壇に花の苗を植えました。環境委員が中心になり、春は、ポチュラカ、サルビア、ペチュニアなどの苗を植え、毎日水やりをして育てました。秋は、パンジーとビオラを植えました。色とりどりの花が美しく咲き、玄関が華やかになりました。水やりや花がら摘みなどの世話をし、卒業式や入学式に飾ることができるように、大切に育てています。また、1、2年生は、一人一鉢、チューリップの球根を植え、春に花が咲くのを楽しみに観察しています。



〈花植えの様子〉

(2) 野菜の栽培活動

1、2年生は、芋苗とミニトマトを植えました。たくさん収穫でき、蒸したサツマイモは、全校児童でおいしくいただきました。また、2年生は、それぞれが好きな野菜を植えました。毎日畑に行って、キュウリ、なす、オクラ、ピーマンなどの世話をし、野菜に対する興味が広がりました。



〈芋掘り〉

(3) 「まごころの花」配り

5年生が寄せ植えたプランターを「まごころの花」として、地域の老人福祉施設や各地区の公民館にプレゼントしました。自分たちが育てた花を見て明るい気持ちになってほしいという思いを込めて届けました。児童の訪問を大変喜んでいただきました。



〈「まごころの花」配り〉

3 おわりに

本校は、花と野菜の栽培を中心に緑に触れ合う活動を進めてきました。来年度も花や野菜の栽培を通して、命を大切にすることや植物を大切にすることを育てるとともに、地域の人や環境に関心を持ち地域とつながる活動を工夫しながら、交流の輪を広げていきたいと思ひます。

三瓶小学校緑の少年団活動

三瓶小学校緑の少年団（西予市立三瓶小学校 教諭）木下かおり

1 はじめに

三瓶小学校は、西予市三瓶町にある全校児童183名の学校です。全校児童が緑の少年団に入り、緑いっぱいの学校を目指して、花や野菜の栽培、清掃ボランティア活動に取り組んでいます。また、地域の方の協力をいただき、サツマイモの苗植えや田植え・稲刈り等の体験活動を行いました。

2 主な活動内容

(1) 緑の少年団結団式

5月10日に、三瓶小緑の少年団結団式を行いました。栽培委員会の児童が活動の目的や活動計画を紹介して、全校児童の気持ちをひとつにしました。



〈緑の少年団結団式〉

(2) 各学年での栽培活動

1年生は、アサガオやパンジーを植え、水やりや花殻摘みなどの世話を楽しみながら行っています。

2年生は、ミニトマトやキュウリ、ナスなどの野菜を育てました。夏にはたくさん実を付け、野菜嫌いな児童も興味をもつなど、食育にもつながりました。また、パンジーを植えたプランターを人権の花として地域の駐在所へ贈呈しました。



〈人権の花贈呈式〉

3年生は、サツマイモを育てました。地域の農家の方に苗の植え方を指導していただき、マルチを使った栽培の工夫を知りました。また、30cmだったつるが4mを超え、100枚以上の葉を付けるなどサツマイモの成長に驚きました。

4・5年生は地域の田を借りて田植えや稲刈りを行いました。豊かな自然の中で実りある体験活動を行うことができました。



〈サツマイモの苗植え〉

(3) 花いっぱい活動・清掃ボランティア活動

栽培委員会が中心となり、春と秋に季節の花苗や球根の植え付けをし、毎日世話をしています。1年間の活動を通して、児童は、「栽培委員会に入って花の名前に興味をもった。」「学校に花が植えてあるのは当たり前だと思っていたけど、自分たちで苗植えや花の世話をしてみると時間がかかり、大変なことが分かった。」「花に囲まれた環境がありがたいと思った。これからも大切にしていきたい。」などの感想をもちました。

高学年を中心に玄関や校庭の掃除に取り組んでいます。秋には全校で落ち葉拾いや草引きなどを行い、気持ちよく生活できるよう環境整備に努めています。



〈花苗植え〉

3 おわりに

今年度も、ふるさとの自然と地域の方の協力で、各学年で豊かな体験を通して緑に親しむことができました。プランターでの花いっぱい活動と学級園での栽培活動を中心に地道な活動をみんなで協力して行いました。今後も、緑いっぱいの学校を目指して全校児童で栽培活動に取り組んでいきたいと思えます。

皆田小緑の少年団の活動紹介

皆田小緑の少年団（西予市立皆田小学校 教諭）櫻田 智美

本校は、全校児童72名が団員として取り組んでいます。全校みんなで花や野菜を大切に育てるとともに、環境委員会が中心となって学校の緑の環境を大切にする活動を行っています。

1 花いっぱい運動

年間を通して栽培活動を行っています。大きく2期に分け、春から夏にかけてはマリーゴールドやサルビア、日々草、ポチュラカ、ラベンダーなどを育て、秋から春にかけてはパンジーやピオラ、なでしこなどを育てています。花壇や学級園に植え、水やりや花摘みなどの世話をし、花いっぱいの学校になるように取り組んでいます。



2 野菜栽培活動

生活科や特別支援学級の生活単元学習に関連させ、ミニトマトやキュウリ、トウモロコシ、オクラ、ナス、スイカ、サツマイモなどを植えて育てました。水や肥料をやる世話を重ね、たくさんの野菜を収穫しました。収穫した野菜は、それぞれの学級で調理方法を工夫しながら料理をしました。収穫した命に感謝しながら味わっていただきました。



3 朝のボランティア活動・PTA奉仕活動

毎朝、全校で校庭の除草や落ち葉拾いなどのボランティアをしています。登校したらすぐにランドセルを片付け、運動場に出て活動します。4月から9月までは、主に草引きを行い、10・11月は、落ち葉拾いを中心に行います。自分たちの学校を自分たちで美しくする気持ちが育ってきています。加えて、夏休みの最後にPTA奉仕作業を行い、学校の環境（主に緑の環境）を親子で整える活動も行っています。



4 「環境ニュース」クイズ

環境委員会の児童が、学校で育てている植物のクイズをPCで作成し、2か月に1回、全校児童に配信しています。

クイズを楽しむ活動を通して、学校内の緑の環境へ目を向けてもらうことを目標にしています。「ほうき草は、きれいなほうきみたいだね。」「パンジーとピオラは、花の大きさがちがうんだね。」などと、初めて知ったことに対する感想がたくさん出てきています。



城川中学校 緑の少年団の活動紹介

城川中学校緑の少年団（西予市立城川中学校 教頭）岡部 一行

城川中学校は、西予市の東端に位置し、周囲を豊かな自然に囲まれた全校生徒39名の小規模校です。地域には多くの自然があふれています。ふるさと城川や外部の方々との交流を通して学ぶことがたくさんあった今年度です。ふるさとの産業への興味や自然環境の維持、美しい学校環境づくりに貢献したいという意識が育ってきました。今後も継続して緑の少年団の活動を充実させていきたいと思えます。

1 環境美化に向けたボランティア活動

4月の全校遠足で地域の施設へ出向き、清掃ボランティアを行いました。全校生徒が協力して主にグラウンドの草引きをし、汗を流しました。授業日には、始業前や昼休みの時間を利用して、草引きや落ち葉拾いを行いました。夏季休業中には、生徒が花壇やプランターの水やりや除草を自主的に取り組む姿が見られました。



〈清掃ボランティア〉

2 地域の木材を活用した木育教室

技術科の授業において、外部人材の協力を得ながら、木育教室を行いました。

3年生では、西予市林業課のコーディネートにより、地域の工務店において木組みの体験をする機会をいただきました。「地獄組み」という、特殊な木組みについて工務店の店主から学び、地獄組みを利用した鍋敷きを製作しました。木の特性や様々な利用法を学び、森林資源の大切さと無限の可能性について知ることができました。



1年生では、県林業課、西予市林業課、城川町林業研究会の方々の協力により、地域の間伐材を活用して長椅子を製作しました。また、県林業課の職員より、植林や森林資源の保持についての講話をしていただき、緑化活動の大切さについて意識を高めることができました。



〈木育教室（1・3年生）〉

惣川小緑の少年団活動

惣川小緑の少年団（西予市立惣川小学校 養護教諭）周藤 幸恵

1 はじめに

本校は、西予市の東部にあり、東は四国カルスト大野ヶ原につながっています。自然がおりなす造形美や美しい山々に囲まれ、緑あふれる環境の中で全校児童7名が日々生き生きと活動しています。

2 活動の様子

(1) 学習活動「梅干し作り」

校舎の裏にある梅の木が毎年たくさんの実をつけてくれており、今年も梅干しを作りました。自分たちで梅の実を収穫し、軸取り、梅洗い、塩漬け、天日干し、しそ漬けと梅干し作りの工程をすべて行いました。塩漬けの際には、地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、塩分濃度や天日干しの仕方等について教わりながら行うことができ、梅干し作りを通して地域の方とつながるよい機会にもなっています。また、今年は、総合的な学習の時間に、梅干しを使った料理を考えコンテストを行い、給食の献立にも取り入れてもらうことができました。

梅の実の収穫や加工を通し、友達と協力することのよさや自然の恵みに気づくことができました。



〈梅取り〉



〈塩漬け〉



〈しそ漬け〉

昨年、結成記念として植樹した梅の木も少しずつ成長をしています。数年後またこの木から、たくさんの実がとれることを楽しみに、守り育てていきたいと思えます。

(2) 緑化活動

年間を通して、花の栽培を行い、緑豊かな環境づくりに取り組んでいます。春には、パーベナ・ダイアンサス・ジニア・マリーゴールド・なでしこ・ロベリア、秋にはピオラを花壇やプランターに植えました。いろいろな花が学校を明るく彩り出迎えてくれています。

また、一人一鉢運動として、自分の植えたい花を選んで植え、お世話になった方にも、感謝の気持ちを込めてプレゼントしました。



〈花の苗植え〉

3 おわりに

上記の活動を通して、自然の恵みのありがたさや協力することの大切さを学びました。今後も、緑の少年団の活動を通して、地域の自然のすばらしさに触れ、緑に感謝し、ふるさと惣川のすばらしい自然を守り育てる心を育むための活動を実践していきたいと思えます。

成妙緑の少年団だより

成妙緑の少年団（宇和島市立成妙小学校 教頭）三谷 浩司

本校は宇和島市の東側に位置し、三間米で有名な旧三間町にあります。校区には緑が多く、農業や林業の盛んな地域です。このような中で緑の少年団の活動は、地域の緑化運動、農園作業を中心に行われています。新型コロナウイルス感染症対策のため、今までは活動を縮小して行ってきましたが、今年度は可能な限り制限下の中でできることを考え、活動に取り組んできました。1年間の活動の様子をお知らせします。

1 結団式

今までは5年生以上の児童が緑の少年団の制服を着用していましたが、児童数減少に伴い、4年生以上が制服を着用し、緑の少年団結団式を行いました。3年ぶりに全校児童がそろっての結団式です。



2 緑の少年団緑化活動

(1) 緑化活動

第1回目の緑化活動は結団式のあと各学年に分かれ活動を行います。

1、2、3年生は学級園の整備、4、5年生はチューリップ街道の整備、6年生は宇和島市指定有形文化財旧庄屋毛利家周辺の整備を行いました。

(2) コスモス祭り種まき

11月頃に本校周辺で行われるコスモス祭りの準備として稲刈りが終わった後の水田にコスモスの種まきをします。例年は5、6年生が行いますが、今年は学校行事の関係で5年生の代わりに4年生が行いました。11月のコスモス祭りには多くの人出で賑わっていました。



(3) チューリップ街道整備

本校校区にある則地区の県道31号線沿線花壇に、成妙小学校5、6年児童はチューリップの球根を2000球植え付けします。春には色とりどりのチューリップを見ることができます。



3 農園活動（常時）

各学級が植え付けをする作物を考え、種をまいたり苗を育てたりしています。春の植え付けが主な活動でしたが、秋植えの活動も増えてきています。朝の持久走練習活動後に草引き、間引き、収穫等を行っています。

4 さつまいも栽培

総合的な学習の時間にさつまいもの植え付けを行い、収穫したさつまいもを地域にある福祉施設にプレゼントし交流に利用しています。ただし、新型コロナウイルス感染症対策のため、限定的な交流にしています。



清満緑の少年隊活動

清満緑の少年隊（宇和島市清満小学校 教諭）長谷 真輝

1 はじめに

清満小学校は宇和島市津島町の東部に位置し、自然豊かな環境にある山間部の学校です。全校児童は45名。児童は、地域の方々と交流しながら、自然を生かした教育活動に取り組み、様々な体験を通じて自然の大切さを学び、自然に親しみながら生き生きと活動しています。

2 主な活動の内容

(1) トキワバイカツツジ保全活動

本校の校区には、トキワバイカツツジの自生地があります。これは「愛媛県絶滅危惧1 A」に認定されている珍しいツツジです。その自生地は津島町だけで、まさに「世界で津島だけの花」ですが、その存在を知っている児童はほとんどいませんでした。津島中学校がトキワバイカツツジの保全活動に取り組んでいることを受け、校区に自生地がある本校でも、令和2年度からその保全活動に取り組んでいます。

今年度も、トキワバイカプロジェクトの方の協力を得て、トキワバイカツツジについての説明をしていただきました。その希少性や世話の難しさなどを教えていただいた後、約50本の挿し木作業を行いました。また、昨年度の挿し木を植木鉢に移し替える作業も行いました。



〈トキワバイカツツジについての説明〉



〈昨年度の挿し木を植木鉢に移し替える作業〉



〈記念撮影〉

(2) 栽培活動

今年度も、ビオラやパンジー、桜草、チューリップなどを植えました。この花は卒業式や入学式に体育館に飾られ、花いっぱいの中で式が行われます。

低学年や特別支援学級はピーマン、ナスなどの夏野菜、白菜や大根などの冬野菜の苗を植え、収穫の喜びを味わっています。この活動には、地域のボランティアの方々が「野菜先生」として参加し、指導をいただいています。

このように一年を通して花や野菜の栽培を行い、自然を愛する心を育てています。



〈野菜の収穫〉

3 おわりに

今年度も栽培活動とトキワバイカツツジの保全活動に取り組みました。これらの活動を通して故郷の自然を見つめ直し、その良さをすることで、これから自分たちに何ができるのか考えさせてきました。これからも、故郷とその自然を愛する子どもたちを育てていきたいと思えます。

緑の少年団活動を通して

森の国緑の少年団（松野町立松野西小学校 教諭）兵頭 秀則

1 はじめに

今年度も、コロナ禍の中での「森の国緑の少年団」の活動となりました。地域や関係団体の方々の協力を得ながら、松野東小学校と合同で地域に根ざした活動を継続しています。本稿では松野西小学校での活動から、ふるさと松野の豊かな自然に親しみ、守り育てようとする活動の一部を紹介します。

2 本年度の活動状況

(1) 森林教室（年間6回）

滑床渓谷で開催される滑床山開きが今年も無事に行われ、森の国緑の少年団の活動がスタートしました。また、四万十川森林ふれあい推進センターの方々の指導のもと、年間6回の森林教室も開催することができました。校内の樹木を観察したり、間伐材を再利用して「壁飾り」を製作したり、八面山登山体験を行ったりしました。また、土壌浸透実験では、木のある山と木のない山の模型を作成し、水の浸透実験をしました。これらの活動を通して、森林の働きを知り、森林保全の重要性について理解する



〈校内の植物調べ〉



〈木工クラフト 壁飾り作り〉



〈樹木のネームプレート作り〉

ことができました。地域の自然は多くの人々によって守られてきたことにも気づきました。



〈八面山登山〉



〈土壌浸透実験〉

(2) ホタルの飼育

目黒の里ホタル愛好会の方々に協力していただき、ホタルの飼育を継続して行っています。幼虫の放流に向けて幼虫の観察やえさとなるカワニナの採取も行いました。7月には幼虫がさなぎになり、成虫になるところを観察しました。また、ホタルの飼育活動を通して、ホタルが育つ環境を作り出すために自分たちにできることについても話し合っています。今年目は黒の里ホタル愛好会主催の「蛍の畦道ライトアップ」のイベントにも参加しました。



〈目黒の里ホタル愛好会の方による講話〉

3 おわりに

今年度も感染症予防対策をしながらの「森の国緑の少年団」活動となりましたが、活動が制限される中でも工夫をしながら計画通り行うことができました。様々な体験は、児童にとってとても有意義な活動になりました。今後も松野東小学校と連携を図りながら、「緑の少年団」の活動を通して、「人心緑化の町」松野の環境を守り育てていく活動に主体的に取り組む児童を育てていきたいと思ひます。

令和4年度 愛治緑の少年団の活動

愛治緑の少年団（鬼北町立愛治小学校 教頭）三好 章浩

1 はじめに

本校は、鬼北町の山間部にある全校児童14名の小規模校です。豊かな自然の中で、地域の方々に協力して頂きながら、明るくのびのびと活動に取り組み、緑豊かなふるさと作りに貢献することを目指して、様々な活動を行っています。

2 主な活動内容

(1) 野菜作り

1・2年生は、学校の芋畑にさつまいもの苗を、学級園に野菜の苗を植えました。水やりや草引きをする中で、農家の仕事の大変さを感じたり、野菜の生長を楽しんだりできました。また、野菜の収穫時には、自分たちの活動の達成感を味わうことができました。収穫したさつまいもや野菜は、全校に配付し、喜びを分かち合いました。



(2) 郷土料理教室

5・6年生は、学校の芋畑でこんにゃく芋を育てています。今年は芋の生長が悪かったため、地域の産物を使用した郷土料理作りにも挑戦しました。地域の方から、旬の食材を活用した郷土料理を紹介していただいたり、食材を生かした調理法を教えていただいたりしました。自然の恵みに感謝するとともに、故郷の自然の豊かさを感じることができました。



(3) 清掃ボランティア活動

運動場や通学路の清掃活動に取り組んでいます。春は学校のシンボルである大きな楠木からの落ち葉の掃除、以降は運動場の草引きに励みました。7月のクリーン月間に合わせ、登校時に通学路のゴミ拾いも実施しました。全校みんなで協力しながら、校庭や通学路をきれいにしています。



(4) 町有林の見学及び森林教室

ふるさとの自然や産業を学ぶため、町有林の見学を行いました。町有林管理組合長をお招きし、町有林の歴史や先人の想いを教えていただきました。学びの中で得た、先人の想いを受け継ぎ、ふるさとを守っていきたいという思いを、学習発表会で地域の方々に伝えました。

森林教室では、農林公社の方々に講師として学習を行いました。樹木の種類や特性、林業の仕事や木材の加工・流通についても学びました。間伐作業の見学では、森林管理の大変さと必要性を学ぶとともに、環境保全の気持ちを強くしました。



3 おわりに

緑の少年団の活動を進める中で、多くの方々の協力・支援をいただくことができました。子どもたちは地域の方々と触れ合う中で、自然の大切さだけでなく、地域の人々の温もりを感じることもできました。協力していただいた方への感謝の気持ちを忘れることなく、今後も地域に根ざした活動に取り組んでいきたいと思っております。ふるさと愛治を大切に、美しい自然を守っていくために、全校児童一丸となって緑の少年団の活動を、より充実させていきたいと考えています。

日吉みどりの少年団の活動

日吉みどりの少年団（鬼北町立日吉小学校 教頭）日野 岳

1 はじめに

日吉みどりの少年団は、全校児童25名が、地域や関係諸団体の協力を得ながら、日吉の豊かな自然に親しみ、守り育てようとする活動を行っています。

2 主な活動内容

(1) きずなの花の世話、花配り

きょうだい班（異年齢集団）で、5月に花苗を植え、肥料や水やりをして大切に育てました。育てた花は、日頃お世話になっている地域の施設に届けました。全校児童が班ごとに分担し、感謝の言葉とともに配って回り、喜ばれました。



(2) 森林教室

日吉農林公社の協力を得て、年6回森林教室を行っています。林業についての学習会、炭づくり体験、伐採見学・伐採体験、製材所見学、木工教室を行っています。森林を守っていくための工夫と苦労について学んでいます。



(3) 野菜作り・芋掘り

1・2年生は生活科で野菜作りをしています。教室前の畑では、夏にはミニトマトやピーマン、冬にはサニーレタスやブロッコリーなどの野菜を植え、水やりや除草をして大切に育て、生長の様子を観察したり収穫の喜びを味わったりしました。また、日吉中学校の農園では、中学生から優しく声を掛けてもらいながら、一緒に芋苗植えや芋掘りをして交流を深めています。



(4) シイタケ栽培

地域でシイタケ栽培をされている方に栽培方法と管理の仕方について教えていただき、シイタケのホダ木の天地返し等を行っています。寒暖の差が大きくなった11月頃から肉厚のシイタケを収穫しています。収穫したシイタケでシイタケパーティーも行います。



3 おわりに

協力し合って花や野菜を育てたり、学校の緑化・美化活動に貢献したり、地域の施設に花を配ったりする活動を通して、子どもたちは自然の大切さやすばらしさ、勤労の大切さを学び、人と触れ合うことの喜びを感じています。また、今年度も関係諸団体によるご協力もあり、野外活動を通して、地域のよさや自然を守り育てることの大切さを実感できる貴重な体験をすることができました。

今後も、日吉みどりの少年団の活動を支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れることなく、自然や地域を愛し、守り育てていこうとする意識を高める活動に取り組んでいきます。

三島小・戸祇の子緑の少年団の活動

三島小・戸祇の子緑の少年団（鬼北町立三島小学校 校長）北岡 聡美

1 はじめに

本校は、校歌にも歌われる戸祇山を含む豊かな山々に囲まれ広見川のほとりに立つ全校児童38名の学校です。森や川に親しみ、自然を愛し、地域の人とのつながりを大切にする心豊かな三島っ子を育成することを目的に活動しています。

2 活動内容

(1) 川とふれあう

3・4年生が、総合的な学習の時間の単元「広見川について調べよう」「広見川を守ろう」で、広見川の水質調査や水生昆虫採集をしたり、SDGsと関連させ自分たちができることを考えて発信したりしました。

水質調査では、いろいろな水生昆虫が採取でき、中でもきれいな水質の川に生息する大型のヘビトンボがたくさん確認できました。一方、少し汚い水質の川に生息する水生昆虫も観察されたことで、地域の方たちが守ってきた美しい広見川を行動することで守っていこうとする意識が高まりました。



〈広見川の水質調査・昆虫採集〉

(2) 山に親しむ

戸祇山へ登ろう会の皆様のご協力で、子どもたちが946mの戸祇山登山に挑戦しました。この登山は、「戸祇山の頂上から、母校や自然豊かなふるさとの風景を眺めることで、より郷土を愛する心を深めてもらいたい」という地域の方の思いから、平成7年に始まり、今年は25回目となりました。

頂上までの3カ所にロープを張るほどの厳しい登山ですが、子どもたちは粘り強く登り切りました。声を掛け合い、登ろう会の方に励まされ、全員が頂上へたどりつき美しく連なる山々や点在する集落、はるか海まで見渡せる絶景をみんなで見ました。

戸祇山を登り切ったことは、子どもたちの忘れられない思い出となり自分への自信とふるさを誇りに思う気持ちを育てました。



〈戸祇山の頂上に立つ〉



〈急傾斜が続く山道〉

3 おわりに

地域の自然の中で、地域の方々とふれあいながら体験的な活動をすることで、受け継がれてきた地域の思いにふれ、子どもたちは自分たちも地域の一員だという自覚が深まりました。今後は、自分たちができることを考え行動する機会を増やし、より主体的な活動になるよう工夫をしていきたいと思います。

令和4年度 篠南緑の少年隊活動報告

篠南緑の少年隊（愛南町立篠山小・中学校 教諭）吉田 昌史

1 今年度の活動の概要

ふるさと篠南を愛し、自然を大切にすることを育てることが目標に、今年度は小学生8名、中学生10名で活動を行った。



〈地域・高校生と行った田植え〉

2 今年度の活動内容

(1) 水稲栽培

今年度はファミリー班で活動し、うるち米ともち米のどちらを担当したいか話し合って決めさせた。田植え当日は、老人クラブをはじめ、児童生徒の祖父母や地元の南宇和高校農業科の生徒の協力もあって、2時間で約10アールの田に機械を使わずに苗を植えることができた。稲刈りは、雨の合間をぬっての実施となったため、全てを手で刈ることはできなかったが、コンバインまで稲を運ぶという今までに体験したことのない作業をさせていただいた。



〈収穫祭での会食〉

収穫祭も、ファミリー班でメニュー、役割分担、調理の手順を決めたり、協力したりしながら、米作りでお世話になった地域の方々を招待して会食することもできた。これらの活動を通して、米づくりの苦労や収穫の喜びを理解するとともに、地域や高校生との交流も図ることができた。

(2) 花・野菜の栽培



〈県道花壇の花の定植〉

中学生が春と秋の2度、県道花壇に花の定植をしている。今年度、春にはマリーゴールドを、秋にはパンジーなどを植え、草引きなどを行い管理している。また、一人一プランターでの花の栽培も行っている。

野菜作りでは、ミニトマトやピーマン、ナス、キュウリの夏野菜とサツマイモをそれぞれの畑に植え、水やりや草引きなどの手入れを行った。

(3) シイタケづくり

昨年度3月に原木にシイタケ植菌をした。やっと一夏が過ぎ、まだシイタケの菌が原木内に充満するのを待つ「伏せ込み」の状態だが、定期的に水やりをするなど、今年の秋に収穫できるのを楽しみに世話をしている。



〈シイタケの植菌〉

資料編

緑の少年団の概要

1 目的

緑の少年団は、次代を担う子どもたちが自主的に、学校等での緑化活動、森林での学習活動、地域の社会奉仕活動などを通じて、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てることにより、自然を愛し、人を愛し、自らの社会を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的としている。

本県においては、昭和48年に結成された朝倉村緑の少年団を皮切りに、現在では111団体1万人以上の団員（令和4年7月現在）が県下各地で活発な活動を展開している。

2 主な活動内容

- (1) 緑化活動：花木の栽培（一人一鉢運動、花いっぱい運動）、
植物の管理・育成
- (2) 奉仕活動：クリーン運動、地域美化活動、地域への花苗等の配布、
交通安全キャンペーン、緑の募金運動
- (3) 野外活動：野鳥観察、巣箱かけ、遠足、登山
- (4) 学習活動：緑の教室・森林教室・木工教室などの体験学習、環境調査、
農作物・林産物の栽培、動植物の保護
- (5) その他：地域行事への参加、収穫祭

3 結成状況（令和4年7月現在）

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
団体	111	110	107	101	103	115	114	114	115	115	111
団員数	11,019	10,435	10,295	10,862	9,999	10,707	10,284	10,694	10,536	10,831	10,776

4 組織状況

緑の少年団愛媛県連盟

- ・会長：山本 浅幸 愛媛大学大学院教育学研究科 特定教授
- ・構成員：小学1年生から中学3年生までを対象に、ほぼ学校単位で結成
- ・指導：主に学校の教諭があたっており、地域の森林組合や林業事業体等の協力を得ている団体もある。

緑の少年団愛媛県連盟規約

(名 称)

第1条 この連盟は、緑の少年団愛媛県連盟（以下「県連盟」という。）と称する。

(組 織)

第2条 県連盟は、愛媛県内の緑の少年団（隊）及びこれを賛助するものをもって組織する。

(目 的)

第3条 緑の少年団（隊）の育成及び活動の助長を図り、郷土を愛し、自然に親しむ心豊かな健全な青少年の養成に資することを目的とする。

(事務局)

第4条 県連盟の事務局を森林整備課内に置く。

(事 業)

第5条 県連盟は、第3条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 各団体相互の連絡協調
- (2) 指導者研修会、講習会、座談会等の開催
- (3) 新団体結成の促進
- (4) 県連盟大会、交歓会等の開催
- (5) その他必要な事業

(役 員)

第6条 県連盟に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 理事 15名以内（うち2名は、学識経験者）
- (4) 監事 2名

(役員を選任)

第7条 理事及び監事は、総会で選出する。

- 2 会長は、理事が互選し、副会長は、会長が指名する。
- 3 理事及び監事は、相互兼務することができない。

(職 務)

第8条 役員の職務は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 会長は県連盟を代表し、その運営を総括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- (3) 理事は、県連盟事業の審議並びに事業の執行運営にあたる。
- (4) 監事は、本連盟の会計を監査する。

(任 期)

第9条 役員の任期は2年とする。ただし、再選を妨げない。補欠または増員により選任された役員の任期は、前任者または現任者の残存期間とする。役員の任期満了の場合においても後任者の就任までは、引き続きその職務を行わなければならない。

(名誉会長、顧問及び相談役)

第10条 県連盟に名誉会長、顧問及び相談役をおくことができる。名誉会長、顧問及び相談役は役員会にはかり会長が委嘱する。

(会 議)

第11条 県連盟の会議は、総会及び役員会とする。

2 会議は会長が招集し、その議長には、会長があたる。

3 会議は、その構成員の過半数で成立し、議決は、出席者の過半数とする。ただし、可否同数のときは、議長が定めるものとする。

4 書面により議決権を行使することができ、この者は出席者とみなす。

(総会の議決事項)

第12条 総会は、次の事項を議決する。

(1) 事業計画、予算及び決算の承認

(2) その他、本連盟に関する重要事項で会長が必要と認めた事項

(会 計)

第13条 県連盟の経費は、会費、寄付金、補助金及びその他の収入をもってあてる。

(会 費)

第14条 会費は、1団あたり3,000円とする。

(会計年度及び監査)

第15条 県連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 会長は会計年度終了とともに、会計監査に必要な書類を作成し、監事に提出して監査を受けなければならない。

(出納整理期間)

第16条 当該会計年度に係る出納は、翌年5月31日又は総会開催時のいずれか早い時期までに完結させるものとする。

(附 則)

1 この規約は、昭和55年11月29日から施行する。

(附 則)

2 この規約は、平成8年6月19日から施行する。

(附 則)

3 この規約は、平成24年度事業から適用する。

(附 則)

4 この規約は、平成25年5月22日から施行する。

緑の少年団愛媛県連盟 役員名簿

令和4年度

種 別		氏 名	現 職 名	備 考
会 長		山 本 浅 幸	愛媛大学大学院教育学研究科特定教授	
副 会 長		田 坂 敏	今治市教育委員会教育長	
◇		岡 久 夫	愛媛県森林整備課長	
理事	四国中央地区	高 橋 和 紀	松柏小学校教諭	
◇	西 条 地 区	一 色 太 郎	西条市林業振興課長	
◇	丹 原 地 区	武 田 和 彦	小松小学校教諭	
◇	今 治 地 区	梶 川 真 治	今治市公園緑地課長	
◇	松 山 地 区	鍋 田 豊 樹	伊予市農林水産課長	
◇	松 山 地 区	渡 部 好 紀	西谷小学校教諭	
◇	久万高原地区	小 野 哲 也	久万高原町林業戦略課長	
◇	大 洲 地 区	菊 池 章	大洲市農林水産課長	
◇	西 予 地 区	酒 井 淳 二	西予市林業課長	
◇	宇 和 島 地 区	三 谷 浩 司	成妙小学校教頭	
◇	愛 南 地 区	吉 田 昌 史	篠山小中学校教諭	
監 事		越 智 淑 人	今治市朝倉支所長	
◇		橋 本 武	東温市教育委員会学校教育課長	
顧 問		城 戸 茂	愛媛大学教育学研究科教授	

※任期：R 4.6.14～R 6.6.15

(参考) 緑の少年団愛媛県連盟規約 抜粋

第9条 役員任期は2年とする。ただし、再選を妨げない。補欠または増員により選任された役員任期は、前任者または現任者の残存期間とする。役員任期満了の場合においても後任者の就任までは、引き続きその職務を行わなければならない。

緑の少年団 学校別一覧表

令和4年7月1日現在

番号	市町	少年団名	学校・地区名	結成時期	団員数	
					学年	人数
1	四国中央市	高文珠山緑の少年団	金生第二小学校	昭和61年12月1日	全	131
2		川滝小学校緑の少年団	川滝小学校	昭和55年4月1日	全	21
3		松柏緑の少年団	松柏小学校	平成2年2月2日	全	451
4		寒川小学校緑の少年団	寒川小学校	昭和60年5月17日	全	264
5		土居小学校緑の少年団	土居小学校	平成3年12月14日	全	180
6		新宮小・中学校緑の少年団	新宮小学校	平成20年7月1日	全	79
		新宮中学校	昭和60年5月1日	全		
7	新居浜市	大生院小学校緑の少年団	大生院小学校	平成21年11月1日	全	237
8	西条市	橘小学校緑の少年団	橘小学校	平成5年10月31日	全	86
9		小松小学校緑の少年団	小松小学校	昭和55年4月1日	4～6	55
10		石根小緑の少年団	石根小学校	昭和56年4月1日	5・6	37
11		庄内緑の少年隊	庄内小学校	昭和62年11月19日	5	11
12		徳田小緑の少年団	徳田小学校	平成15年11月1日	全	38
13		田滝小緑の少年隊	田滝小学校	平成13年9月1日	全	12
14		周布小緑の少年団	周布小学校	令和3年8月10日	全	155
15		今治市	吹揚小学校緑の少年団	吹揚小学校	平成27年10月1日	5・6
16	常盤緑の少年団		常盤小学校	平成8年9月1日	5・6	20
17	今治市立花緑の少年団		立花小学校	平成3年9月1日	5・6	16
18	今治市桜井緑の少年団		桜井小学校	昭和51年9月1日	5・6	138
19	今治市立富田小学校緑の少年団		富田小学校	昭和51年5月1日	5・6	19
20	今治市日高小学校緑の少年団		日高小学校	平成3年9月19日	5・6	17
21	乃万小学校緑の少年団		乃万小学校	平成2年7月1日	5・6	18
22	今治市立国分小学校緑の少年団		国分小学校	平成6年9月16日	全	224
23	朝倉緑の少年団		朝倉小学校	昭和48年5月31日	全	167
24	鴨部小緑の少年団		鴨部小学校	平成9年5月2日	全	87
25	九和小緑の少年団		九和小学校	平成6年6月1日	3～6	71
26	波方小学校緑の少年団		波方小学校	平成19年4月8日	全	229
27	大西小緑の少年団		大西小学校	昭和49年11月1日	5・6	18
28	亀岡小学校緑の少年団		亀岡小学校	平成19年4月1日	全	40
29	吉海小学校緑の少年団		吉海小学校	昭和59年5月1日	全	64
30	宮窪緑の少年団		宮窪小学校	昭和52年10月1日	5・6	5
31	伯方小学校緑の少年団		伯方小学校	昭和55年4月1日	5・6	10
32	上浦緑の少年団		上浦小学校	昭和59年7月30日	4～6	32
33	別宮小学校緑の少年団		別宮小学校	平成29年4月1日	5・6	8
34	鳥生緑の少年団		鳥生小学校	平成29年4月1日	5・6	18
35	近見小学校緑の少年団		近見小学校	平成29年4月1日	5・6	106
36	今治市立清水小学校緑の少年団		清水小学校	平成29年4月1日	全	378
37	波止浜緑の少年団		波止浜小学校	平成29年4月1日	全	298

番号	市町	少年団名	学校・地区名	結成時期	団員数		
					学年	人数	
38	今 治 市	菊 岡 小 学 校 緑 の 少 年 団	菊 岡 小 学 校	平成29年4月1日	5・6	39	
39		大 三 島 小 学 校 緑 の 少 年 団	大 三 島 小 学 校	平成29年4月1日	全	79	
40	上 島 町	上 島 町 魚 島 緑 の 少 年 団	魚 島 小 ・ 中 学 校	平成19年4月1日	小4・中1・3	4	
41		上 島 町 弓 削 小 緑 の 少 年 団	弓 削 小 学 校	平成19年4月1日	4～6	42	
42		上 島 町 生 名 小 緑 の 少 年 団	生 名 小 学 校	平成19年4月1日	1～5	31	
43		上 島 町 岩 城 小 緑 の 少 年 団	岩 城 小 学 校	平成19年4月1日	全	84	
44		松 山 市	味 酒 小 学 校 緑 の 少 年 団	味 酒 小 学 校	平成20年5月20日	全	798
45	松 山 市 立 東 雲 小 学 校 緑 の 少 年 団		東 雲 小 学 校	平成21年5月27日	全	372	
46	松 山 市 立 湯 築 小 学 校 緑 の 少 年 団		湯 築 小 学 校	平成22年4月8日	5・6	23	
47	河 中 緑 の 少 年 隊		日 浦 小 学 校	平成元年11月8日	全	45	
48	坂 本 緑 の 少 年 団		坂 本 小 学 校	昭和56年10月28日	5	56	
49	松 山 市 立 双 葉 小 学 校 緑 の 少 年 隊		双 葉 小 学 校	平成20年9月1日	全・特別支援	638	
50	姫 山 小 学 校 緑 の 少 年 団		姫 山 小 学 校	平成20年9月1日	全	527	
51	立 岩 緑 の 少 年 団		立 岩 小 学 校	昭和60年5月1日	全	15	
52	正 岡 小 学 校 緑 の 少 年 団		正 岡 小 学 校	平成24年5月1日	全	57	
53	北 条 小 学 校 緑 の 少 年 団		北 条 小 学 校	平成10年1月30日	全	437	
54	日 浦 緑 の 少 年 団		日 浦 中 学 校	昭和56年3月3日	全	21	
55	愛 大 附 属 緑 の 少 年 団		愛大附属特別支援学校	平成19年3月1日	小・中全	35	
56	難 波 小 学 校 緑 の 少 年 団		難 波 小 学 校	令和元年6月1日	全	52	
57	東 温 市		上 林 さ さ ゆ り 緑 の 少 年 隊	上 林 小 学 校	昭和53年12月18日	3～6	17
58			西 谷 緑 の 少 年 隊	西 谷 小 学 校	昭和54年1月31日	全	20
59	伊 予 市		北 山 崎 小 学 校 緑 の 少 年 隊	北 山 崎 小 学 校	平成19年11月22日	全	230
60			中 山 小 学 校 緑 の 少 年 隊	中 山 小 学 校	昭和62年11月25日	全	46
61			佐 礼 谷 小 学 校 緑 の 少 年 隊	佐 礼 谷 小 学 校	昭和56年4月1日	全	11
62		下 灘 小 学 校 緑 の 少 年 団	下 灘 小 学 校	昭和58年12月1日	全	31	
63		由 並 小 学 校 緑 の 少 年 団	由 並 小 学 校	昭和58年11月11日	全	42	
64		港 南 中 学 校 み ど り の 少 年 隊	港 南 中 学 校	昭和50年4月1日	全	47	
65		伊 予 中 緑 の 少 年 隊	伊 予 中 学 校	昭和57年5月1日	全	198	
66		双 海 中 学 校 緑 の 少 年 団	双 海 中 学 校	昭和63年10月1日	全	65	
67		砥 部 町	麻 生 小 緑 の 少 年 団	麻 生 小 学 校	昭和60年10月30日	全	437
68	宮 内 小 緑 の 少 年 隊		宮 内 小 学 校	昭和59年9月12日	全	332	
69	砥 部 小 学 校 緑 の 少 年 団		砥 部 小 学 校	昭和58年11月21日	全	247	
70	広 田 小 学 校 緑 の 少 年 団		広 田 小 学 校	平成29年4月1日	全	24	
71	久 万 高 原 町	明 神 小 緑 の 少 年 隊	明 神 小 学 校	平成10年10月1日	全	10	
72		久 万 小 緑 の 少 年 隊	久 万 小 学 校	平成12年11月13日	全	139	
73		畑 野 川 緑 の 少 年 隊	畑 野 川 小 学 校	平成12年10月2日	全	26	
74		直 瀬 緑 の 少 年 隊	直 瀬 小 学 校	平成11年2月26日	全	12	
75		父 二 峰 緑 の 少 年 隊	父 二 峰 小 学 校	平成12年2月28日	全	20	
76		面 河 小 緑 の 少 年 団	面 河 小 学 校	平成18年4月9日	全	8	
77		仕 七 川 小 緑 の 少 年 団	仕 七 川 小 学 校	平成19年11月14日	全	10	
78		美 川 小 緑 の 少 年 団	美 川 小 学 校	平成14年4月1日	全	9	
79		久 万 中 学 校 緑 の 少 年 団	久 万 中 学 校	平成11年4月1日	1	35	
80		美 川 中 緑 の 少 年 隊	美 川 中 学 校	平成元年11月10日	全	27	

番号	市町	少年団名	学校・地区名	結成時期	団員数	
					学年	人数
81	大洲市	肱川小緑の少年隊	肱川小学校	平成26年12月16日	全	81
82		肱川緑の少年団	肱川中学校	平成20年1月1日	全	44
83		大洲東中学校緑の少年団	大洲東中学校	平成28年4月1日	全	44
84		大洲南中学校緑の少年団	大洲南中学校	平成28年4月1日	全	215
85		平野中緑の少年団	平野中学校	令和2年5月19日	全	38
86		平野小学校緑の少年団	平野小学校	令和3年5月7日	全	72
87	内子町	立川小緑の少年団	立川小学校	平成19年1月9日	全	20
88	八幡浜市	神山小学校緑の少年団	神山小学校	平成26年6月13日	5・6	24
89		日土小学校緑の少年団	日土小学校	昭和62年4月1日	5・6	33
90		喜須来小緑の少年団	喜須来小学校	平成20年4月8日	4	27
91	伊方町	伊方小緑の少年隊	伊方小学校	平成9年10月1日	4~6	78
92		九町小学校緑の少年隊	九町小学校	平成20年4月1日	全	38
93		三机小学校緑の少年隊	三机小学校	平成22年7月15日	全	21
94		瀬戸中学校緑の少年団	瀬戸中学校	平成25年10月8日	全	28
95		三崎小緑の少年隊	三崎小学校	平成6年4月1日	全	49
96		伊方中学校緑の少年隊	伊方中学校	平成19年6月8日	全	93
97		三崎中学校緑の少年隊	三崎中学校	平成9年4月1日	全	21
98	西予市	田之筋緑の少年団	田之筋小学校・田之筋地区	昭和58年3月19日	全	58
99		野村小学校緑の少年隊	野村小学校	平成12年4月1日	5	49
100		明浜小緑の少年団	明浜小学校	平成27年4月1日	全	89
101		三瓶小学校緑の少年団	三瓶小学校	昭和61年8月30日	全	182
102		皆田小緑の少年団	皆田小学校	平成29年6月14日	全	71
103		城川中学校緑の少年団	城川中学校	平成13年4月2日	全	39
104		惣川小緑の少年団	惣川小学校	令和3年4月1日	1・3~4・6	7
105	宇和島市	成妙緑の少年団	成妙小学校	昭和61年4月1日	全	38
106		清満緑の少年隊	清満小学校	昭和57年12月7日	全	45
107	松野町	森の国緑の少年団	松野西小学校・松野東小学校	平成30年4月1日	3・4	27
108	鬼北町	愛治緑の少年団	愛治小学校	昭和57年3月4日	3~6	11
109		日吉みどりの少年団	日吉小学校	昭和55年4月1日	全	25
110		三島小・戸祇の子緑の少年団	三島小学校	令和2年4月1日	全	38
111	愛南町	篠南緑の少年隊	篠山小・中学校	昭和53年11月18日	小・中全	17
合 計					-	10,776

参考：全国の緑の少年団数（R4年1月1日現在）

3,122団

320,189人

—編集—

《緑の少年団愛媛県連盟事務局》

愛媛県農林水産部森林局森林整備課

〒790-8570 愛媛県松山市一番町四丁目4-2

T E L 089-912-2597 (直通)

F A X 089-912-2594

E-mail : shinrin@pref.ehime.lg.jp



緑の少年団愛媛県連盟
ロゴマーク
E~もりくん

